

# 第7編 橋 梁

(跨道橋・拡幅橋を含む)

1. 橋梁情報の構成	7-1
1-1 構成	7-1
1-2 作成概要	7-2
2. 橋梁情報の作成方法	7-4
2-1 作成単位	7-4
2-1-1 橋梁データの作成単位	7-4
2-1-2 補足説明書と工事記録収集システムの関係	7-7
2-2 作成タイミング	7-9
2-2-1 建設時	7-9
2-2-2 補修時	7-9
2-3 作成者	7-10
2-3-1 建設時	7-10
2-3-2 補修時	7-10
2-4 作成内容	7-11
2-4-1 【削除】基本資料情報	7-11
2-4-2 工事情報	7-11
3. 橋梁情報の作成定義	7-14
3-1 基本定義	7-14
3-1-1 橋梁の基本単位	7-15
3-1-2 跨道橋の単位	7-20
3-1-3 起・終点と(自)(至)について	7-21
3-1-4 上下線区分	7-22
3-1-5 上下線共有の下部工	7-23
3-1-6 上部工・下部工の区分	7-24
3-1-7 床版、桁、躯体、フーチング区分	7-24
3-1-8 上部工 箇所番号の付与方法	7-26
3-1-9 下部工 橋台・橋脚番号の付与方法	7-28
3-1-10 下部工順番号の付与方法	7-31
3-1-11 補修・補強工事のデータ作成について	7-31
3-1-12 桁増設時の「上部工補修記録」	7-32

3-1-13	補修時の「上部工概要」	7-35
3-1-14	拡幅橋梁のデータ作成について	7-36
3-2	【削除】基本資料情報	7-37
3-2-1	【削除】基本資料資料の作成	7-37
3-2-2	【削除】添付ファイルの命名規則	7-37
3-2-3	【削除】添付ファイルの作成規則	7-37
3-2-4	【削除】平面図	7-37
3-2-5	【削除】一般図	7-37
3-3	工事情報	7-38
3-3-1	橋梁基本情報	7-38
3-3-2	【削除】橋梁基本情報資料	7-41
3-3-3	橋梁属性	7-42
3-3-4	径間情報	7-47
3-3-5	支間情報	7-51
3-3-6	上部工概要	7-53
3-3-7	上部工補修記録	7-59
3-3-8	【削除】上部工補修記録資料	7-66
3-3-9	橋台橋脚番号入力	7-67
3-3-10	下部工（構造物単位）情報	7-72
3-3-11	下部工補修記録	7-79
3-3-12	【削除】下部工補修記録資料	7-80
3-3-13	落橋防止装置	7-81
3-3-14	耐震補強	7-83
3-3-15	基礎工（構造物単位）情報	7-90
3-3-16	塗装概要	7-93
3-3-17	塗装詳細	7-94
3-3-18	支承	7-101
3-3-19	伸縮装置	7-113
3-3-20	【削除】排水管	7-118
3-3-21	排水ます	7-119
3-3-22	検査路	7-121
3-3-23	【削除】壁式高欄	7-123
3-3-24	【削除】改良補修情報	7-123
3-3-25	【削除】改良補修記録資料	7-123
3-3-26	【削除】特記情報	7-123
3-3-27	拡幅橋基本情報	7-124
3-3-28	【削除】拡幅橋基本情報資料	7-125
3-3-29	拡幅橋橋梁属性	7-126
3-3-30	拡幅橋径間	7-131

3-3-31 拡幅橋支間.....	7-134
3-3-32 拡幅橋上部工概要.....	7-136
3-3-33 拡幅橋橋台橋脚番号.....	7-141
3-3-34 拡幅橋下部工.....	7-147
3-3-35 拡幅橋基礎工.....	7-153



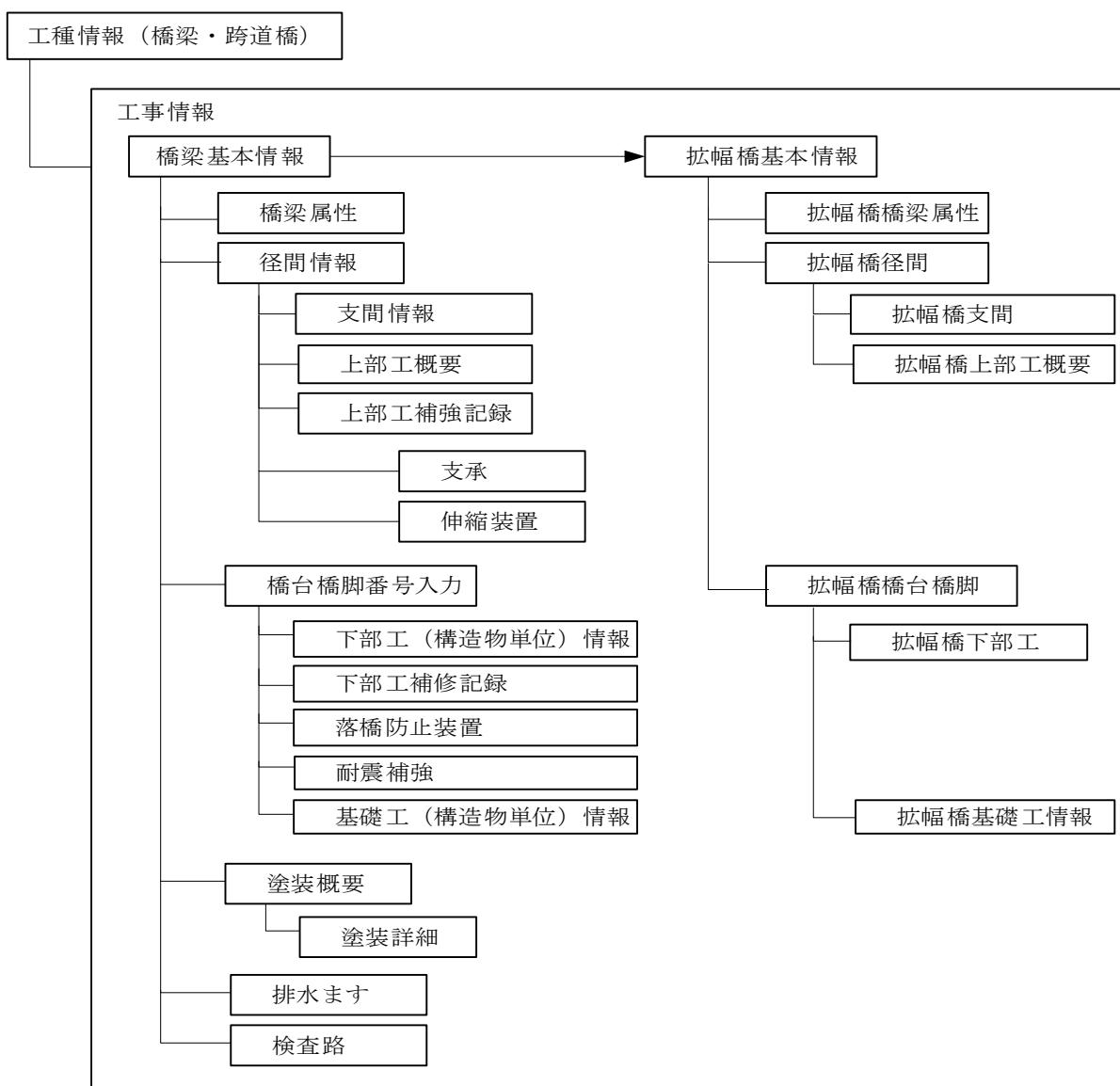
1. 橋梁情報の構成

1-1 構成

橋梁情報とは、橋梁工事（橋梁拡幅工事・跨道橋を含む）の内容を取りまとめたしゅん功書類の1つであると共に、管理部門への引継ぎ資料とするものである。橋梁情報のデータ活用は、高速道路に存在する橋梁部の管理・資産状況を把握する上での基礎データとなるものであり重要な情報である。

橋梁情報の構成は、工事記録収集システムでデータ入力（作成）を行う各種情報に分類されている「工事情報」から成る。

なお、工事記録収集システムへのデータ入力の際に参照した平面図、詳細図等は、必要に応じて監督員に提出すること。



1-2 作成概要

橋梁情報作成にあり「橋梁基本情報」「橋梁属性」「径間情報」「支間情報」「上部工概要」「上部工補修記録」「橋台橋脚番号」「下部工（構造物単位）情報」「下部工補修記録」「落橋防止装置」「耐震補強」「基礎工（構造物単位）情報」「基礎工補修記録」「下部工・基礎工関連テーブル」「塗装概要」「塗装詳細」「支承」「伸縮装置」「排水ます」「検査路」の各情報がある。基本的なデータ作成区分について次表に一覧表で示す。また、データ作成の際に基本とする考え方を次項、作成単位、作成タイミング、作成者に説明する。作成内容では、各項目でのデータ作成に際し記載しているが「2-1. 作成単位」を踏まえデータ作成を実施すること。

データ作成区分表

情報項目	作成単位	作成内容	作成タイミング		作成者				
			建設時	補修時	会社	受注者			
						設計	土工	橋梁	舗装
橋梁基本情報	1 橋梁毎 上部工別	当該橋梁の現在の位置情報を示すもの。	○	○	△	△	○	○	—
橋梁属性	1 橋梁毎 上部工別	完成時区分・橋長・総橋面積・総連数・径間長・連数等を示す。	○	△	△	△	—	○	—
径間情報	1 橋梁の上部工で同一の設計構造種別毎	橋種・連続径間数・構造種別・径間長・最大有効幅員等を示す。	○	△	△	△	—	○	—
支間情報	1 橋梁の上部工で同一の設計構造種別毎	支間長・支間数等を示す。	○	△	△	△	—	○	—
上部工概要	1 橋梁の上部工で同一の設計構造種別毎	架設工法・床版種別・床版厚・主桁高・主桁間隔を示す。	○	△	△	△	—	○	△
上部工補修記録	1 橋梁の上部工毎 (補修箇所毎)	補修箇所・補修年月・補修補強理由・補修補強工法等を示す。	—	○	△	—	—	○	—
橋台橋脚番号入力	1 橋梁毎の上部工別 下部工毎	橋脚の橋台橋脚番号や名称・箇所番号・掛違い区分等を示す。	○	△	△	△	—	○	—
下部工（構造物単位）情報	橋台橋脚番号毎の支柱・フーチング	平均高さ・固定可動・柱本数等を示す。	○	△	△	△	—	○	—
下部工補修記録	1 橋梁の下部工毎 (補修箇所毎)	補修年月・補修箇所・補修工法・損傷原因・補修理由・補修・補強数量等を示す。	—	○	△	—	—	○	—
落橋防止装置	下部工毎	落橋防止装置有無・種別・補修内容を示す。	○	○	△	△	—	○	—
耐震補強	下部工毎	支承縁端距離・RC_巻立て厚さ・補強鋼板情報等を示す。	○	○	△	△	—	○	—

情報項目	作成単位	作成内容	作成タイミング		作成者				
			建設時	補修時	会社	受注者			
						設計	土工	橋梁	舗装
基礎工（構造物単位）情報	橋台橋脚番号 毎の基礎工	基礎工形式・コンクリート体積・鉄筋重量・型枠面積等を示す。	○	△	△	△	○	○	—
塗装概要	1 橋梁	環境区分を示す。	○	△	△	—	—	○	—
塗装詳細	上部工の1連 (箇所番号)毎	塗装系・塗装色・塗装面積・塗装回数等を示す。	○	○	△	—	—	○	—
支承	1 橋梁毎の上部工別の1支承	支承種別・設置又は補修年月・反力・製造メーカー・補修理由・補修内容・重量等を示す。	○	○	△	△	—	○	—
伸縮装置	1 橋梁毎の上部工別の1伸縮装置	種別・延長・製造メーカー・補修理由・補修内容等を示す。	○	○	△	△	—	○	△
排水ます	1 橋梁毎の上部工別 1排水ます	排水ます種別・個数・設置又は補修年月・補修内容等を示す。	○	○	△	△	—	○	—
検査路	1 橋梁毎の上部工別 1橋梁毎	検査路種別・施工数量・設置又は補修年月・補修内容等を示す。	○	○	△	—	—	○	—
拡幅橋 基本情報	1 橋梁毎 上部工別	拡幅部分橋の位置情報を示す。	○	○	△	△	○	○	—
拡幅橋 橋梁属性	1 橋梁毎 上部工別	橋長・総橋面積・総連数・径間長・連数等を示す。	○	○	△	△	—	○	—
拡幅橋 径間	1 橋梁の上部工で同一の設計構造種別毎	橋種・連続径間数・構造種別・径間長・最大有効幅員等を示す。	○	○	△	△	—	○	—
拡幅橋 支間	1 橋梁の上部工で同一の設計構造種別毎	支間長・支間数等を示す。	○	○	△	△	—	○	—
拡幅橋 上部工概要	1 橋梁の上部工で同一の設計構造種別毎	床版種別・床版厚・主桁高・主桁間隔等を示すもの。	○	○	△	△	—	○	△
拡幅橋 橋台橋脚	1 橋梁の上部工毎 (補修箇所毎)	起点側箇所番号・掛け違い区分等を示す。	○	○	△	△	—	○	—
拡幅橋 下部工	橋台橋脚番号 毎の支柱・フーチング	平均高さ・固定可動・柱本数等を示す。	○	○	△	△	—	○	—
拡幅橋 基礎工	橋台橋脚番号 毎の基礎工	基礎工形式等を示す。	○	○	△	△	○	○	—

※ 記号の凡例 ○：データ作成 △：一部作成 —：作成無

2. 橋梁情報の作成方法

2-1 作成単位

作成単位では、橋梁のデータ作成に関する基本的な考え方を「2-1-1 橋梁データの作成単位」で示すと共に、補足説明書と工事記録収集システムの画面との関係を「2-1-2 補足説明書と工事記録収集システムの関係」で示すものである。

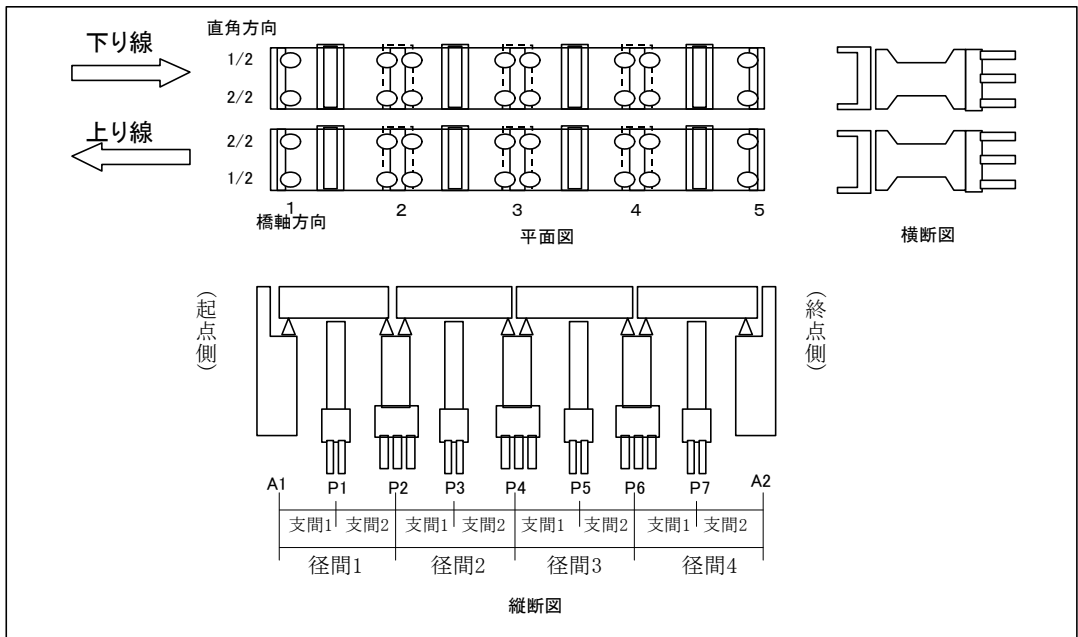
2-1-1 橋梁データの作成単位

データ作成の対象とする橋梁は、本線、IC等に存在する全ての橋梁及び跨道橋とし、1橋梁単位で入力する。橋梁単位とは、同一の名称で呼ばれる橋梁を指しており、データ作成は1橋梁単位の径間・支間毎に下部工との連携を図り作成すること。

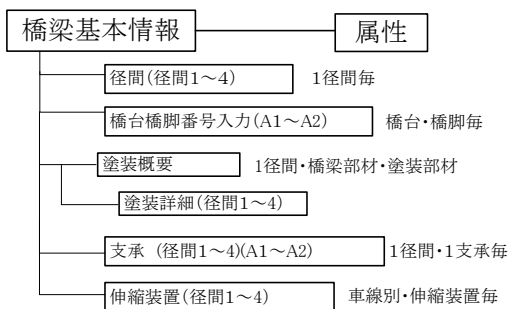
加えて、橋梁のデータは、橋梁基本情報で作成した上部工の上下線区分に従って作成する。下部工のデータについても、各々上部工の上下線区分に従ってデータ作成する。

(1) 上線・下線で、橋梁が分離している場合

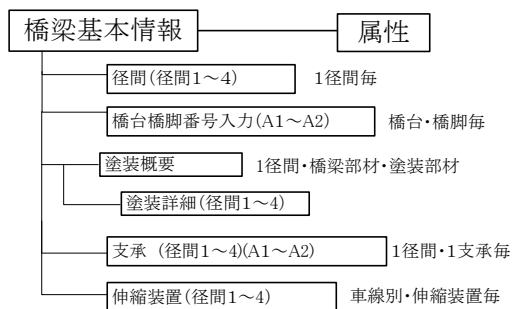
同一橋梁名で、上部工・下部工ともに構造が上下線に分離している場合は、「橋梁基本情報」を上り線・下り線ごとに作成し、上部工、下部工等のデータについても上下線別に、各々作成する。



下り線のデータ



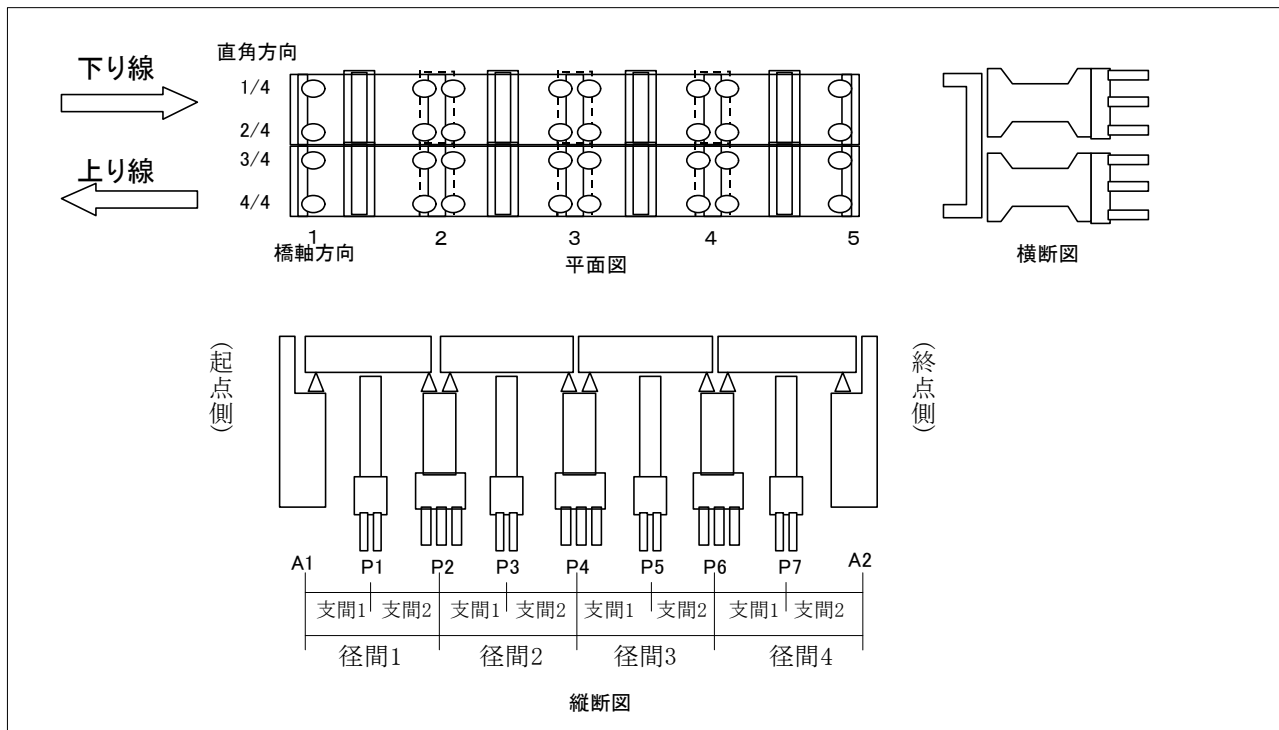
上り線のデータ



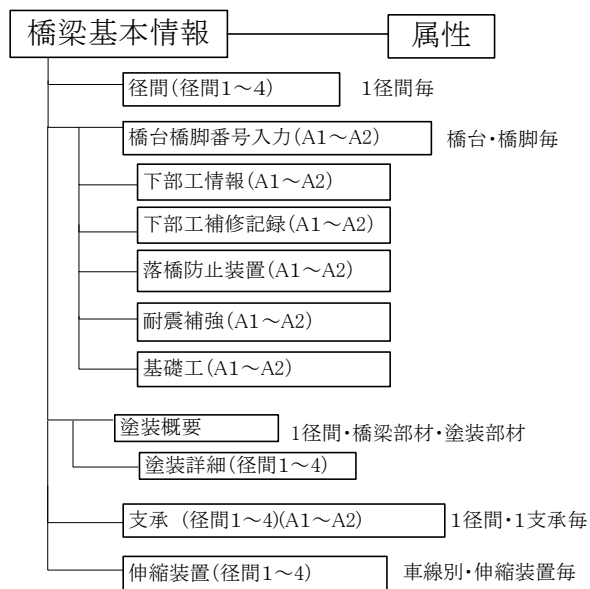


(2) 上部工が上下線一体の橋梁の場合

上部工が上下線共有で、下部工が上り線・下り線で分離している場合は、上部工の構造に従って、下部工のデータも上下線共有として、作成する。



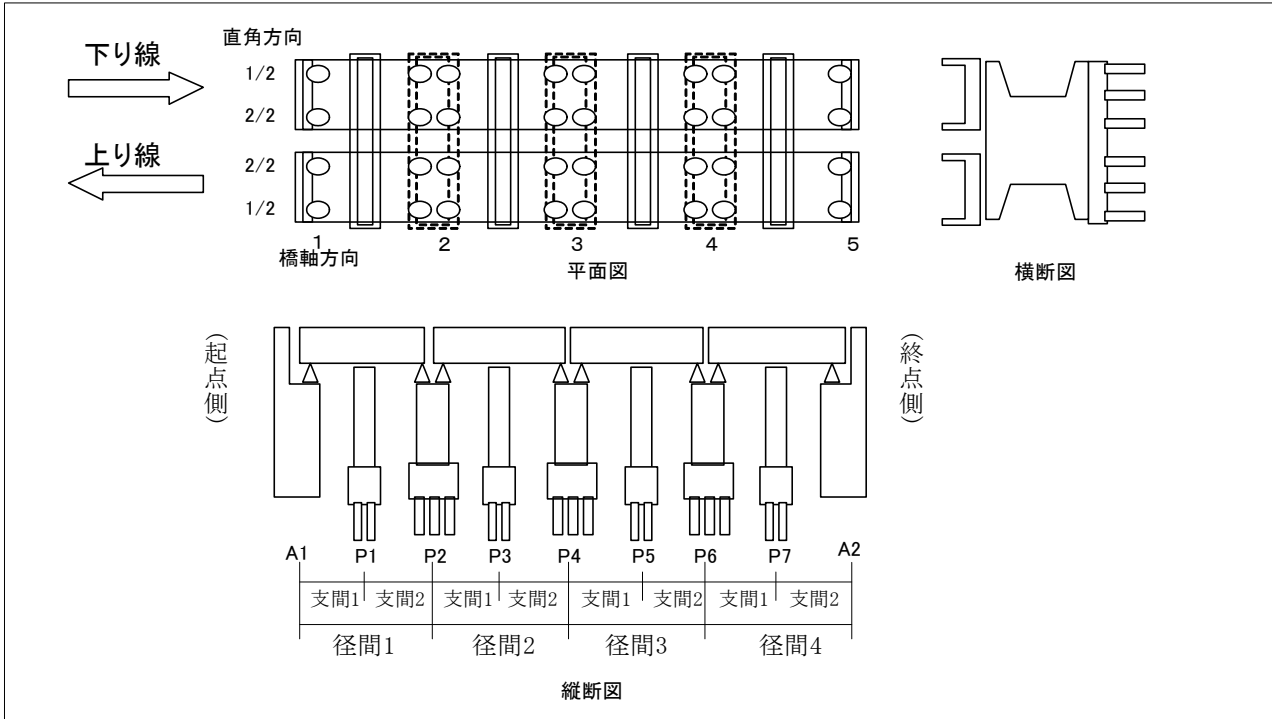
上下線共有のデータ



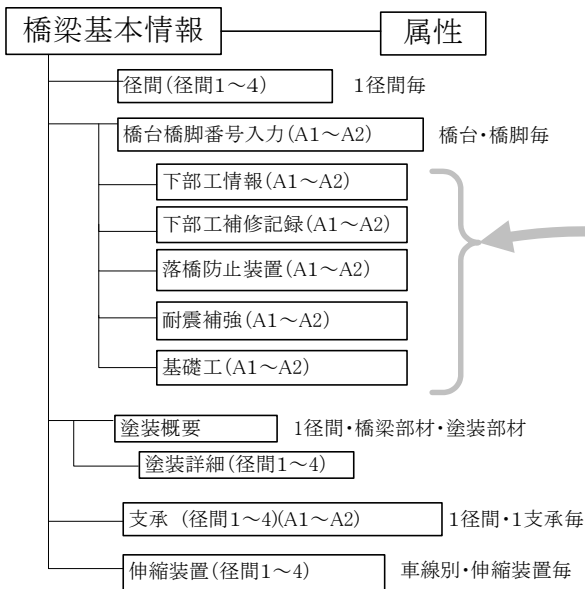
第7編 橋梁

(3) 上部工が上下線分離で、下部工が上下線一体の場合

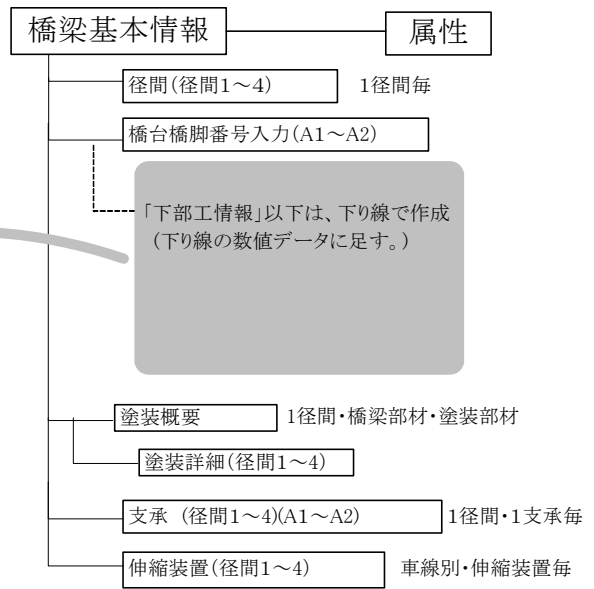
上部工が上線・下線で分離しているが、下部工が上下線で一体の構造の場合は、上部工は上線・下線にデータ作成するが、下部工は下り線に上下線一体のデータを作成する。



下り線のデータ



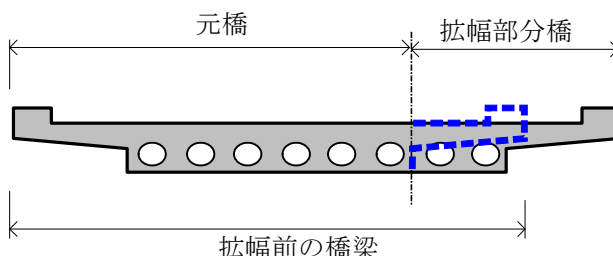
上り線のデータ



2-1-2 補足説明書と工事記録収集システムの関係

工事記録収集システムの入力画面では、工種の中で橋梁と跨道橋を選択できる。各工種の中で元橋と拡幅部分橋の入力画面が用意されている。

〈元橋、拡幅部分橋の区分別〉



下表の星取りで、○印が付いているものは、占用の入力画面が用意されている。拡幅部分橋で△印の欄については、各元橋の入力画面を共有するものである。

補足説明書の項見出し	工事記録収集システム の入力画面	工事記録収集システム 「橋梁」の入力画面名		工事記録収集システム 「跨道橋」の入力画面名	
		元橋	拡幅部分橋	元橋	拡幅部分橋
3-3-1 橋梁基本情報		○		○	
3-3-3 橋梁属性		○		○	
3-3-4 径間情報		○		○	
3-3-5 支間情報		○		○	
3-3-6 上部工概要		○		○	
3-3-7 上部工補修記録		○	△	○	△
3-3-9 橋台橋脚番号入力		○		○	
3-3-10 下部工(構造物単位)情報		○		○	
3-3-11 下部工補修記録		○	△	○	△
3-3-13 落橋防止装置		○	△	○	△
3-3-14 耐震補強		○	△	○	△
3-3-15 基礎工(構造物単位)情報		○		○	
3-3-16 塗装概要		○	△	○	△
3-3-17 塗装詳細		○	△	○	△
3-3-18 支承		○	△	○	△
3-3-19 伸縮装置		○	△	○	△
3-3-21 排水管ます		○	△	○	△
3-3-22 検査路		○	△	○	△
3-3-27 拡幅基本情報			○		○
3-3-29 拡幅属性			○		○
3-3-30 拡幅径間			○		○

第7編 橋梁

工事記録収集システム の入力画面 補足説明書の項見出し	工事記録収集システム 「橋梁」の入力画面名		工事記録収集システム 「跨道橋」の入力画面名	
	元橋	拡幅部分橋	元橋	拡幅部分橋
3-3-31 拡幅支間		○		○
3-3-32 拡幅上部工概要		○		○
3-3-33 拡幅橋台橋脚番号入力		○		○
3-3-34 拡幅下部工		○		○
3-3-35 拡幅基礎工		○		○

## 2-2 作成タイミング

橋梁データを作成するタイミングは、「建設時」、「補修時（供用後管理段階）」の2つに大別される。

なお、工事記録収集システムへのデータ入力は、工事等の進捗に併せて適宜実施すること。

### 2-2-1 建設時

建設時での工事情報（データ）作成は、設計受注者が作成したデータを各工事の担当受注者が、工事の進捗に併せて、適宜データ修正・データ追加を行うものである。

橋梁工事では上部工・下部工で受注者が異なるケースが多く、データ作成が部分的なものとなり、データ欠如の原因となっている。

橋梁のデータ作成では、設計業務の実施後に必ず橋梁全体のデータ作成を実施し、各工事内容や構造形式に合ったデータを作成し完成させること。

### 2-2-2 補修時

補修時のデータ作成では、補修記録の作成を行うと共に既存データの修正が必要である。

橋梁の形状等に変更等がある場合は、監督員の指示に従い基本情報等についてもデータの作成を実施すること。

また、改築工事等では建設時のデータ作成に準じて実施すること。

## 第7編 橋梁

### 2-3 作成者

建設時におけるデータ作成者は、設計受注者が橋梁の基本情報（データ）並びに主要な部分を作成する。

橋梁工事受注者は、全てのデータについて確認・修正・追加を実施し、該当する橋梁のデータを完成させる。加えて、橋梁の摺付け部等で実施した土工工事に関する情報についても、データ修正・追加を実施すること。

土工工事・橋梁工事の情報は、舗装段階で舗装工事受注者に引き渡され、完成した時点で舗装工事分のデータ追加・修正（撤去等）を実施する。

補修時（供用後管理段階）においては、橋梁工事受注者がデータを作成する。ただし、橋梁工事受注者では作成できない情報（例えば、補修理由）については監督員に確認して作成することとする。

#### 2-3-1 建設時

作成者	作成内容
監督員	業務内容とデータ内容・件数を確認する。
設計受注者	当該橋梁の基本情報や設計情報等を作成する。
土工工事受注者	当該土工工事に関する全てのデータを作成する。
橋梁工事受注者	当該橋梁工事に関する全てのデータを作成する。 当該橋梁工事に関連する土工部の情報を作成する。
舗装工事受注者	当該舗装工事に関する全てのデータを作成する。

#### 2-3-2 補修時

作成者	作成内容
監督員	業務内容とデータ内容・件数を確認する。
橋梁工事受注者	当該橋梁工事に関する全てのデータを作成する。

## 2-4 作成内容

## 2-4-1 【削除】基本資料情報

## 2-4-2 工事情報

工事記録収集システムに入力する主なデータ項目は、以下のものがある。

情報名	主な項目
橋梁基本情報	支社局(名)、事務所(名)、道路名、上下線区分、ルート区分、完成暫定区分、IC名、橋梁名、測点、設置箇所、連絡等施設名、供用年月日
橋梁属性	完成時上下線区分、完成時ルート区分、橋分類、設計活荷重、橋長、総橋面積、総連数、径間長、連数、管理者
径間情報	箇所番号、橋台・橋脚番号、橋種、連続径間数、構造種別、径間長、支間長(合計)、最大・最小有効幅員、橋面積、形状、斜角最小角、設計震度(水平・垂直)、設計契約番号、施工契約番号、示方書年度、設計要領以外の示方書名
支間情報	支間順序番号、橋台・橋脚番号、支間長
上部工概要	上部工しゅん功年月、架設工法、床版種別、床版支間、床版厚、主桁高、主桁間隔、主桁本数、舗装種別、舗装厚、継手の種別、床版コンクリート体積、床版鉄筋重量、コンクリート体積、鉄筋重量、型枠面積、PC鋼材縦締重量、PC鋼材横締重量、PC鋼材その他重量、総鋼橋重量、設計契約番号、施工契約番号、工費
上部工補修記録	補修箇所、補修年月、補修補強理由、補修補強工法、補修・補強数量、補修・補強数量単位、材料、数量、使用材料名、損傷原因、コメント、補修位置・直角方向、補修位置・橋軸方向、設計契約番号、施工契約番号、示方書年度
橋台橋脚番号入力	下部工順番号、橋台・橋脚番号、橋台橋脚名称、掛違い区分
下部工(構造物単位)情報	平均高さ、固定可動、示方書年度、柱本数、フーチングの橋軸方向・橋軸直角方向・最大厚さ、基数、検査路有無、検査梯子有無、本線昇降梯子有無、横断検査路有無、設計震度(水平・鉛直)、コンクリート体積、鉄筋重量、型枠面積、下部工しゅん功年月、設計契約番号、施工契約番号
下部工補修記録	補修年月、補修箇所、補修工法、損傷原因、補修理由、補修・補強数量、単位、使用材料、コメント、材料、数量 設計契約番号、施工契約番号、示方書年度
落下物防止装置	落下物防止有無、種別、設置箇所数、使用材料、補修内容、施工契約番号
耐震補強	支承縁端距離、けたかかり長、変位制限構造の有無、 RC：巻立て厚さ・設計強度・軸鉄筋_径 間隔・帯鉄筋_径 間隔、・中間拘束筋・フーチングアンカーの有無 炭素：橋軸方向・垂直方向・フープ方向 鋼板：補強鋼板・鋼板部材厚・注入材・現場継手 その他補強、適用基準_名称・年月、適用基準_発行元、施工番号、施工年、施工月
基礎工(構造物単位)情報	杭基礎：杭長平均・杭径・内径・本数・鉄筋重量 ケーソン：寸法橋軸方向・寸法橋軸直角方向・コンクリート体積・鉄筋重量・型枠面積 設計契約番号、施工契約番号

第7編 橋梁

情報名	主な項目
塗装概要	環境区分
塗装詳細	箇所番号、上塗完了時期、橋台・橋脚番号(自)、橋台・橋脚番号(至)、 塗装色、塗装面積、塗装回数、塗装面内外区分、施工概要、部材名、 プライマー種別 下塗1：塗料種別・塗装名・回数・量 下塗2：塗料種別・塗装名・回数・量 中塗1：塗料種別・塗装名・回数・量 中塗2：塗料種別・塗装名・回数・量 上塗：塗料種別・塗装名・回数・量 塗料メーカー、ケレン種別、素地対象面積、補修理由、塗装部材、塗装 程度、施工契約番号
支承	箇所番号、橋台・橋脚番号(自)、橋台・橋脚番号(至) 支承登録番号、測点、支承種別 設置又は補修年月、反力、製造メーカー、補修理由、補修内容 重量、直角方向、橋軸方向、橋軸方向位置、支承名_直角方向位置 施工契約番号
伸縮装置	箇所番号、伸縮装置登録番号、伸縮装置管理番号、測点 車線区分、種別、延長 製造メーカー、補修理由、補修内容 設計遊間、設計気温、補修時遊間、補修時気温、斜角、方向、後打ち 材、伸縮装置製品名、橋軸方向、重量 施工契約番号
排水ます	測点、横断位置、方向(左右路肩の区分)、ふた固定区分、排水ます種 別、個数 設置又は補修年月、補修内容、施工契約番号
検査路	橋台・橋脚番号(自)、橋台・橋脚番号(至) 検査路種別、施工数量、単位、測点 設置又は補修年月、補修内容、施工契約番号
拡幅橋基本情報	供用年月日
拡幅橋橋梁属性	設計活荷重、橋長、総橋面積、総連数、径間長、連数、管理者
拡幅橋径間	箇所番号、橋台・橋脚番号、橋種、連続径間数、構造種別、径間長、支 間長(合計)、最大・最小有効幅員、橋面積、 設計契約番号、施工契約番号、示方書年度、設計要領以外の示方書名
拡幅橋支間	支間順序番号、橋台・橋脚番号、支間長
拡幅橋上部工概要	上部工しゅん功年月、床版種別、床版支間、床版厚、主桁高、主桁間 隔、主桁本数、補強桁の有無、設計契約番号、施工契約番号
拡幅橋橋台橋脚	下部工順番号、橋台・橋脚番号、橋台橋脚名称、掛違い区分
拡幅橋下部工	平均高さ、固定可動、示方書年度、柱本数、基数、 下部工しゅん功年月、設計契約番号、施工契約番号
拡幅橋基礎工	杭基礎：杭長平均・杭径・内径・本数 ケーソン：寸法橋軸方向・寸法橋軸直角方向 設計契約番号、施工契約番号



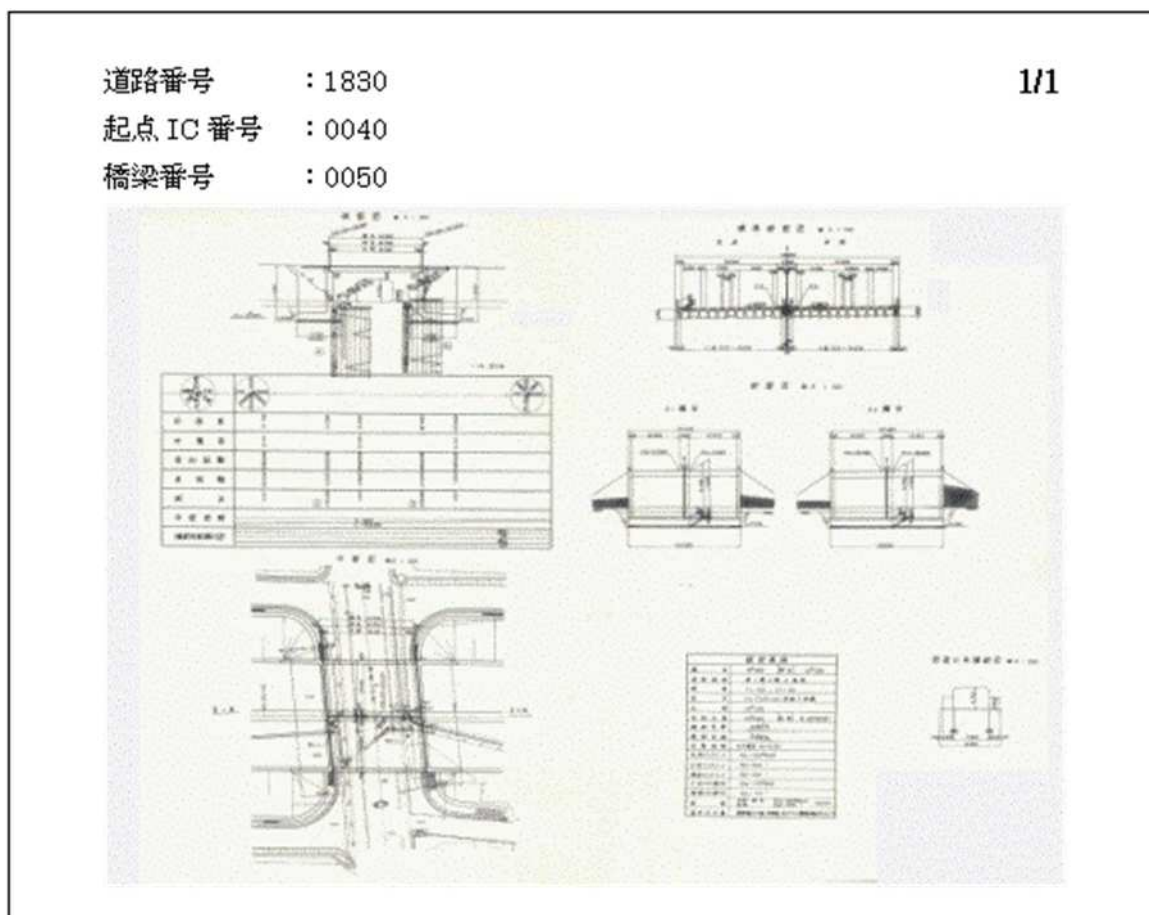
ただし、工事情報の内容確認するために下表の資料について、必要に応じて監督員に提出すること。

資料名	資料の概要
平面図	橋梁の位置を示すもので、橋梁番号を付与したもの。
一般図	橋梁一般図等の橋梁の設計情報が把握できるもの。
写真	特殊な材料、支承、伸縮装置等。
その他	設計や施工の際にもちいた文献。

(1) 一般図

(a) 一般図の作成方法

- (ア) 図面は、A3 とする。
- (イ) 各図面に、道路番号、起点 IC 番号及び橋梁番号を入力する。
- (ウ) 図面の右上に、橋梁番号毎の枚数を「通し番号/全体枚数」で入力する。



3. 橋梁情報の作成定義

3-1 基本定義

基本定義では、橋梁データ作成に先立って入力データの基本単位及び判断基準を下表でケース毎に定義するので、確認の上データ作成を行うこととする。

【 基本単位及び判断基準 】

項	ケース
3-1-1	橋梁の基本単位
3-1-2	跨道橋の単位
3-1-3	起・終点と(自)(至)について
3-1-4	上下線区分
3-1-5	上下線共有の下部工
3-1-6	上部工・下部工の区分
3-1-7	床版、桁、躯体、フーチング区分
3-1-8	上部工 箇所番号の付与方法
3-1-9	下部工 橋台・橋脚番号の付与方法
3-1-10	下部工順番号の付与方法
3-1-11	補修・補強工事のデータ作成について
3-1-12	桁増設時の「上部工補修記録」
3-1-13	補修時の「上部工概要」
3-1-14	拡幅橋梁のデータ作成について

3-1-1 橋梁の基本単位

橋梁のデータ作成に際し、基本とするデータの単位について下表のケースを以下に示す。

項	ケース
(1)	橋梁名とデータ
(2)	上下線分割橋梁の場合
(3)	1橋梁に上下線区分が混在する場合
(4)	上り線(下り線)のみ橋梁の場合(完成時)
(5)	上り線(下り線)の橋梁間に土工が入る場合(完成時)
(6)	橋梁が連続し、同一橋脚で橋梁名が異なる場合
(7)	横断方向に複数の分割橋梁がある場合
(8)	本線橋とランプ橋がある場合(バスレーン橋含む)
(9)	カルバートボックスに橋梁名が付与されている場合

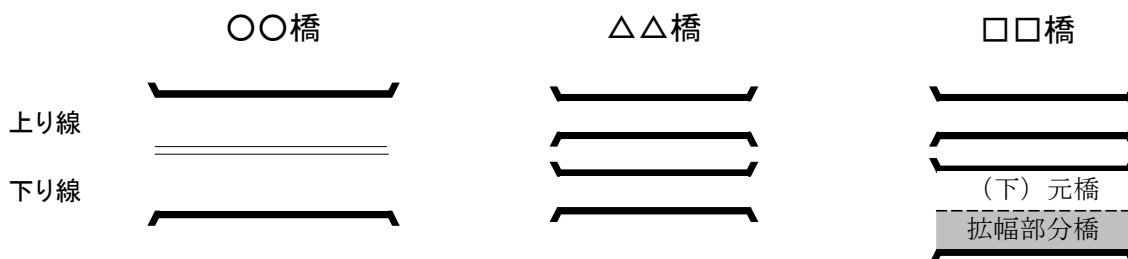
(1) 橋梁名とデータ

1橋梁の単位は、同一名称で呼ばれる橋梁を指すものであるが、データ入力については上部工の上下線区分(形式)によるものである。

上部工が上下線共有(〇〇橋)の場合は、1橋を上下線共有でデータ入力する。

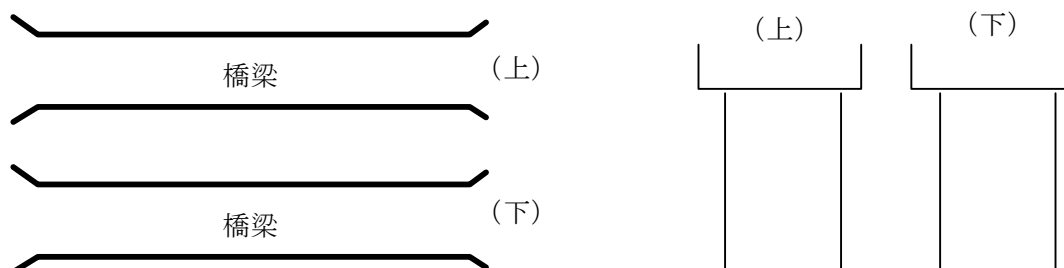
上部工が上下線分離(△△橋)の場合は、上り線で1橋、下り線で1橋のデータを入力する。

上部工が上下線分離し拡幅(□□橋)の場合は、上り線で1橋、下り線の1橋(元橋)、下り線拡幅部分橋で1橋のデータを入力する。



(2) 上下線分割橋梁の場合

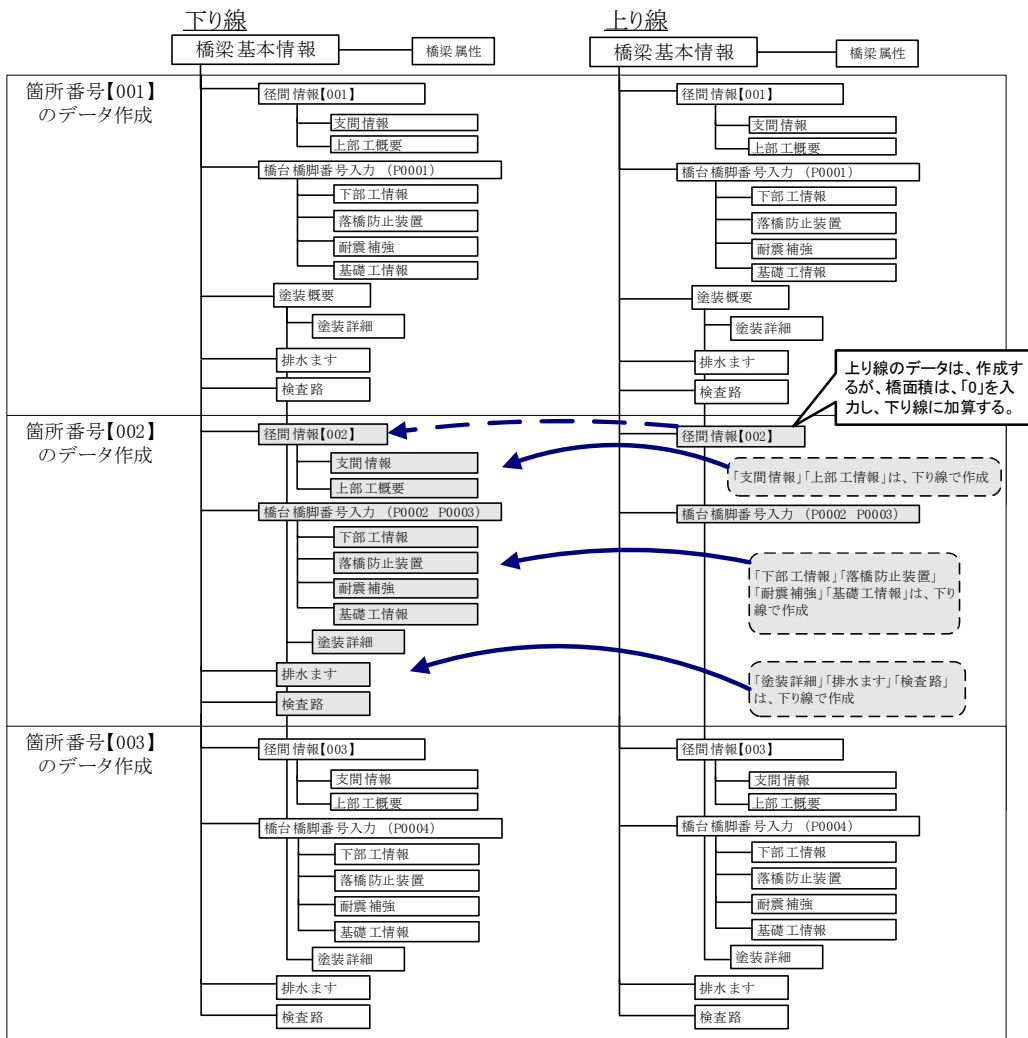
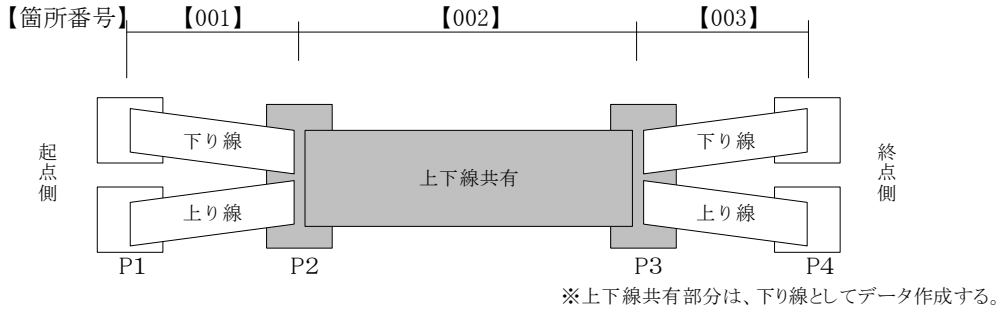
上り線、下り線別に橋梁データを作成することとする。



第7編 橋梁

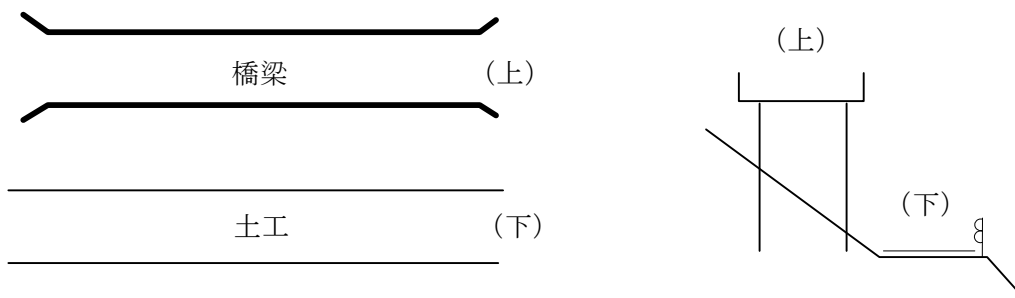
(3) 1橋梁に上下線区分が混在する場合

1橋梁名の中に上下線の区分が、混在する場合は上下線別にデータ作成し、上下線共有区間の数値に関するデータは下り線に加算するものとする。



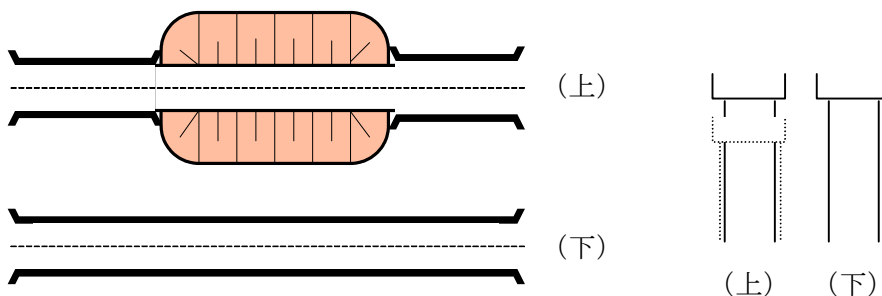
(4) 上り線(下り線)のみ橋梁の場合 (完成時)

上り線若しくは下り線のみ橋梁として扱う。下図の様に、上り線のみ橋梁の場合は上り線のみ橋梁とする。



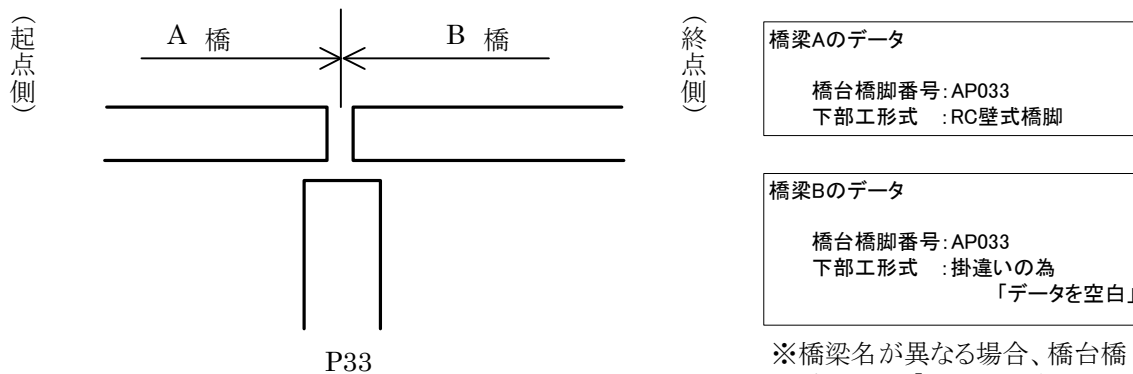
(5) 上り線(下り線)の橋梁間に土工が入る場合 (完成時)

一橋梁名 (橋名板が同じ場合) で、橋梁途中に土工区間を挟む場合は、001 と 002 を合わせて一橋梁とする。



(6) 橋梁が連続し、同一橋脚で橋梁名が異なる場合

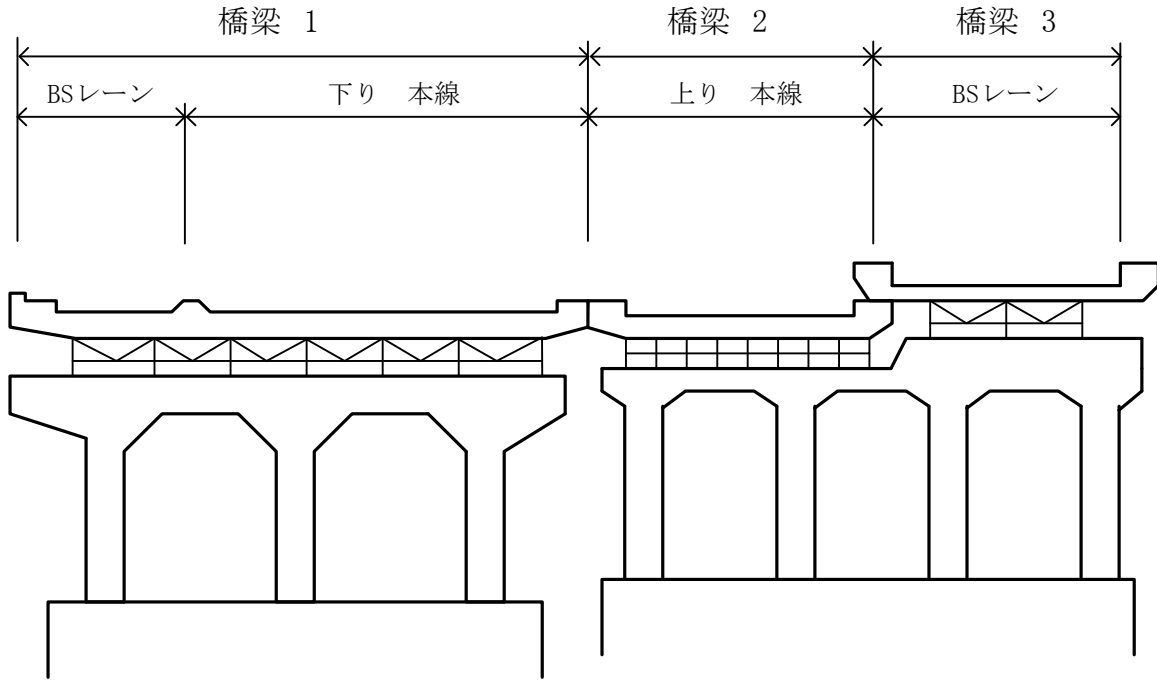
橋梁が連続し、同一橋脚で橋梁名が異なる場合は、A 橋で 1 橋、B 橋で 1 橋のデータを入力するが、下部工 (P33) のデータは、起点側の A 橋にデータを含み、B 橋での下部工データは、下部工形式コードを「掛違いの為データを空白」とする。



※橋梁名が異なる場合、橋台橋脚番号は「AP000」とする。

(7) 横断方向に複数の分割橋梁がある場合

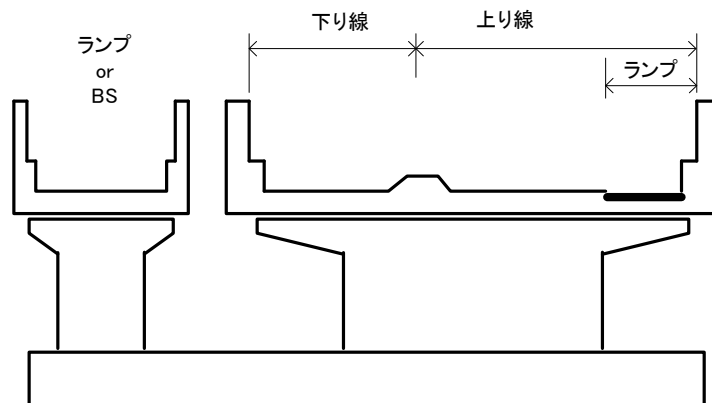
同一橋梁名の時は、その構造を考慮してデータ作成を実施すること。(下記の場合は3橋となる)



(8) 本線橋とランプ橋がある場合 (バスレーン橋含む)

下図のように下り線ランプ橋が、本線橋上部工と分かれている場合は、本線橋、ランプ橋に区分する。

ただし、ランプ橋で、C、D ランプ一体構造の場合は、ランプ名の若いランプ橋 (C ランプ橋) として作成する。

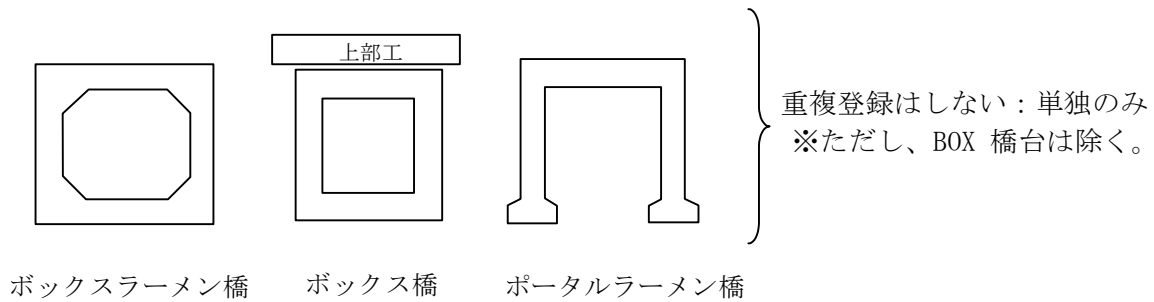


(9) カルバートボックスに橋梁名が付与されている場合

カルバートボックス構造であるが、以下の条件で管理するものについては、橋梁としてデータ作成を実施すること。

カルバートボックスの天端を床版とし、舗装が敷かれているもの。

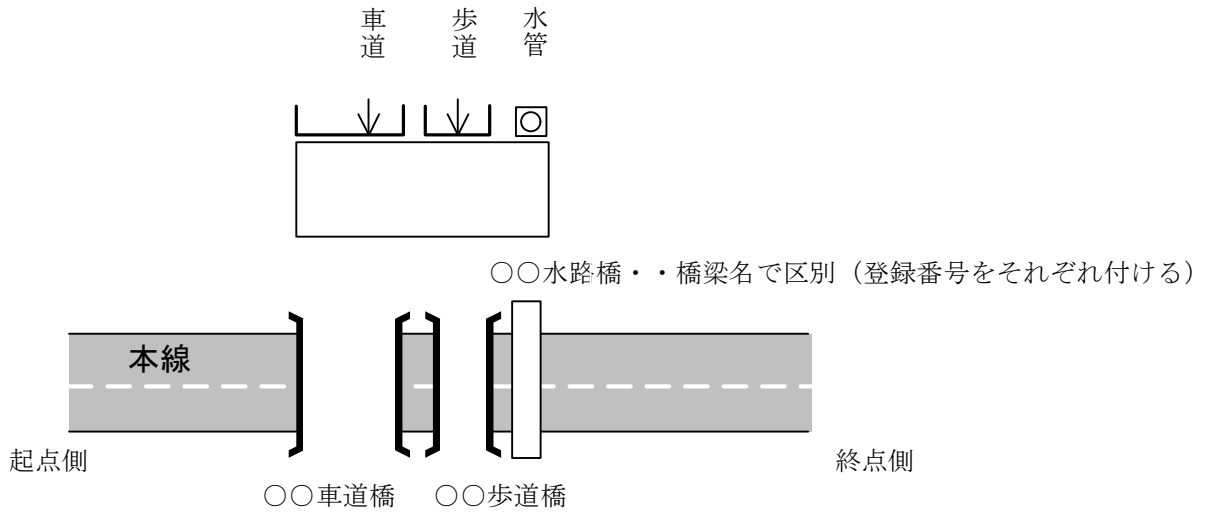
カルバートボックスに橋梁名を付与するもの。



3-1-2 跨道橋の単位

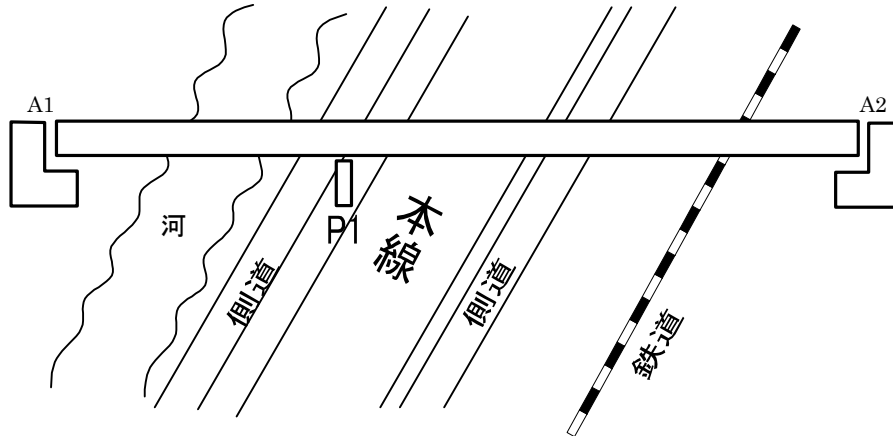
(1) 跨道橋の区分

跨道橋などで車道、歩道、水管などそれぞれ上部工が別れている場合もそれぞれ一橋とする。(橋梁名のコード申請が必要)



(2) 跨道橋、ランプ橋が本線以外の部分も跨ぐ場合

跨道橋に本線以外の部分を含んでいる時、全てのデータ (A1~A2) を作成するものとし、ランプ橋も跨道橋も上部工が分かればそれぞれ一橋とする。

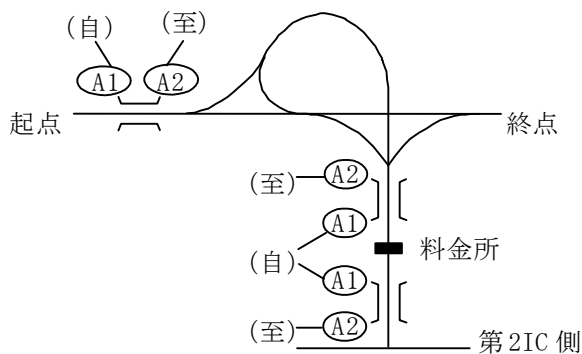




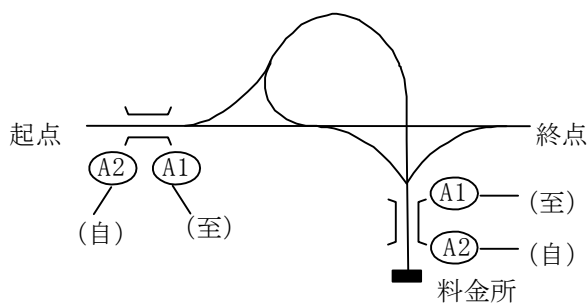
3-1-3 起・終点と(自)(至)について

上部工・下部工の起終点と橋台橋脚番号(自)と(至)については以下のとおりである

- (1) 本線の起点は、測点(KP)が若い方とし、ランプの起点は、料金所側とする。
- (2) 橋台橋脚番号(自)・・・本線起点側及びIC料金所側の下部工
- (3) 橋台橋脚番号(至)・・・本線終点側及びICの本線側及び第2IC側の下部工



- (4) A1, A2 が逆転している路線でも下図のとおりである。なお、ランプ橋等の場合、起点側が明確でない橋梁は、測点 N0 の若い方を起点側とする。



3-1-4 上下線区分

上下線区分は、上部工の形式で区分する。橋梁基本情報で区分する上下線に従い橋梁属性以下の情報は、同じ上下線区分を入力する。

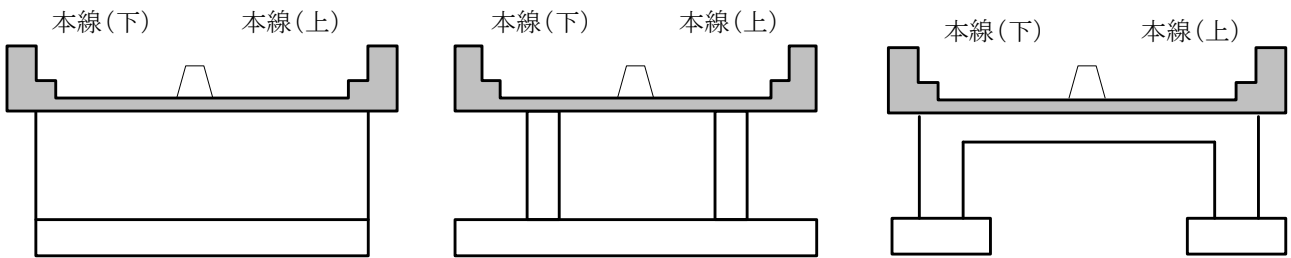
上下線区分の時期については、現在の上下線区分を入力するものである。

しかし、建設段階で暫定供用予定の場合は、暫定供用時の上下線区分を入力する。

下図のハッチング部は、上部工を示す。

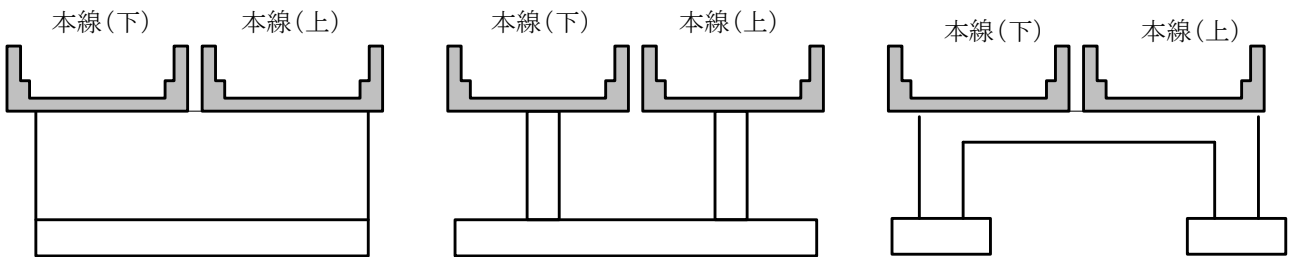
(1) 上下線共有

上部工が、上下線で一体の場合は、「上下線区分」= “上下線共有” とする。



(2) 上下線分離

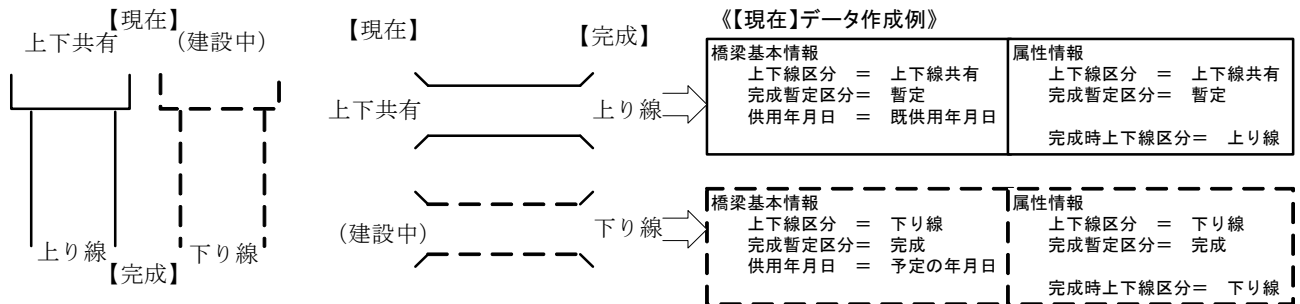
上部工が、上下線で分離の場合は、「上下線区分」= “上り線” “下り線” とする。



(3) 暫定供用時の上下線区分

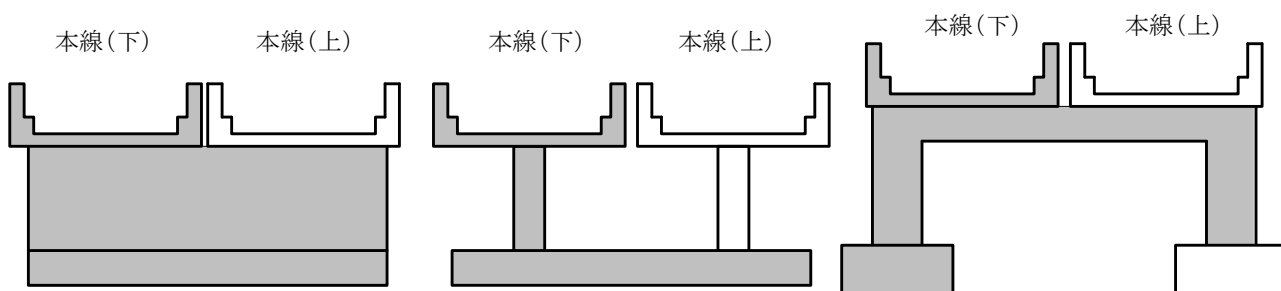
暫定供用時の上下線区分(及びルート区分)は、現在(供用時点)の上下線区分を入力する。

なお、下図の場合は下り線が完成し供用時した際に、上り線の上下線区分は【完成】の上り線にデータ修正し、完成暫定区分は完成にする。供用年月日は、既供用年月日のままとする。

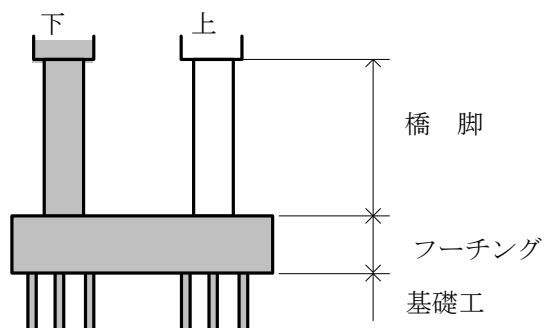


3-1-5 上下線共有の下部工

上下線共有の橋台橋脚データの入力方法を下図に示す。なお、目地切れしているものは上下別で入力する。下図のハッチング部は、下り線に属することを示す。



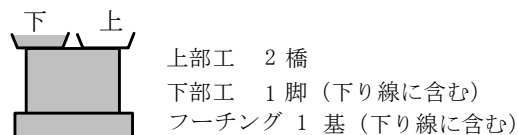
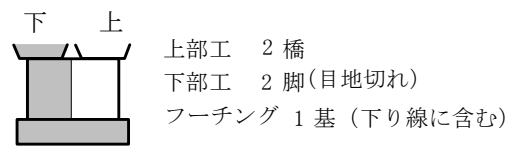
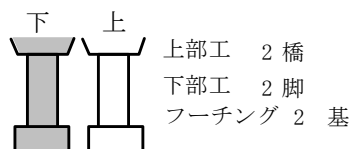
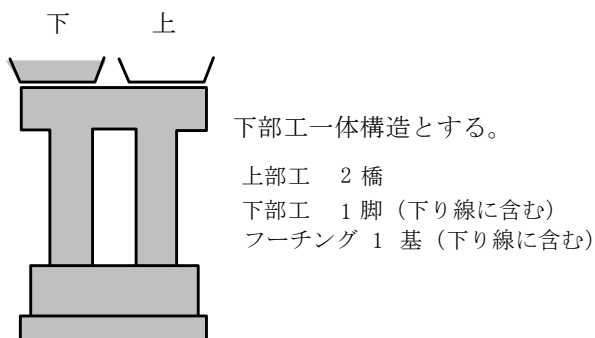
・躯体と基礎構造の区分は、フーチングは躯体（下部工）に区分する。



【構造形式】  
 橋脚 : 上下線別々  
 フーチング: 上下線共有  
 基礎工 : 上下線共有

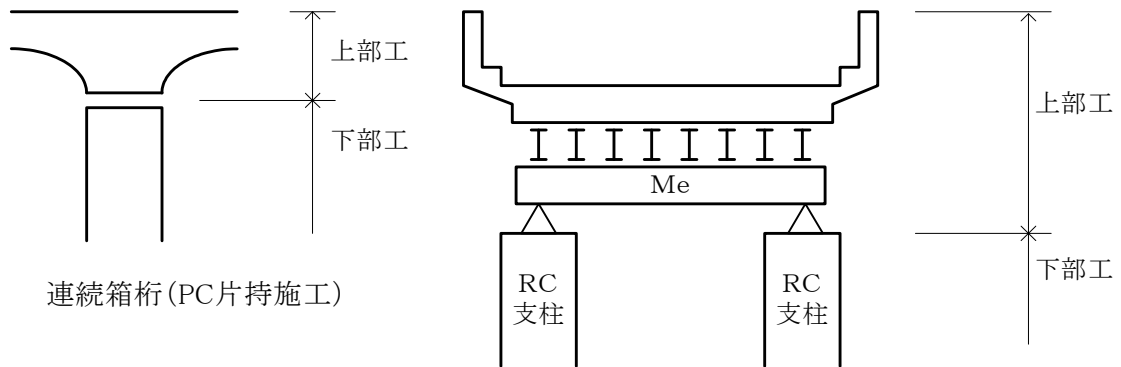
【データ入力】  
 橋脚 : 上下線別々  
 フーチング: 下り線に含む  
 基礎工 : 下り線に含む

・フーチングより上の躯体（橋脚/橋台）により上下線を区別する。

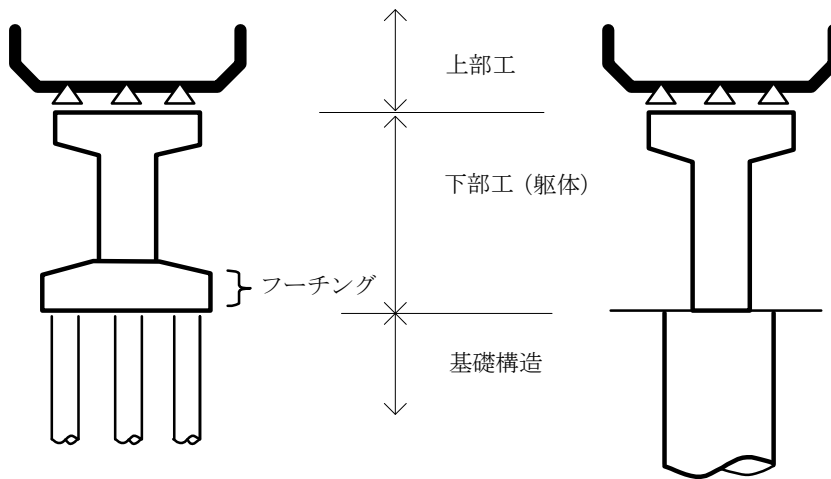


3-1-6 上部工・下部工の区分

基本的に上・下部工の区分は、橋脚の天端より上を上部工とし、橋脚の天端より下を下部工とする。



連続箱桁(PC片持施工)

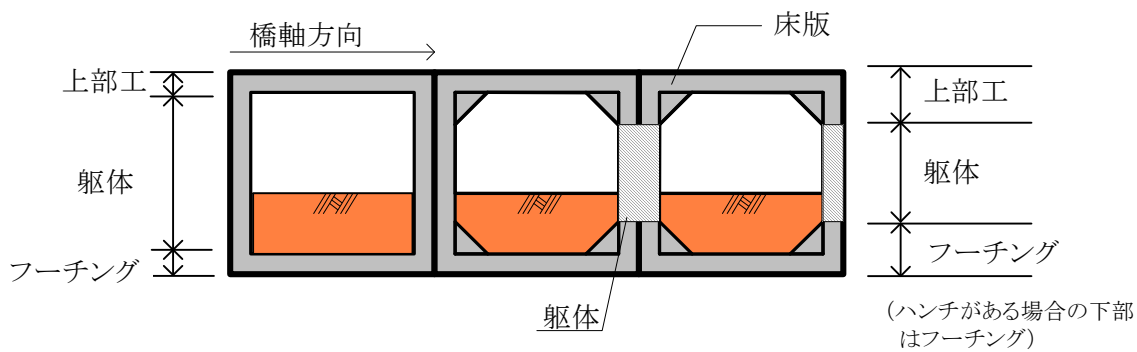


3-1-7 床版、桁、躯体、フーチング区分

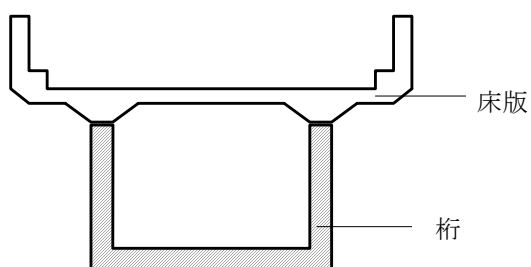
橋梁について、床版、桁、躯体、フーチングの指標を以下に示す。

項目	ケース
(1)	連続ボックスラーメン橋
(2)	箱桁
(3)	アーチ橋
(4)	ポータルラーメン橋
(5)	ボックス橋
(6)	ロッキング橋脚

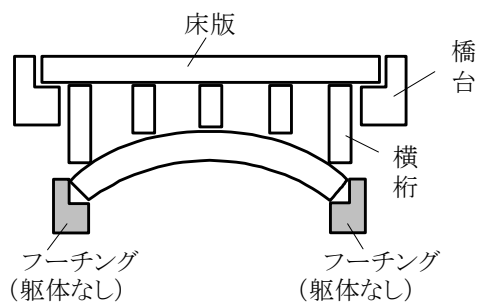
(1) 連続ボックスラーメン橋



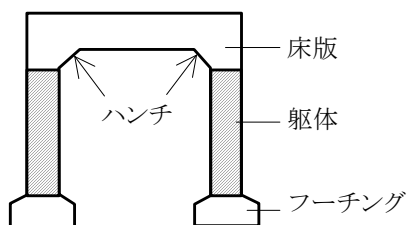
(2) 箱橋



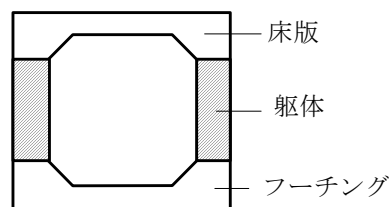
(3) アーチ橋



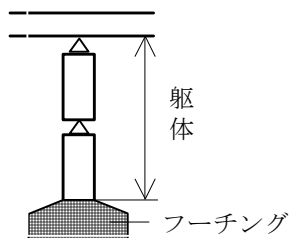
(4) ポータルラーメン橋



(5) ボックス橋



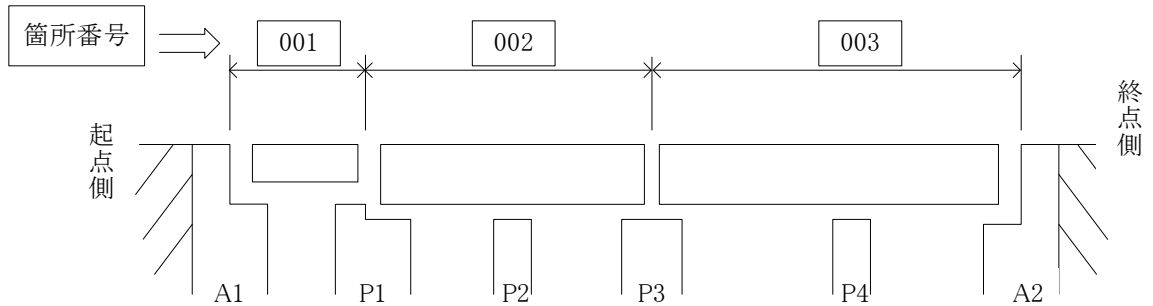
(5) ロッキング橋脚



3-1-8 上部工 箇所番号の付与方法

上部工の箇所番号は、一連毎に3桁までの番号で付与するものである。

【作成例】



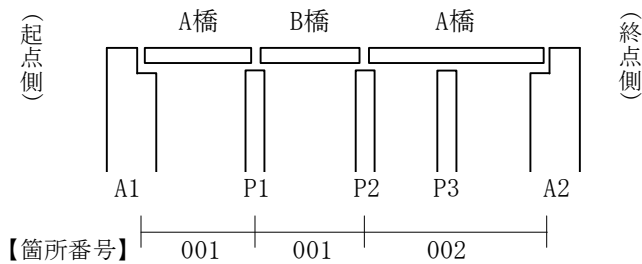
また、下表に示すケースを以下に示す。

項目	ケース
(1)	複数橋梁が連続する場合
(2)	ゲルバー橋の場合

(1) 複数橋梁が連続する場合

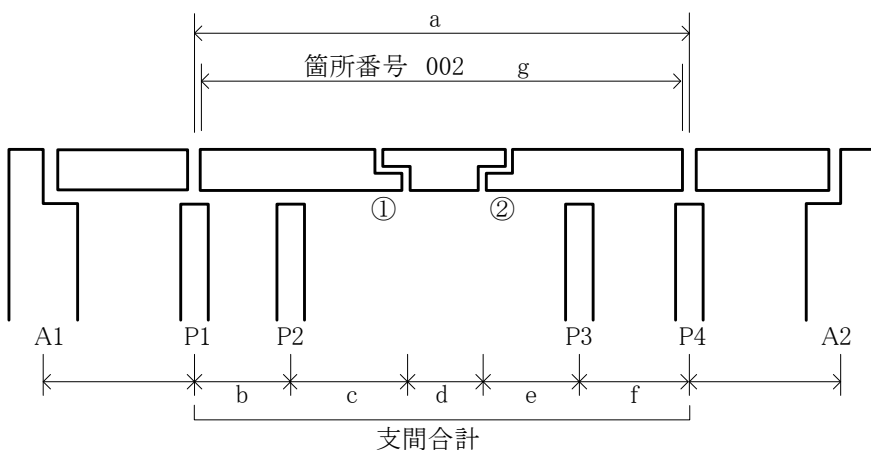
複数橋梁が連続する場合で、一つの橋梁の中に複数の橋梁名が含まれる時や高架橋で一つの橋名の中に違う橋名がある場合、それぞれの橋名単位でデータを作成する。ただし、箇所番号は下記のとおり一つの橋で一連の番号とする。

(同一橋脚で橋梁名が異なる場合)

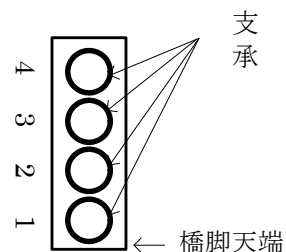


橋梁名	橋梁コード	箇所番号	橋台・橋脚番号
A 橋	0410	001	A0001~AP001
B 橋	0420	001	AP001~AP002
A 橋	0410	002	AP002~A0002

(2) ゲルバー橋の場合



橋梁全体図



支承配置図

入力例)

諸元：橋梁属性

【総連数】 3

上部工：径間情報

【橋台橋脚番号（自）】 P001

【橋台橋脚番号（至）】 P004

【連続径間数】 3

【構造種別】 ゲルバー

【径間長】 a

上部工：支間情報

【支間長】 b~c

【支間長】 d

【支間長】 e~f

上部工：上部工概要

【床版支間】 g区間の最大値

【床版厚】 g区間の平均値

【主桁高】 g区間の最大値

【主桁間隔】 g区間の最大値

【主桁本数】 g区間の本数

支承：支承

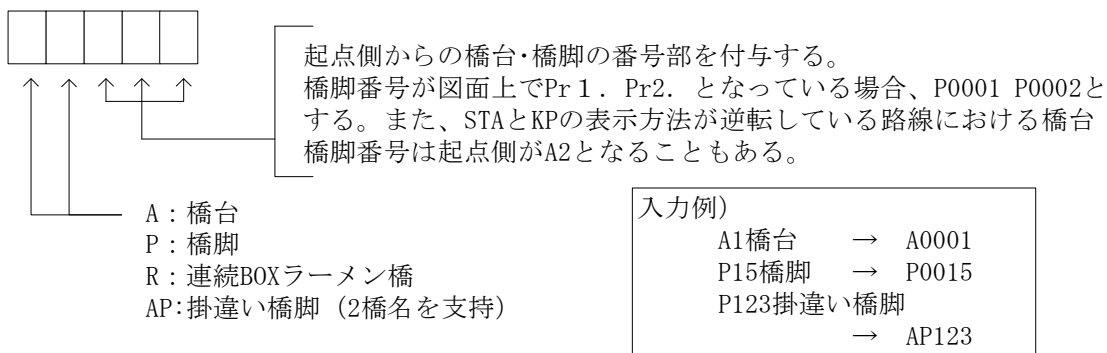
①部の支承  
 【橋台橋脚番号】 P002~P003  
 【直角方向1/直角方向2】 01~04/04  
 【橋軸方向1/橋軸方向2】 01~02

②部の支承  
 【橋台橋脚番号】 P002~P003  
 【直角方向1/直角方向2】 01~04/04  
 【橋軸方向1/橋軸方向2】 02~02

3-1-9 下部工 橋台・橋脚番号の付与方法

橋台・橋脚番号は、図面等に記載の番号を基準に5桁で付与するものである。

橋台・橋脚番号の付与については、以下に示す考え方で実施されたい。



起点側からの番号づけでは、下部工形状により下表のケース毎に判断基準を定義するので、確認の上データ作成を行うこととする。

【 判断基準 】

項目	ケース
(1)	記号番号規定
(2)	橋脚番号に枝番号がある番号
(3)	跨道橋の橋台橋脚番号
(4)	跨道橋(π型ラーメン)の場合
(5)	連続ボックスラーメンの場合

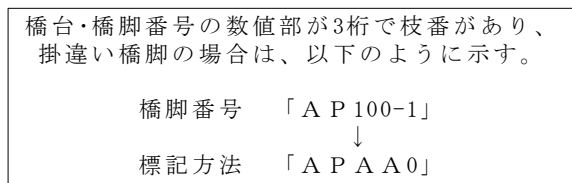


(1) 記号番号規定

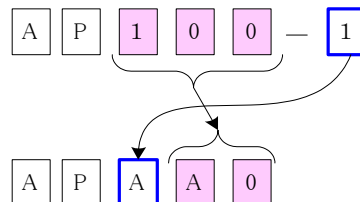
記号番号は、下図の規定に基づくものとする。

橋台橋脚番号は、他様式においても同じ表現で入力すること。

入力例) P100-1の橋脚の場合



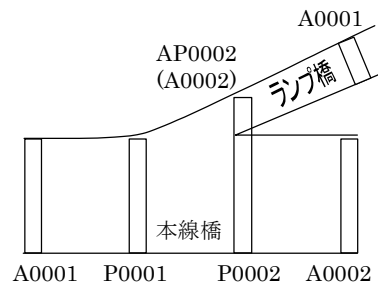
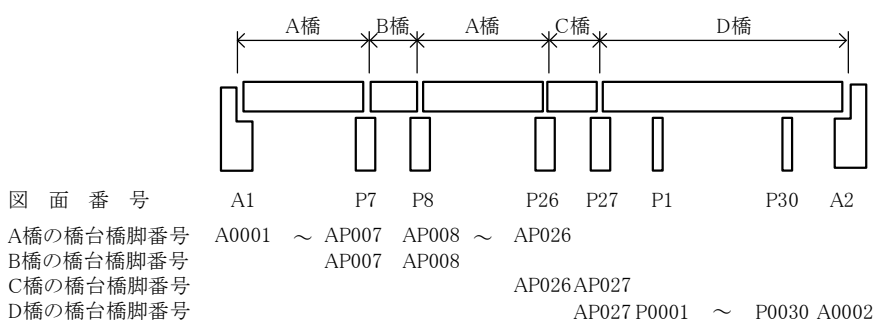
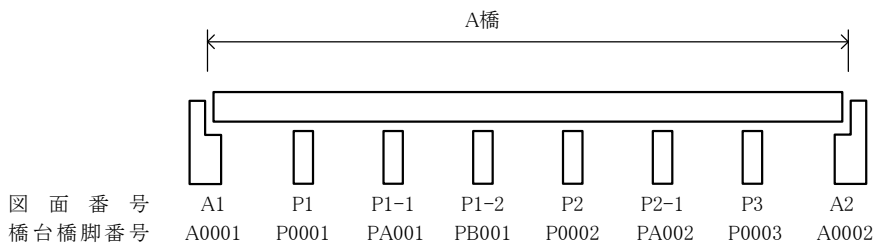
標記方法の解説



枝番号	下2桁番号
1.....A	100.....A 0
2.....B	101.....A 1
3.....C	102.....A 2
⋮	⋮
⋮ ※	110.....B 0
26.....Z	⋮
	133.....D 3

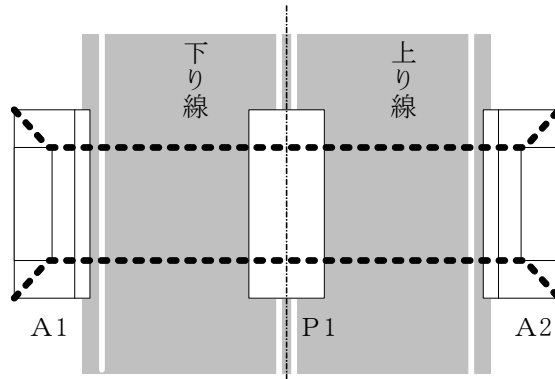
※ 枝番号は、最大26まで

(2) 橋脚番号に枝番号がある番号



(3) 跨道橋の橋台・橋脚番号

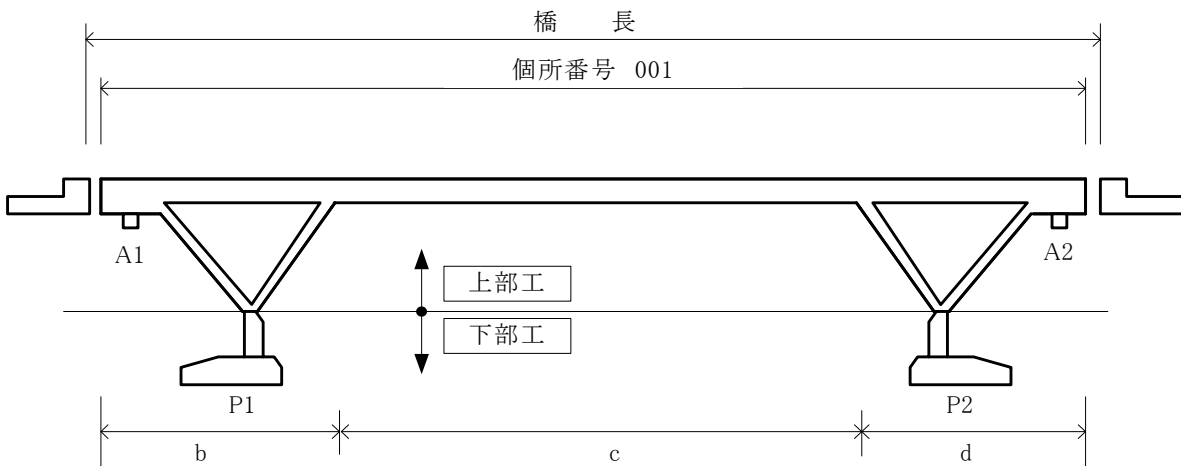
跨道橋の橋台橋脚番号は、図面に記号のない場合、下記のとおり入力する。



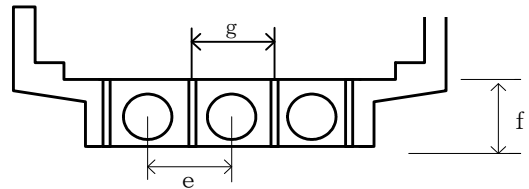
※下り線を基準に付与する。

(4) 跨道橋(π型ラーメン)の場合

側面図



横断図(空中床版の場合)

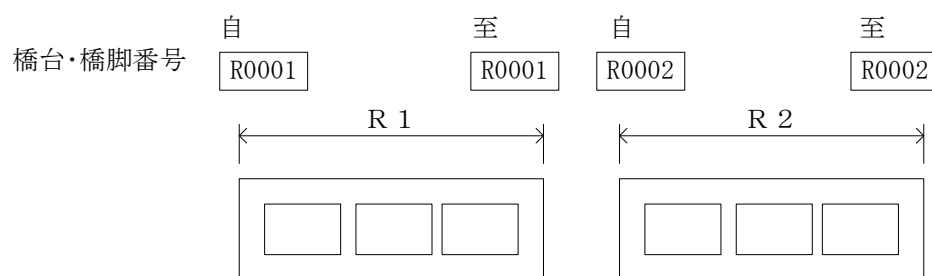


【 入力例 】

箇所番号	001		
床版支間	$\underline{e}$	床版厚	$\underline{f}$
主桁間隔	$\underline{g}$	主桁高	$\underline{f}$
径間長	$\underline{a}$	連続径間数	$\underline{3}$
橋台・橋脚番号	A0001~A0002		
支間長×支間数	$\underline{b} \times 1 \cdot \underline{c} \times 1 \cdot \underline{d} \times 1$		

## (5) 連続ボックスラーメンの場合

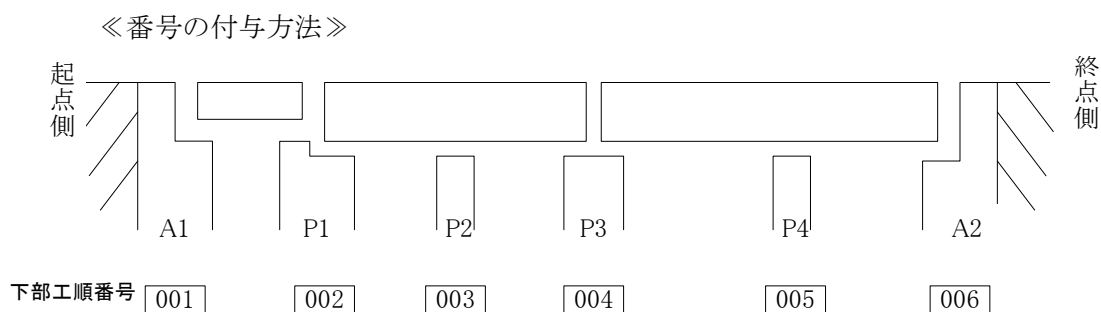
連続ボックスラーメンは、(自)(至)で同じ橋脚番号とする。



## 3-1-10 下部工順番号の付与方法

1 橋梁名の中で、起点側から下部工の順番を3桁の重複しない番号で入力する。

番号の付与は、起点側から上下線区分毎の通番とする。



## 3-1-11 補修・補強工事のデータ作成について

補修・補強工事のデータ作成は、工事の内容を「上部工補修記録」「下部工補修記録」で示するとともに、「径間情報」「支間情報」「下部工情報」等の項目で、形状や数量に変更がある場合に、該当する項目のみをデータ入力する

例えば、床版の部分打替工事等の補修工事において、現況の材質・形状寸法等に変更が生じない工事は、該当する項目のみを入力する。

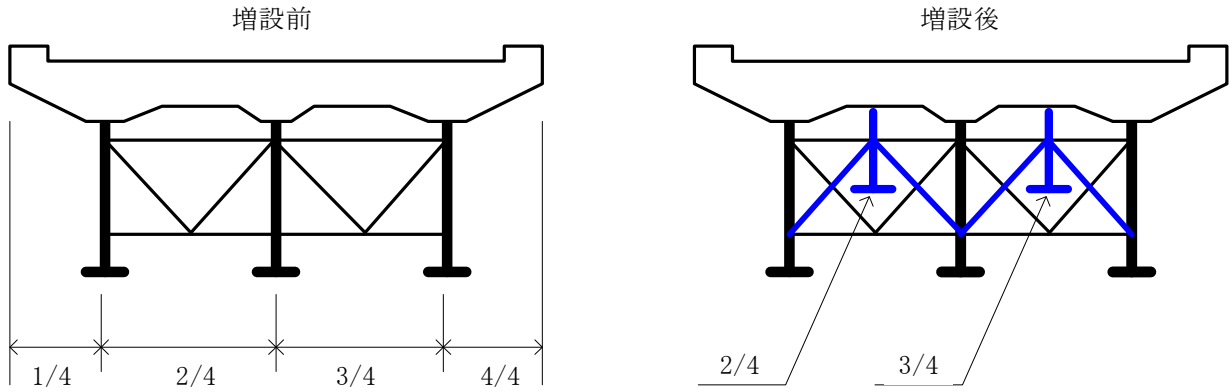
- (1) 橋梁基本情報若しくは補修記録は、撤去・設置に分けてデータを入力する。
- (2) 設計活荷重は、当初設計のままとする。(TL-20 で設計された橋を B 活荷重対応で設計しても TL-20 として入力する。)
- (3) 示方書年度についても設計活荷重と同様に当初設計のままとする。

3-1-12 桁増設時の「上部工補修記録」

桁増設における「上部工補修記録」の作成について、増設位置の作成方法を示す。

(1) 縦桁増設工法

桁増設位置の作成方法は、増設前の主桁間を○/○箇所とし直角方向に示す。

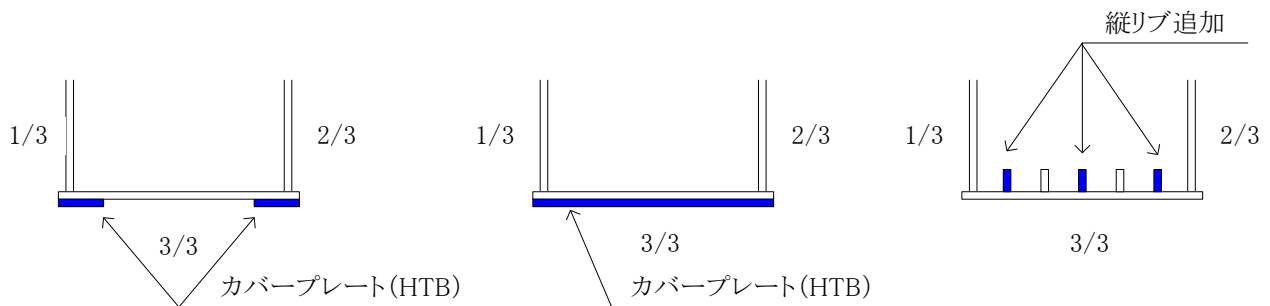


(データ作成例)

箇所番号	橋台・橋脚 番号 (自)	橋台・橋脚 番号 (至)	補修箇所	直角方向	橋軸方向	補修工法
001	A0001	P0001	床版	02/04	00/00	縦桁増設
001	A0001	P0001	床版	03/04	00/00	縦桁増設

(2) 桁断面補強工 (箱桁)

箱桁の場合は、起点側より終点に向かって左側を 1/3、右側を 2/3、低部を 3/3 とし、補強位置を直角方向に示す。



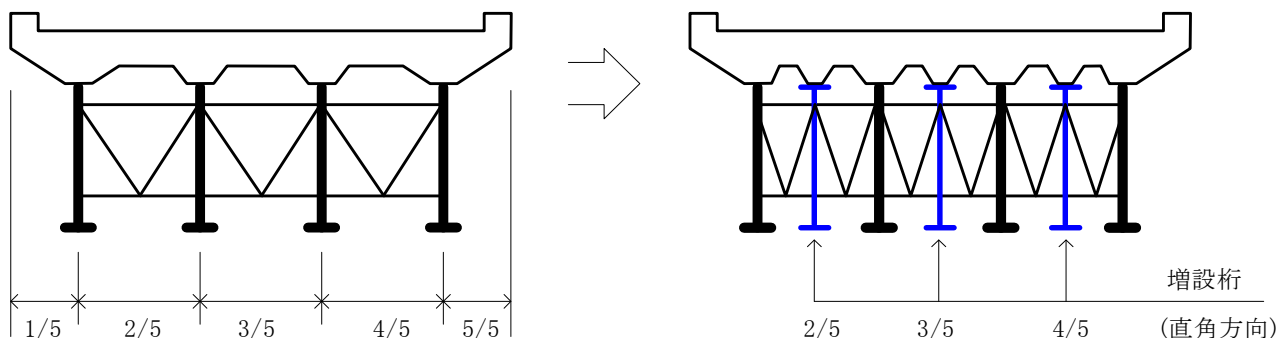
(データ作成例)

箇所番号	橋台・橋脚 番号 (自)	橋台・橋脚 番号 (至)	補修箇所	直角方向	橋軸方向	補修工法
001	A0001	P0001	主桁	03/03	00/00	桁断面補強

(3) 主桁増設工法

桁補強位置の作成方法は、増設前の主桁間を○/○箇所とし直角方向に示す。

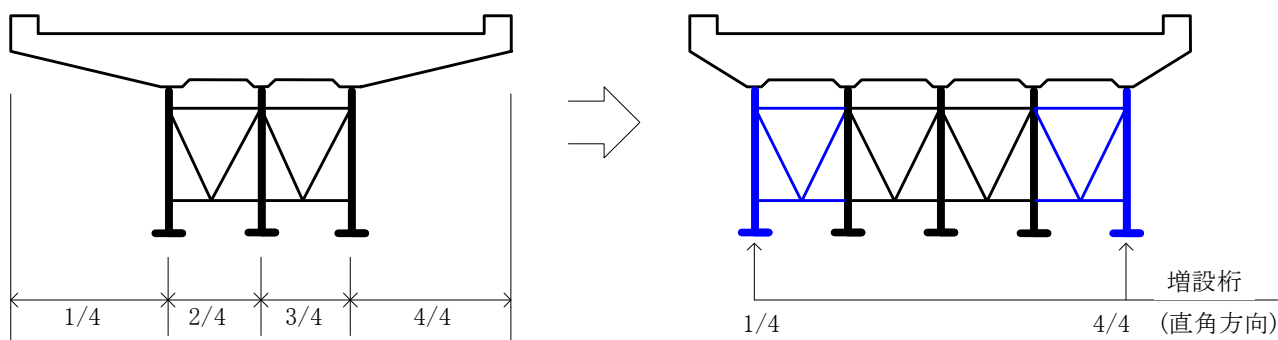
パターン1



(パターン1のデータ作成例)

箇所番号	橋台・橋脚 番号 (自)	橋台・橋脚 番号 (至)	補修箇所	直角方向	橋軸方向	補修工法
001	P0001	P0002	主桁	02/05	00/00	主桁増設
001	P0001	P0002	主桁	03/05	00/00	主桁増設
001	P0001	P0002	主桁	04/05	00/00	主桁増設

パターン2



(パターン2のデータ作成例)

箇所番号	橋台・橋脚 番号 (自)	橋台・橋脚 番号 (至)	補修箇所	直角方向	橋軸方向	補修工法
001	P0001	P0002	主桁	01/04	00/00	主桁増設
001	P0001	P0002	主桁	04/04	00/00	主桁増設

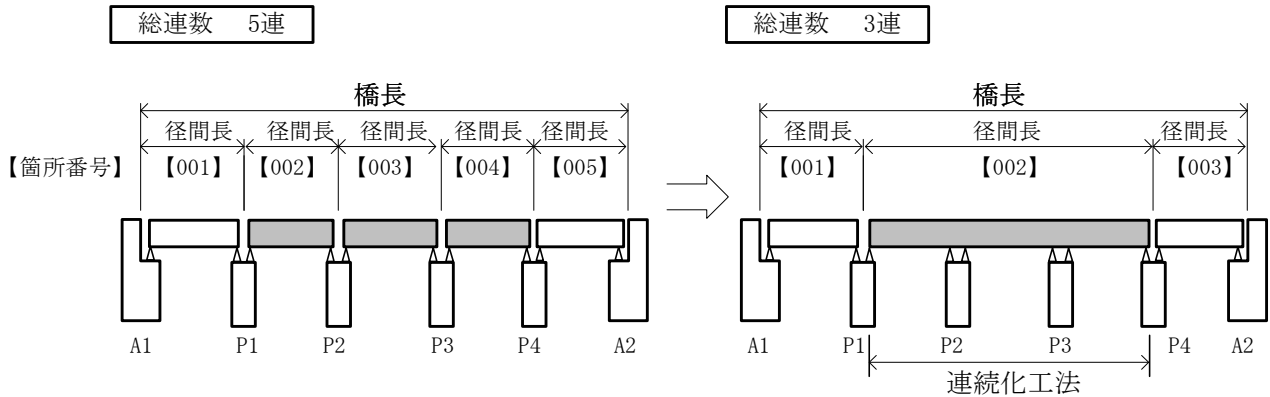
※ 対傾構も主桁増設数量に含めて入力する。

(4) 連続化工法

単純桁構造の桁を連結し、連続桁構造化することにより、活荷重による曲げモーメントの低減を図る工法である。

旧箇所番号 001、002、003、004、005 のうち 2~4 を連続化した場合は、元データを 5 箇所から 3 箇所へ変更する。

橋種コードは連結前、全連が同じであれば、その橋種 (3 連とも RC の場合、「RC」) とする。複数橋種の場合は、複合橋とする。(PC と RC と RC の場合、複合橋)



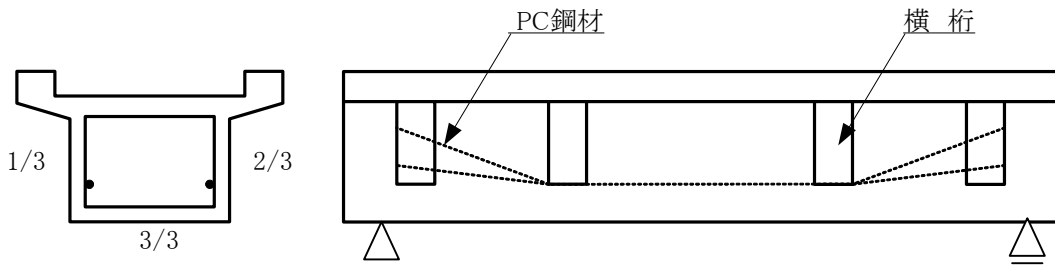
(上図の上部工補修記録 作成例)

箇所番号	橋台・橋脚 番号 (自)	橋台・橋脚 番号 (至)	補修箇所	直角方向	橋軸方向	補修工法
002	P0001	P0004	主桁	00/00	00/00	連続化工法
003	P0001	P0004	主桁	00/00	00/00	連続化工法
004	P0001	P0004	主桁	00/00	00/00	連続化工法

該当箇所番号の全てを作成する。

橋台・橋脚番号 (自) (至) は、連続化後の自至を入力する。(全て同じになる。)

(5) プレストレス導入工法

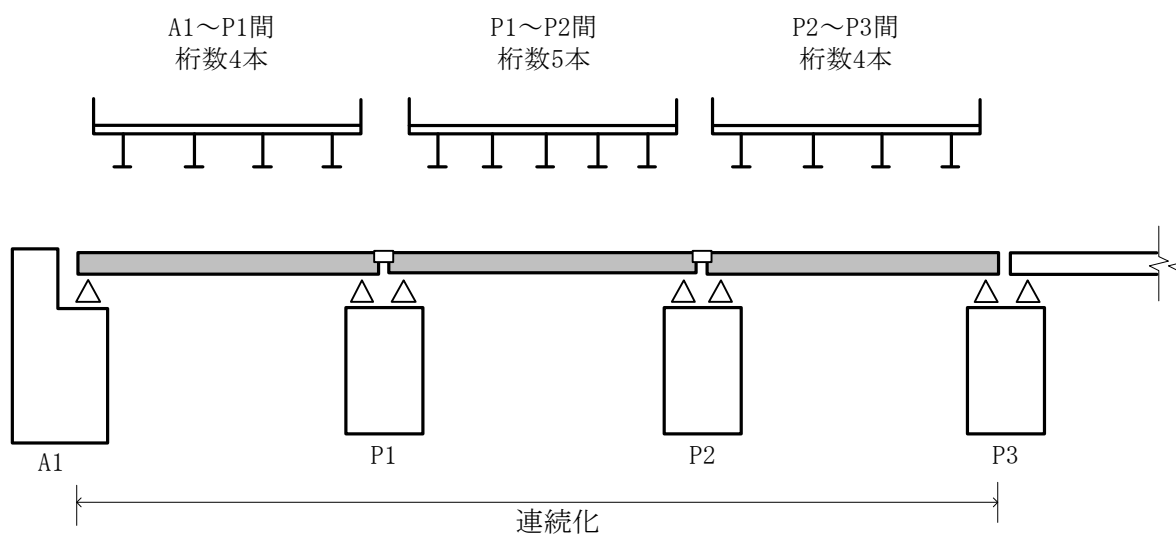


箇所番号	橋台・橋脚 番号 (自)	橋台・橋脚 番号 (至)	補修箇所	直角方向	橋軸方向	補修工法
001	A0001	P0001	主桁	01/03	00/00	プレストレス
001	A0001	P0001	主桁	02/03	00/00	プレストレス

## 3-1-13 補修時の「上部工概要」

改良・補修時の「上部工概要」については、床版、主桁、舗装、鋼材等の寸法、重量に変更があった場合のみ作成を行う。ただし、変更された項目のみの入力とし、詳細は下記による。

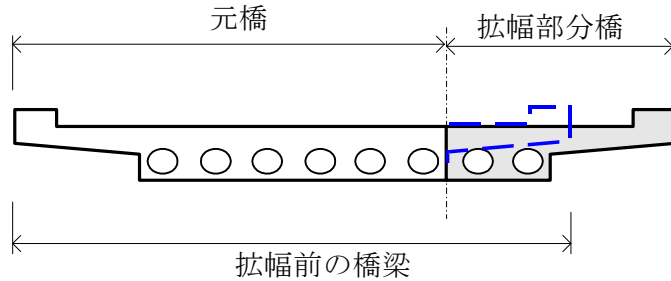
- (1) 縦桁増設工法の増設桁は、主桁本数に含まない。ただし、施工した鋼材の規格別重量は入力する。
- (2) 主桁増設工法は、施工した主桁本数と既存の主桁本数を合計したものを入力する。主桁間隔は、既存主桁を含む最大主桁間隔を入力し、鋼材重量は施工重量と既存の主桁重量を合計したものを入力する。主桁高さについては修正しない。
- (3) 上面増厚工法、下面増厚工法は、改良後の床版厚を入力する。配筋等も施工した場合は、施工重量と既存の配筋重量を合計したものを入力する。
- (4) 床版取替え後は、床版厚を入力する。施工重量等も同様とする。
- (5) 床版打替工法の場合、特に入力しない。
- (6) 支持工法は、施工重量等と既存の重量を合計したものを入力する。
- (7) 連続化工法は、箇所番号を変更し、当該箇所番号に対し連続化工法において施工した各項目の数量を入力する。（「橋梁属性」「径間情報」「支間情報」についても箇所番号を修正する。）
- (8) FRP 接着工法は、入力しない。
- (9) プレストレス導入工法の場合は、PC 鋼材等を入力する。
- (10) 鋼板接着工法は、床版厚は未入力とし、鋼材重量は施工重量と既存の鋼材重量を合計したものを入力する。
- (11) 連続化工法において主桁の本数が異なる場合は、最大の主桁本数を入力する。下図の場合は、5本とする。



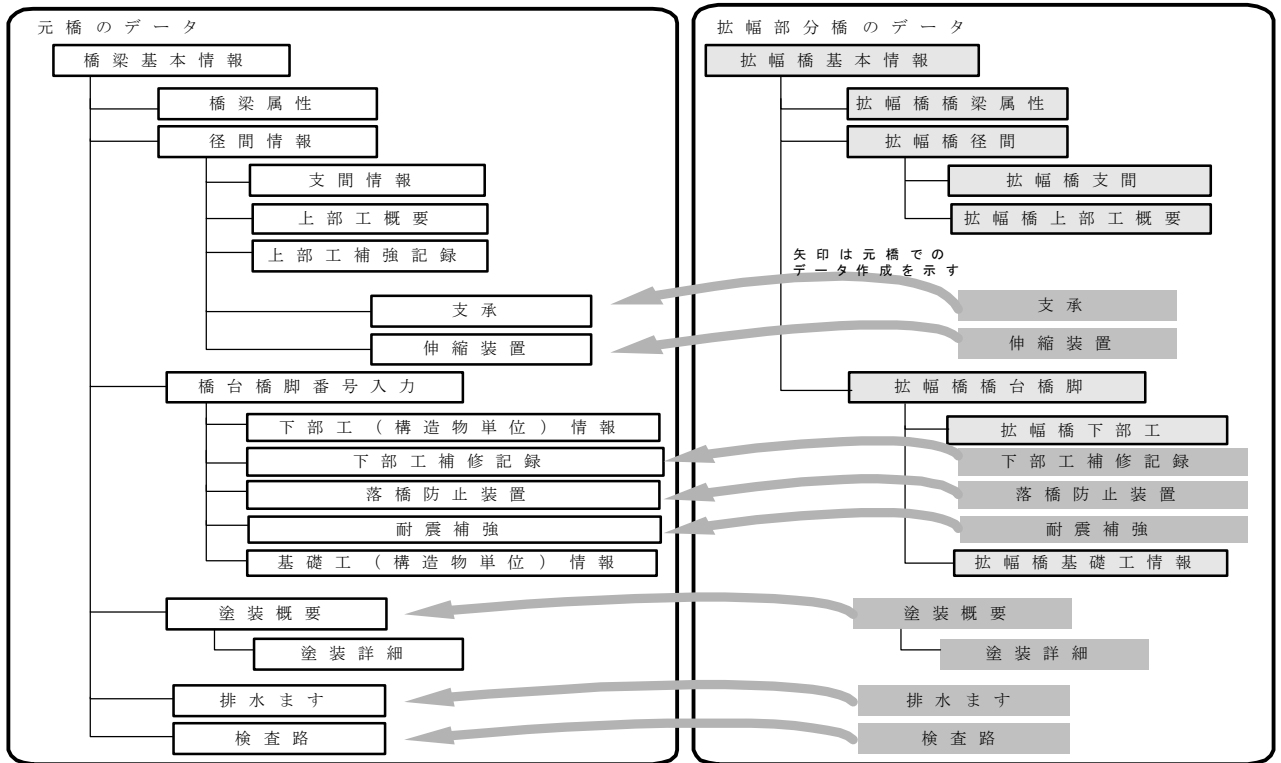
3-1-14 拡幅橋梁のデータ作成について

橋梁の上部工拡幅工事を実施した際のデータ作成方法を示すものである。  
元橋及び拡幅部分橋とは下図のとおりである。

元橋、拡幅部分橋の例



- (1) 拡幅部分橋は、元橋と区別し別橋扱いで入力する。
- (2) 橋梁拡幅に伴う元橋の部分撤去後についてもデータを作成する。
- (3) 供用年月日について、元橋は既設の供用年月日を入力する。
- (4) 拡幅部分橋は、拡幅時の供用年月日を入力する。
- (5) 箇所番号、拡幅部分橋のみで数える。
- (6) 上部工補修記録は、拡幅前（元橋）について入力する。
- (7) 支承・伸縮装置等のデータ(下図の灰色部)については、元橋でデータ作成する。





3-2 【削除】基本資料情報

3-2-1 【削除】基本資料資料の作成

3-2-2 【削除】添付ファイルの命名規則

3-2-3 【削除】添付ファイルの作成規則

3-2-4 【削除】平面図

3-2-5 【削除】一般図

### 3-3 工事情報

設計業務や工事で実施した橋梁に関するデータを工事記録収集システムに入力するものである。

#### 3-3-1 橋梁基本情報

橋梁基本情報は、橋梁名単位で所在地に関するデータを入力するものである。

なお、拡幅工事（拡幅部分）のデータ入力については、「拡幅橋基本情報」に入力する。

(1) 支社局

当該橋梁を管理する支社局名をコードから選択して入力する。

建設時で管理する支社局名が未定の場合は、建設工事を担当する支社局名を入力する。

(2) 事務所

当該橋梁を管理する管理事務所名をコードから選択して入力する。

建設時で管理事務所名が未定な場合は、工事事務所名を入力する。

(3) 道路

当該橋梁が、存在する道路名の道路番号をコードから選択して入力する。

(4) 橋梁

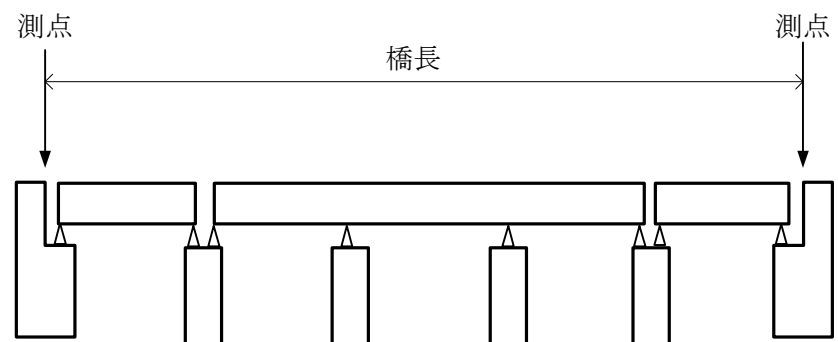
当該橋梁の橋梁名をコードから選択して入力する。

(5) STA・KP・NOの測点作成方法

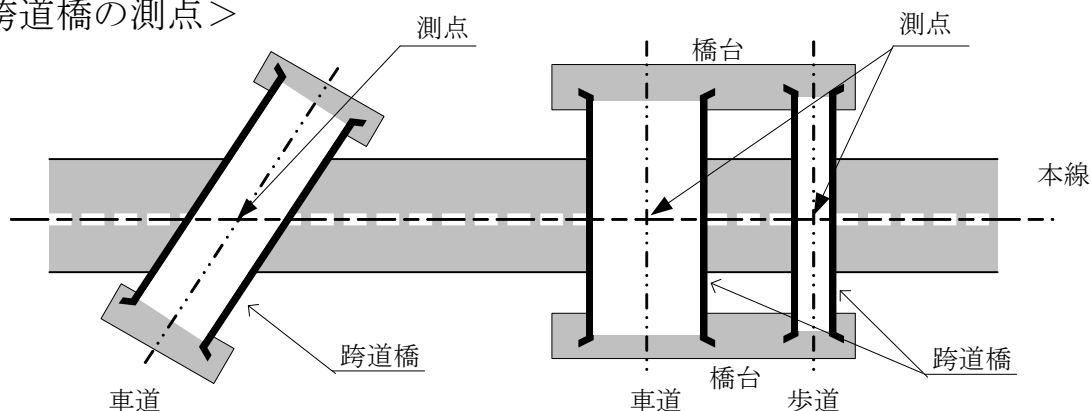
本線橋若しくはランプ橋の場合は、橋長に対応する各測点(図面の旗揚げ)を入力する。

跨道橋の場合は、図面に旗上げ表示してある測点(本線と跨道橋センターの交差点)で入力する。

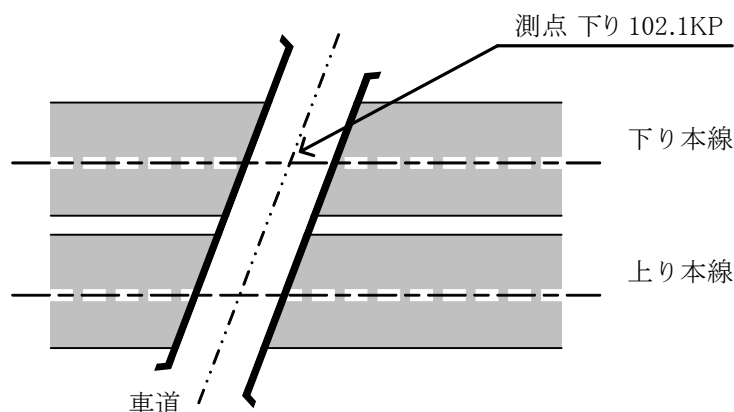
#### <本線橋・ランプ橋の測点>



< 跨道橋の測点 >



同一跨道橋で上部工が分離している場合、測点はそれぞれの本線とセンターの交差部とするが、下部工は同一とする。



本線 セパレート区間の跨道橋の測点は、下り本線と跨道橋センターの交差部とする。

(a) 建設時

建設時の測点は、STA を用いるものとするが、KP がわかる場合は、管理\_KP 及び管理\_NO についても作成する。

(ア) 建設\_STA (自)

本線橋若しくはランプ橋の場合は、橋長に対応する起点側測点(図面の旗揚げ)を入力する。

(イ) 建設\_STA (至)

本線橋若しくはランプ橋の場合は、橋長に対応する終点側測点(図面の旗揚げ)を入力する。

(ウ) 建設\_ランプ名

当該橋梁が存在するランプ名称を A, B, C, D・……で入力する。

## 第7編 橋梁

- (エ) 建設\_NO (自)  
当該橋梁がランプに存在する場合において起点側の測点を入力する。
- (オ) 建設\_NO (至)  
当該橋梁がランプに存在する場合において終点側の測点を入力する。
- (b) 補修時 (供用後管理段階)  
補修時の測点は、KP を用いるものとする。
  - (ア) 管理\_KP (自)  
本線橋若しくはランプ橋の場合は、橋長に対応する起点側測点(図面の旗揚げ)を入力する。
  - (イ) 管理\_KP (至)  
本線橋若しくはランプ橋の場合は、橋長に対応する起点側測点(図面の旗揚げ)を入力する。
  - (ウ) 管理\_ランプ名  
当該橋梁が、存在するランプ名称を A, B, C, D・・・で入力する。
  - (エ) 管理\_NO (自)  
当該橋梁が、ランプに存在する場合において起点側の測点を入力する。
  - (オ) 管理\_NO (至)  
当該橋梁が、ランプに存在する場合において終点側の測点を入力する。
- (6) 上下線区分  
当該橋梁が存在する路線の現在の上下線区分をコードから選択して入力する。  
ただしランプ橋・跨道橋については全て上下線無関係とする。(本線 ON・OFF ランプも上下線無関係)  
建設時で上下線区分が未定の場合は、供用予定時のものを入力する。  
上下線区分の方法については、「3-1-4 基本定義 上下線区分」を参照すること。
- (7) ルート区分  
当該橋梁が存在する路線の現在のルート区分をコードから選択して入力する。  
なお、改築路線における2ルート区間は、右ルート・左ルートを入力する。
- (8) 完成暫定区分  
当該橋梁の供用形態(完成・暫定)及び拡幅状態(路肩・中分)をコードから選択して入力する。
- (9) IC (自)  
当該橋梁が存在する1IC間の起点側ICをコードから選択して入力する。

- (10) IC (至)  
当該橋梁が存在する 1IC 間の終点側 IC をコードから選択して入力する。
- (11) 建設\_支社局  
当該橋梁の当初建設工事に携わった支社・局名をコードから選択して入力する。
- (12) 建設\_工事事務所  
当該橋梁の当初建設工事に携わった事務所名をコードから選択して入力する。
- (13) 設置箇所  
当該橋梁が存在する箇所区分をコードから選択して入力する。
- (14) 連絡等施設  
当該橋梁が IC・JCT に存在する場合、施設登録名をコードから選択して入力する。本線の場合は未入力とする。
- (15) 休憩施設  
当該橋梁が SA・PA・BS・CB に存在する場合、施設登録名をコードから選択して入力する。本線の場合は未入力とする。
- (16) 供用年月日
- (a) 当該橋梁が、実際に供用開始となる年月日を入力する。
  - (b) 暫定供用区間で、初め上下線共有で開通されたが、完成時に下り線として再開通したときは、当初の開通年月日を入力する。  
このとき、新規供用となる上り線については、新規開通の年月日を入力する
  - (c) 架替え工事は、架け替え時の開通年月日を入力する。
  - (d) 桁連結工事により再開通した時は、当初の開通年度を入力する。
  - (e) 拡幅工事の時は、元橋については、従来の供用年月日を入力する。拡幅部分橋については、新規開通の年月日を入力する。
  - (f) 跨道橋の場合で、本線は完成しているが、跨道橋が未開通のものは空白とする。
- (17) 拡幅・別線区分  
当該橋梁で増設された場所がある場合に、路肩側・中分側および追加をコードより選択し入力する。

## 3-3-2 【削除】橋梁基本情報資料

3-3-3 橋梁属性

橋梁属性は、当該橋梁全体の諸元に関するデータを入力するものである。

なお、拡幅工事（拡幅部分）のデータ入力については、「拡幅橋属性情報」に入力する。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) 【削除】

(9) 【削除】

(10) 完成時上下線区分

当該橋梁の完成時の上下線区分をコードから選択し入力する。

暫定供用時では、完成形（将来）について上下線区分を示す。

(11) 完成時ルート区分

当該橋梁の完成時のルート区分をコードから選択して入力する。

暫定供用時では、完成形（将来）についてルート区分を示す。

(12) 橋分類

当該橋梁が、本線橋かランプ橋か跨道橋をコードから選択して入力する。

跨道橋の用途が複数あるは場合、主となるものを選択して入力する。

（例）道路+歩道 → 「歩道」とする。

道路+歩道 → 「道路」とする。

歩道+水路 → 「水路」とする。

※アンダーラインのものが主たる用途を示す。

(13) 設計活荷重

当該橋梁が設計で考慮される荷重区分をコードから選択して入力する。(B活荷重、TT-44等)

(14) 橋長

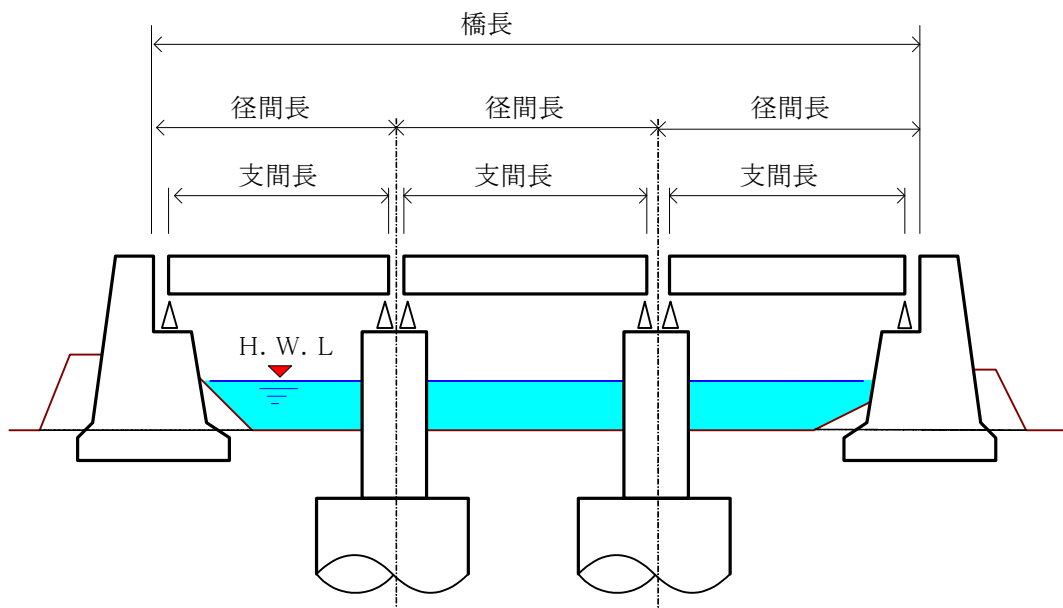
当該橋梁の両端橋台前面（胸壁前面）間の長さ（m）を入力する。

なお、当項目での橋長は、各径間長の合計値と同一となるものとする。

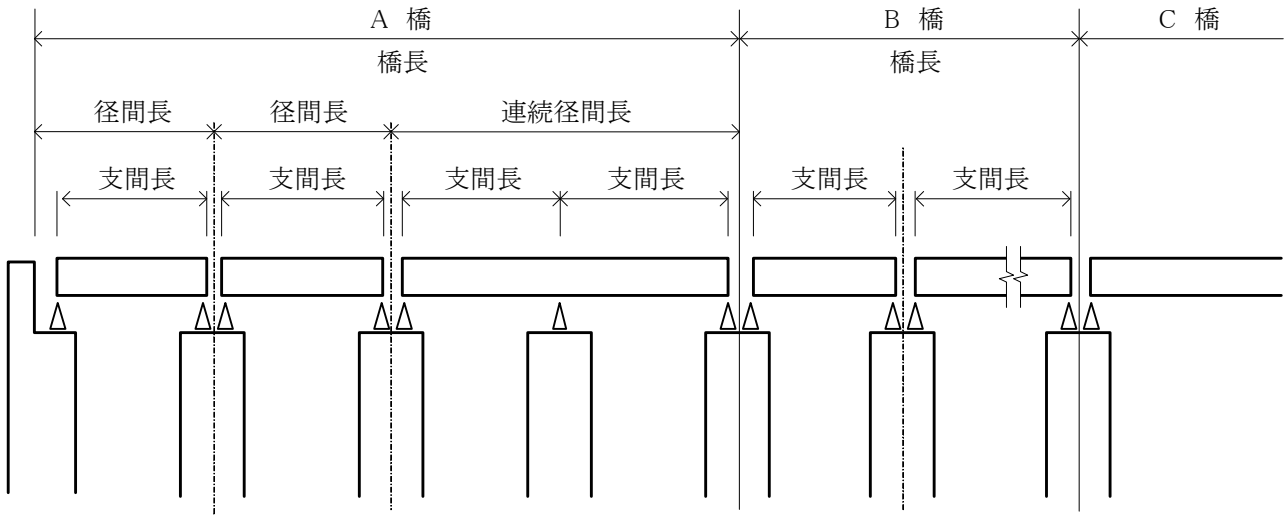
橋長作成は、下記のケースを指標とし作成すること。

号	ケース
(a)	単独橋
(b)	連続高架橋
(c)	BOX 橋台が橋梁の前後にある場合
(d)	合流、分流部
(e)	ポータルラーメン橋の場合
(f)	斜橋の場合

(a) 単独橋

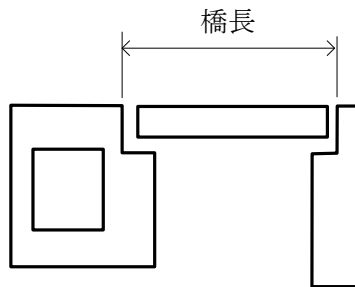


(b) 連続高架橋



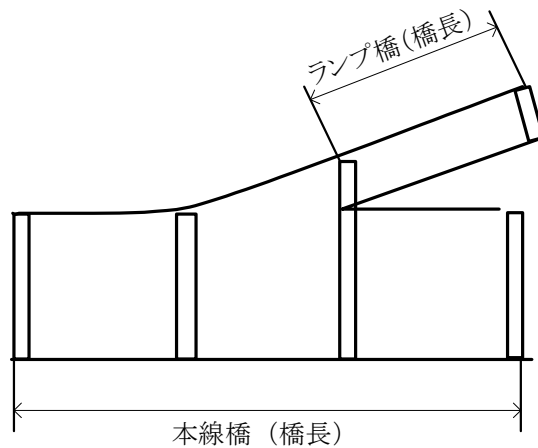
(c) BOX 橋台が橋梁の前後にある場合

BOX 橋台 と橋梁が続いていたとしても BOX 橋台 は橋梁長に含まない。



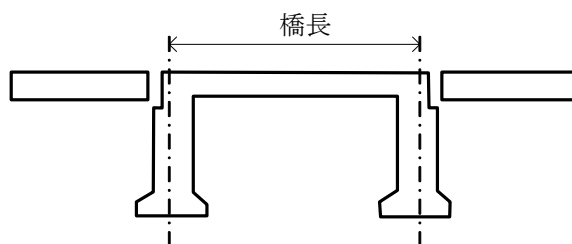
(d) 合流、分流部

合流、分流部の直近のジョイントで（径間ごと）分割する。（テーパーまで含めない）  
合流、分流部の橋梁区分は、下図のとおり。

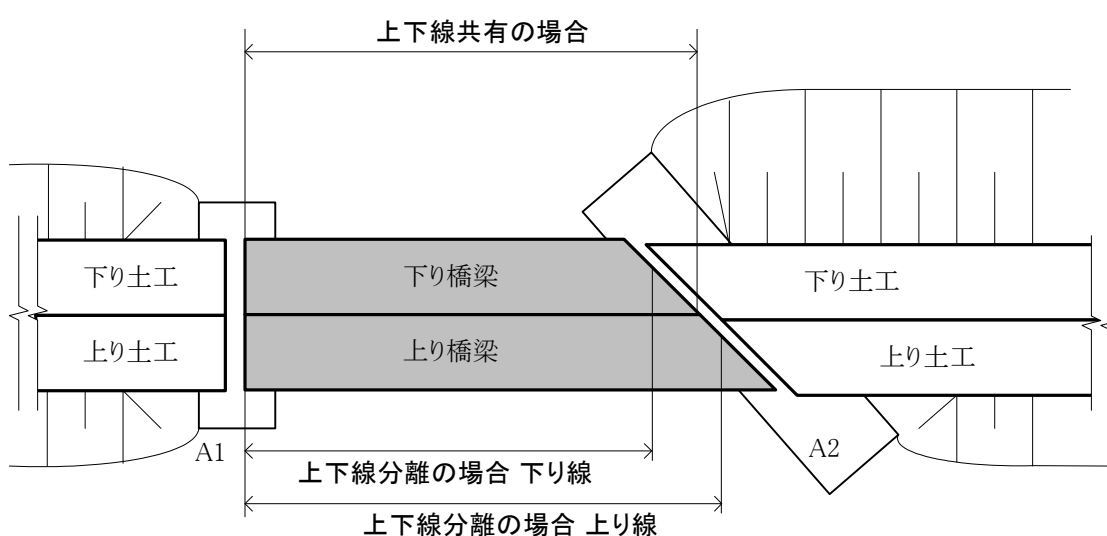




- (e) ポータルラーメン橋の場合  
橋脚の中心～中心間を橋長とする。



- (f) 斜橋の場合  
構造物の中心を橋長とする。



- (15) 総橋面積  
当該橋梁の各箇所番号の橋面積を合計した値 (m<sup>2</sup>) を入力する。
- (16) 総連数  
当該橋梁の一連の総連数 (箇所番号の最終値と同一になる) を入力する。
- (17) Me・径間長  
当該橋梁の上部工、Me 橋部の合計径間長 (m) を入力する。
- (18) Me・連数  
当該橋梁の上部工、Me 橋部の連 (桁) 数を入力する。
- (19) RC・径間長  
当該橋梁の上部工、RC 橋部の合計径間長 (m) を入力する。

## 第7編 橋梁

- (20) RC・連数  
当該橋梁の上部工、RC橋部の連（桁）数を入力する。
- (21) PC・径間長  
当該橋梁の上部工、PC橋部の合計径間長（m）を入力する。
- (22) PC・連数  
当該橋梁の上部工、PC橋部の連（桁）数を入力する。
- (23) PRC・径間長  
当該橋梁の上部工、PRC橋部の合計径間長（m）を入力する。
- (24) PRC・連数  
当該橋梁の上部工、PRC橋部の連（桁）数を入力する。
- (25) 複合橋・径間長  
当該橋梁の上部工、複合橋部の合計径間長（m）を入力する。
- (26) 複合橋・連数  
当該橋梁の上部工、複合橋部の連（桁）数を入力する。
- (27) その他・径間長  
当該橋梁の上部工、その他橋部の合計径間長（m）を入力する。
- (28) その他・連数  
当該橋梁の上部工、その他橋部の連（桁）数を入力する。
- (29) 管理者（跨道橋移管先）  
当該橋梁が、跨道橋の場合に管理者名称（跨道橋移管先）を30字以内で入力する。

## 3-3-4 径間情報

径間情報は、当該橋梁における一連(箇所番号毎)の諸元に関するデータを入力するものである。なお、拡幅工事(拡幅部分)のデータ入力については、「拡幅橋径間」に入力する。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) 【削除】

(9) 【削除】

(10) 箇所番号

当該橋梁の上部工の1連毎に重複しない番号を3桁までで入力する。

箇所番号の付与方法については、「[3-1-8 基本定義 上部工 箇所番号の付与方法](#)」を参照。

(11) 下部工順番号(自)

1橋梁名の中で、起点側から下部工の順番を3桁の重複しない番号で入力する。番号の付与は、起点側から上下線区分毎の通番とする。

橋台・橋脚番号の付与方法については、「[3-1-10 基本定義 下部工順番号の付与方法](#)」を参照。

(12) 橋台・橋脚番号(自)

当該箇所番号下にある橋脚のうち、起点側端部の橋脚番号を入力する。

橋台・橋脚番号の付与方法については、「[3-1-9 基本定義 下部工 橋台・橋脚番号の付与方法](#)」を参照。

## 第7編 橋梁

### (13) 下部工順番号 (至)

1 橋梁名の中で、起点側から下部工の順番を3桁の重複しない番号で入力する。

橋台・橋脚番号の付与方法については、「[3-1-10 基本定義 下部工順番号の付与方法](#)」を参照。

### (14) 橋台・橋脚番号 (至)

当該箇所番号下にある橋脚のうち、終点側端部の橋脚番号を入力する。

橋台・橋脚番号の付与方法については、「[3-1-9 基本定義 下部工 橋台・橋脚番号の付与方法](#)」を参照。

### (15) 橋種

当該橋梁の上部工主桁に使用する主材料による分類をコードから選択して入力する。(鋼橋、RC橋等)

### (16) 連続径間数

当該箇所番号毎の径間数を入力する。

### (17) 構造種別

当該橋梁の構造形式による分類をコードから選択して入力する。(単純合成桁、箱桁、トラス、ランガー等)

(a) 切断合成桁は、鋼連続合成桁として区分する。

(b) 合成・非合成等の区分は、鋼橋の場合のみとする。

### (18) 径間長

当該上部工における箇所番号毎の長さ (m) を入力する。(一連の長さ)

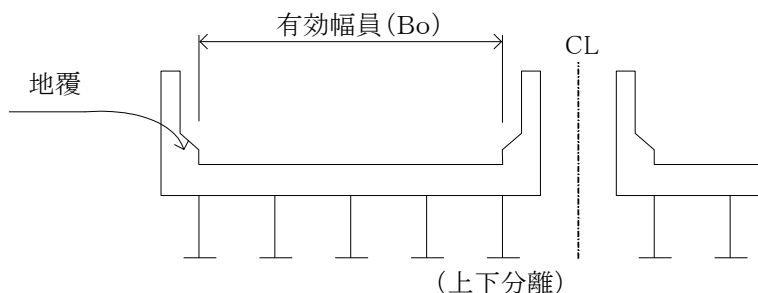
### (19) 支間長

当該径間の桁を支持する点～点の長さ (m) 「支間長の合計」を入力する。

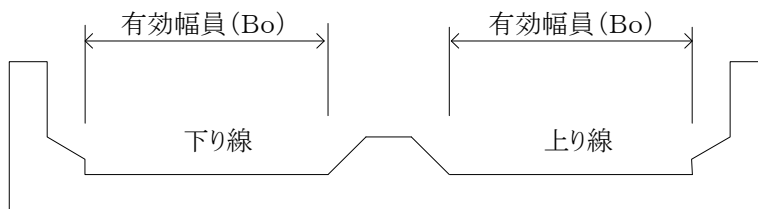
(20) 最大有効幅員

当該箇所番号の橋面の最大幅員 (m) を入力する。

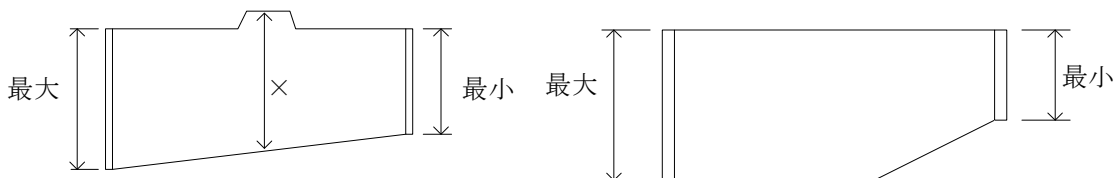
なお、跨道橋で歩道と車道がある場合、有効幅員は両者の計とする。



上部工データで「上・下線共有」の橋梁の場合、上部工データを上下別にするなら有効幅員も上下別にデータ作成すること。



有効幅員は、地覆から地覆までとし、非常駐車帯の幅員は含まない。



(21) 最小有効幅員

当該箇所番号の橋面の最小幅員 (m) を入力する。

前項目「(20) 最大有効幅員」の図を参照のこと。

(22) 橋面積

当該箇所番号の橋面積 (m<sup>2</sup>) を入力する。非常駐車帯も含むものとする。

(23) 形状

当該橋梁の形状をコードから選択して入力する。(直橋、斜橋、曲線橋)。

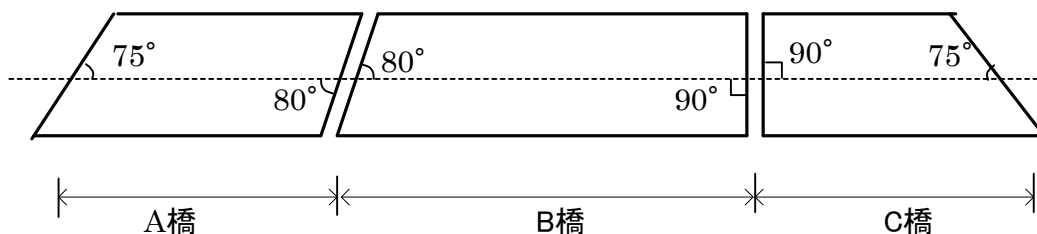
- (a) 斜橋とは、斜角 75 度未満の橋梁をいう。
- (b) 曲線橋とは、平面線形 R=700 以下の橋梁をいう。

## 第7編 橋梁

### (24) 斜角最小角

当該橋梁の斜角の最小角度(度)を入力する。

下図の場合は、A橋=75°、B橋=80°、C橋=75°とする。



### (25) 設計震度（水平）

当該橋梁の設計震度（水平）(KH)を入力する。

### (26) 設計震度（垂直）

当該橋梁の設計震度（垂直）(KV)を入力する。

設計震度の中で垂直震度が±0.1とある場合は、0.10と入力する。

### (27) 設計契約番号

当該箇所番号の詳細（最終）設計業務の発注契約番号を入力する。

### (28) 施工契約番号

当該箇所番号の上部工を施工した工事の発注契約番号を入力する。

### (29) 示方書年度

当該橋梁の上部工設計に適用した技術基準「道路橋示方書（日本道路協会）」の版年度を和暦で入力する。

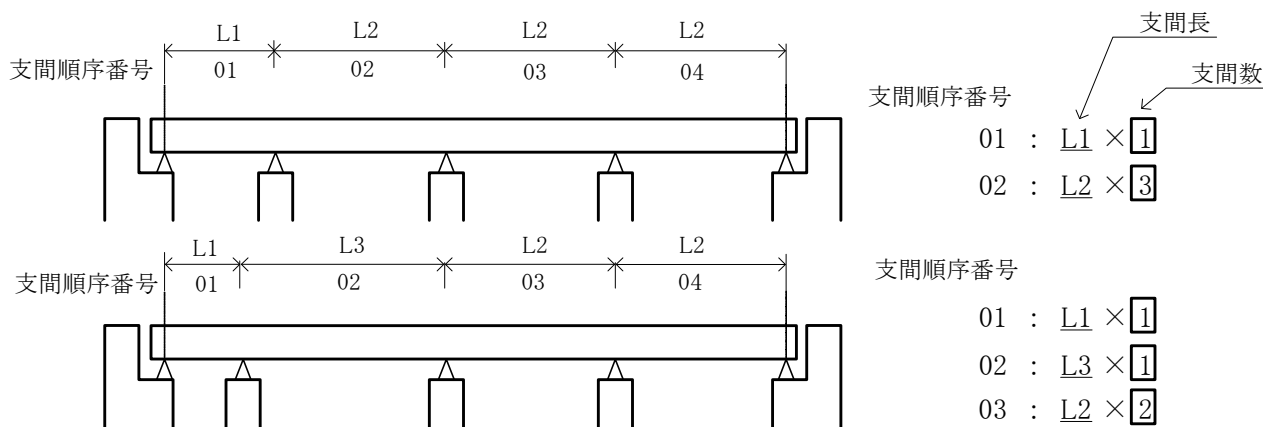
### (30) 設計要領以外の示方書等名

設計要領以外に参考とした示方書等の図書名を30字以内で入力する。

## 3-3-5 支間情報

支間情報は、当該橋梁における支間に関するデータを支間順序番号毎に入力するものである。支間長が同一で連続する場合は、起点側の支間順序番号を代表で示すと共に、連続する支間数を入力する。

なお、拡幅工事（拡幅部分）のデータ入力については、「拡幅橋支間」に入力する。

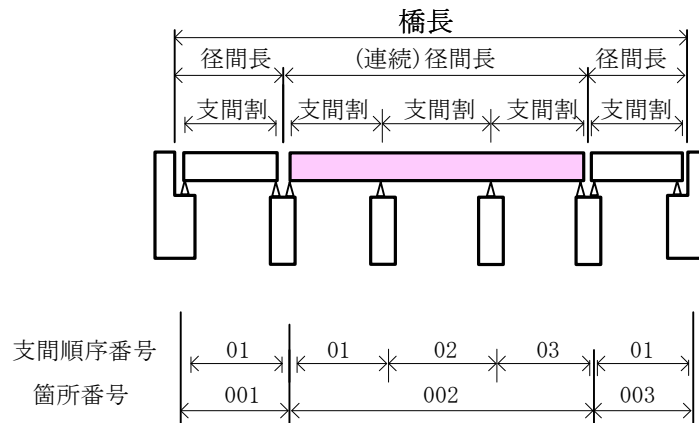


- (1) 【削除】
- (2) 【削除】
- (3) 【削除】
- (4) 【削除】
- (5) 【削除】
- (6) 【削除】
- (7) 【削除】
- (8) 【削除】
- (9) 【削除】
- (10) 【削除】

第7編 橋梁

(11) 支間順序番号

当該箇所番号内で、支間毎にユニーク（重複しない）となる支間順序番号を付与する。



(12) 下部工順序番号（自）

「3-3-4. 径間情報（11）下部工順序番号（自）」で示した下部工順序番号（自）と関連するものを選択し3桁までで入力する。

(13) 橋台・橋脚番号（自）

「3-3-4. 径間情報（12）橋台・橋脚番号（自）」で示した橋台・橋脚番号（自）と関連するものを入力する。

(14) 下部工順序番号（至）

「3-3-4. 径間情報（13）下部工順序番号（至）」で示した下部工順序番号（至）と関連するものを選択し3桁までで入力する。

(15) 橋台・橋脚番号（至）

「3-3-4. 径間情報（14）橋台・橋脚番号（至）」で示した橋台・橋脚番号（至）と関連するものを入力する。

(16) 支間数

当該支間長が、同一で連続する支間の数を入力する。

(17) 支間長

当該支間順序番号の支点間距離が同一なグループの支点間距離(m)を入力する。



## 3-3-6 上部工概要

上部工概要は、当該橋梁における上部工の箇所番号毎に、床版や主桁等に関するデータを入力するものである。

なお、拡幅工事（拡幅部分）のデータ入力については、「拡幅橋上部工概要」に入力する。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) 【削除】

(9) 【削除】

(10) 【削除】

(11) 上部工しゅん功年月

当該上部工工事がしゅん功した年月を入力する。(2002年2月→200202)

(12) 架設工法

当該上部工の架設方法をコードから選択して入力する。(クレーン車によるステーキング、手延べ式、押し出し等)

(13) 床版種別

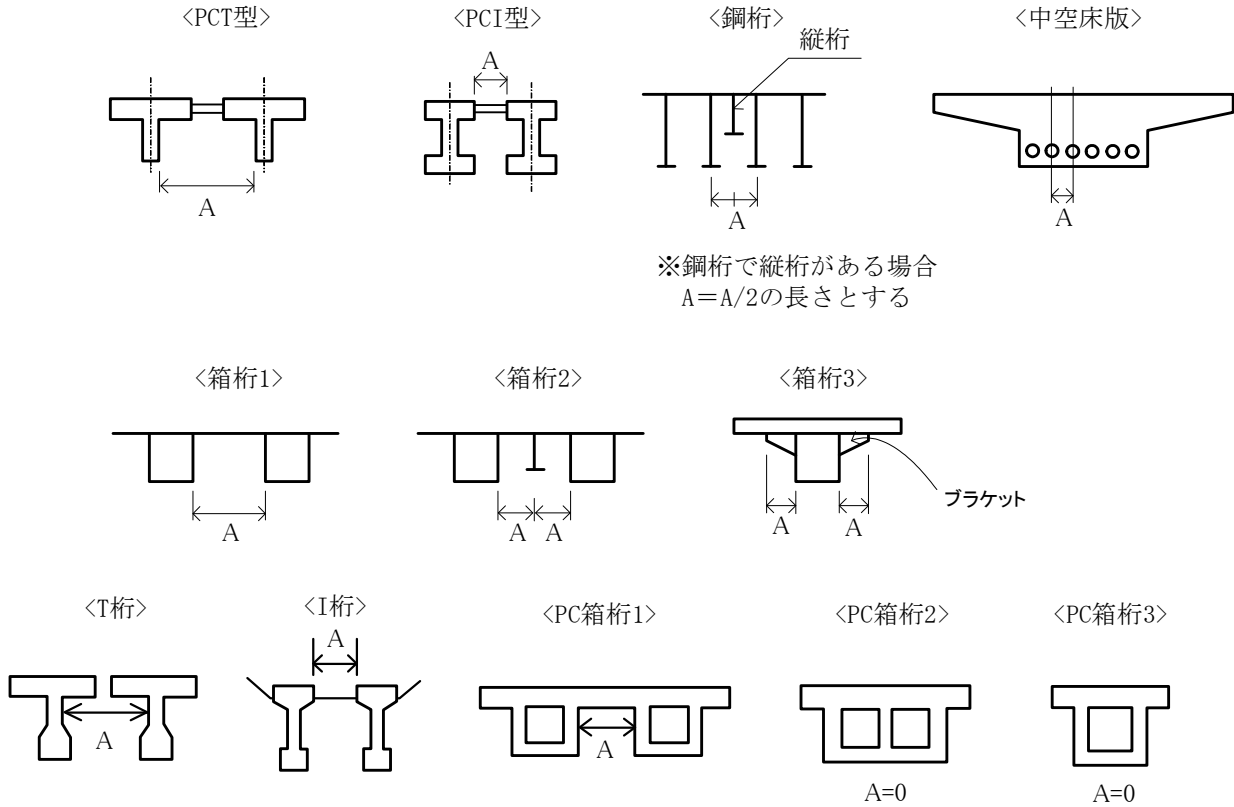
当該上部工の床版構造の主材料による分類をコードから選択して入力する。(RC床版、プレキャスト床版、鋼床版等)

ただし、PCI桁橋の場合は、RC床版とし、PCT桁橋の場合はPC床版とする。

第7編 橋梁

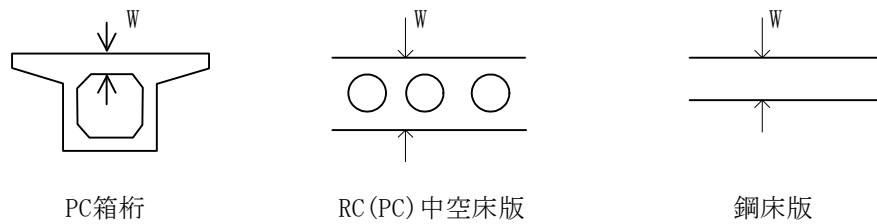
(14) 床版支間

- (a) 当該上部工の床版支間幅「A」を入力する。
- (b) 床版支間が変化する場合、最大値を入力する。



(15) 床版厚

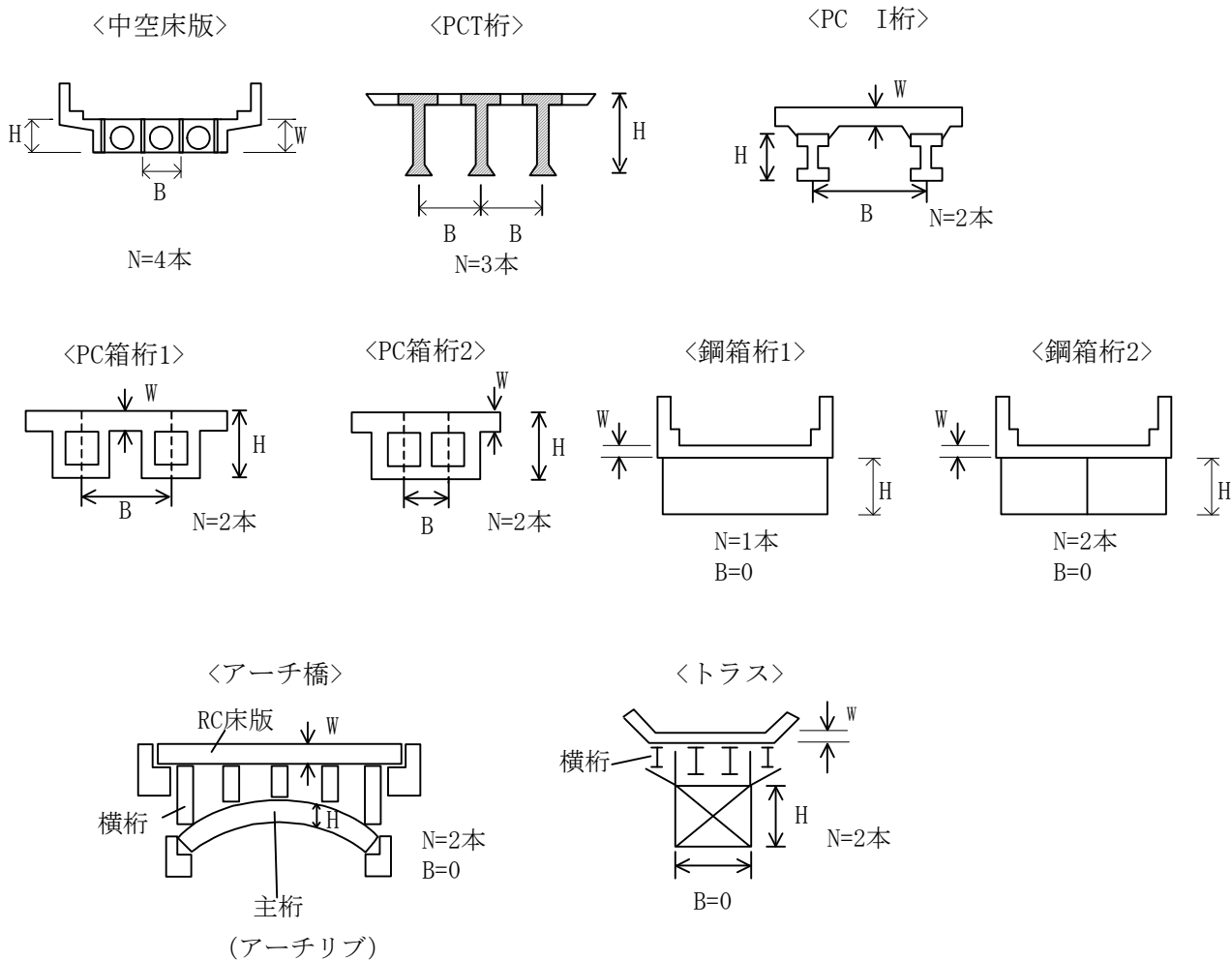
当該上部工の平均床版厚 (cm) を入力する。鋼床版厚の入力に限り (mm) 単位で入力する。  
 3 径間連続鉄桁等で支間毎に床版厚が変化する場合は平均の床版厚とする。



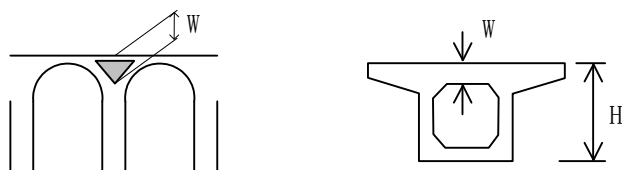
(16) 主桁高

当該上部工の最大主桁高 (m) を入力する。

主桁高さ (H)、主桁間隔 (B)、主桁本数 (N)、床版厚 (W)



- (a) 中空床版橋は、主桁 (H) と床版厚 (W) は同一でよい。
- (b) 拡幅部等主桁間隔が異なる場合は最大値を入力する。
- (c) 連続箱桁 (ディビダーク) 等、主桁高が変化している場合は最大値を入力する。
- (d) バチ型橋のときはその最大値を入力する。
- (e) アーチ橋で中詰土 (中詰土の上は舗装のみ) の場合の床版厚 (W) は「0」とする。
- (f) 充腹式アーチ橋の場合、アーチリブから舗装面までを桁高とする。



## 第7編 橋梁

- (g) PC 合成桁の場合主桁高 (H) は主桁のみの高さとする。
- (h) PC 箱桁の場合主桁高 (H) は床版厚 (W) を含む。

### (17) 主桁間隔

当該上部工の当該径間の最大主桁間隔 (m) を入力する。  
前項目「(16) 主桁」に示す主桁高の図を参照のこと。

### (18) 主桁本数

当該上部工(箇所番号)の当該径間の主桁本数を入力する。  
主桁本数が増える場合、最大本数を入力する。



### (19) 舗装種別

当該上部工(箇所番号)の床版上に施工されている舗装の表層部分について、種別をコードから選択して入力する。

### (20) 舗装厚

当該上部工(箇所番号)の床版上に施工されている舗装の厚さ (cm) を入力する。  
現在アスファルト舗装から高機能 (排水性) 舗装になり、構成の表層が排水性 4cm 基層が砕石マスチック 3.5cm となってきた。  
⇒舗装種別では、表層部分の種別を示し、厚さは表層+基層の 7.5cm とする。

### (21) 継手の種別

当該上部工(箇所番号毎)に設置している鋼材の継手方法をコードから選択して入力する。

### (22) 【削除】

### (23) 【削除】

### (24) 【削除】

- (25) 床版コンクリート体積  
当該径間（箇所番号）における床版コンクリートの体積（ $m^3$ ）を入力する。PCT型のコンクリート体積は、間詰の部分の寸法によって算出する。（地覆、壁高欄を含む）
- (26) 床版鉄筋重量  
当該径間（箇所番号）の床版部で使用した鉄筋重量（t）を入力する。（地覆、壁高欄を含む）  
グレーチング床版のときはグレーチング重量を入力する。またPC桁のときは、桁を除く床版・地覆・高欄部分のみ重量を入力する。
- (27) コンクリート体積  
当該上部工（箇所番号）で使用したコンクリート体積（ $m^3$ ）を入力する。（床版、地覆、壁高欄を除く上部工）
- (28) 鉄筋重量  
当該上部工（箇所番号）で使用した鉄筋重量（t）を入力する。横桁の数量は、主桁に含めるものとする。（床版、地覆、壁高欄を除く上部工）
- (29) 型枠面積  
当該上部工（箇所番号）で使用した型枠面積（ $m^2$ ）を入力する。（床版、地覆、壁高欄を除く上部工）
- (30) PC鋼材縦締重量  
「3-3-4. 径間情報(15)橋種」の橋種コードが「PC橋」の場合、縦締めPC鋼材の重量(t)を入力する。
- (31) PC鋼材横締重量  
「3-3-4. 径間情報(15)橋種」の橋種コードが「PC橋」の場合、横締めPC鋼材の重量(t)を入力する。
- (32) PC鋼材その他重量  
「3-3-4. 径間情報(15)橋種」の橋種コードが「PC橋」の場合、縦・縦締め以外で使ったPC鋼材の重量(t)を入力する。桁連結材等を入力する。
- (33) ハイテンボルト  
「3-3-4. 径間情報(15)橋種」の橋種コードが「鋼橋」の場合、当該径間で使用したハイテンションボルトの重量(t)を入力する。

## 第7編 橋梁

(34) SM570

「3-3-4. 径間情報(15) 橋種」の橋種コードが「鋼橋」の場合、当該径間で使用した SM570 の重量 (t) を入力する。

(35) SM520, SM490Y, SM490

「3-3-4. 径間情報(15) 橋種」の橋種コードが「鋼橋」の場合、当該径間で使用した SM520、SM490Y、SM490 の重量 (t) を入力する。

(36) SM400, SS400

「3-3-4. 径間情報(15) 橋種」の橋種コードが「鋼橋」の場合、当該径間で使用した SM400、SS400 の重量 (t) を入力する。

(37) 本体鋼重合計

先の項目「3-3-6. 上部工概要 (33) ハイテンボルト」から「3-3-6. 上部工概要 (36) SM400、SS400」までの重量を合計したものを入力する。

(38) その他鋼重

当該上部工（箇所番号）に設置した本体鋼以外の鋼材の重量 (t) を入力する。（支承、伸縮装置、検査路、その他重量を含む）

(39) 総鋼橋重量

鋼橋上部工全体の総重量 (t) を入力する。

(40) 設計契約番号

当該上部工の詳細（最終）設計業務の発注契約番号を入力する。

(41) 施工契約番号

当該上部工の工事の発注契約番号を入力する。

(42) 工費

当該上部工の工費（千円）を入力する。同一橋種の橋梁を一工事件名で複数施工した場合の一橋当りの工費は、橋面積で比例分配して入力する。

## 3-3-7 上部工補修記録

上部工補修記録は、当該橋梁の各箇所番号における主桁・主構、縦桁、対傾構、横桁、床版等の補修に関するデータを示すものである。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) 【削除】

(9) 【削除】

(10) 【削除】

(11) 橋台・橋脚番号(自)

「3-3-4. 径間情報 (12) 橋台・橋脚番号 (自)」で示した橋台・橋脚番号 (自) と関連するものを入力する。

(12) 橋台・橋脚番号(至)

「3-3-4. 径間情報 (14) 橋台・橋脚番号 (至)」で示した橋台・橋脚番号 (至) と関連するものを入力する。

(13) 補修箇所

当該上部工の補修箇所をコードから選択して入力する。(主桁・主構、縦桁、対傾構、横桁、床版等)

(14) 補修年月

当該上部工の補修工事がしゅん功した年月を入力する。(2002年2月→200202)

## 第7編 橋梁

### (15) 補修補強理由

当該上部工の補修及び補強を実施した理由をコードから選択して入力する。(漏水・遊離石灰、ひび割れ・角落ち、はくり・抜け落ち等) 最大3つまで入力する。

### (16) 補修補強工法

当該上部工の補修補強対策工法をコードから選択して入力する。(鋼板接着工法、部分取替え、防水工等)

### (17) 補修・補強数量

当該上部工の補修・補強工事を実施した面積 (m<sup>2</sup>)・体積 (m<sup>3</sup>) を入力する。

### (18) 補修・補強数量単位

当該上部工の補修・補強工事を実施した面積 (m<sup>2</sup>)・体積 (m<sup>3</sup>) の数量単位をコードから選択して入力する。

### (19) 材料

当該上部工の補修・補強工事に使用した材料をコードから選択して入力する。最大4つまで入力する。(鉄筋、コンクリート、鋼板、樹脂モルタル等)

### (20) 数量

当該上部工の補修・補強工事に使用した材料の数量を入力する。最大4つまで入力する。

### (21) 単位

当該上部工の補修・補強工事に使用した材料の数量単位をコードから選択して入力する。(kg、t、m、m<sup>2</sup>、箇所等)

### (22) 使用材料名

当該上部工の補修・補強工事に使用した材料名若しくは製品名を入力する。

### (23) 損傷原因

当該補修箇所の損傷原因をコードから選択して入力する。(塩害、中性化、アルカリ骨材反応、老朽化等) 最大3つまで入力する。

### (24) コメント

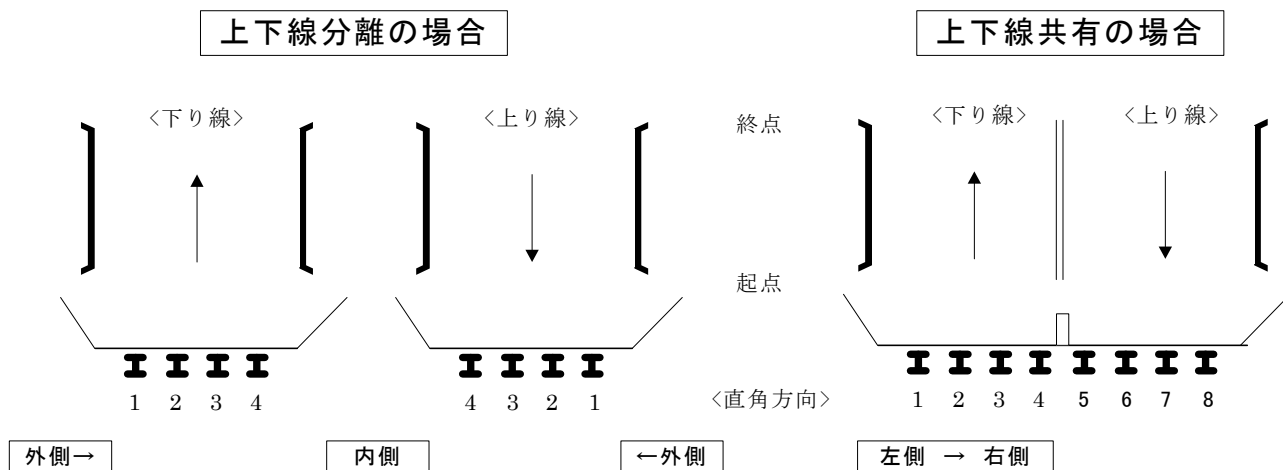
補修工事おける留意事項や記録事項等を250字以内で入力する。



(25) 補修位置・直角方向 1

当該補修箇所の橋直角方向の補修位置を2桁までの数字で入力する。□□/■ ■を入力する。(子数□□を入力する。)

- (a) 各橋種毎に番号を連番で付与する。
- (b) 起点側から終点側へ、外側から内側に連番とする。若しくは、進行向に対し、左側から右側へ連番とする。
- (c) また、上下線共有の場合は、下り線を基準とし上下線を連番で付与する。

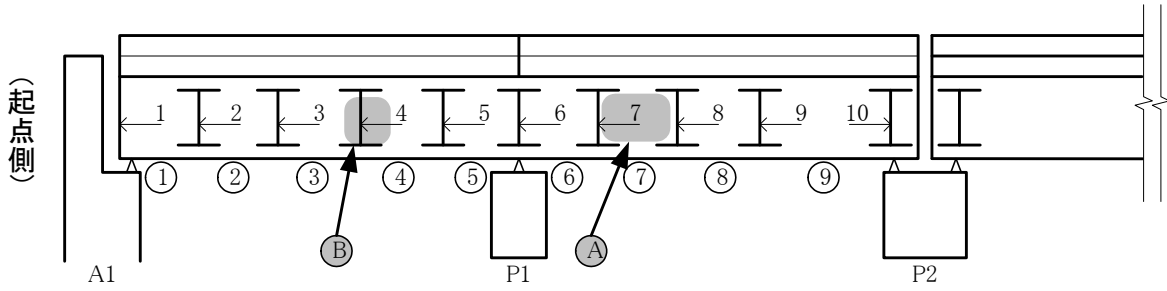
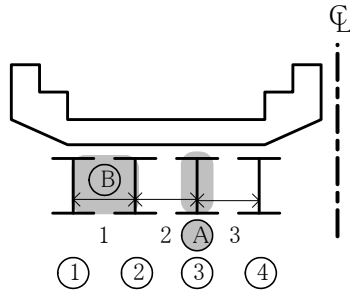


下表の橋種について、入力例を以下に示す。

項目	橋種
1	桁橋
2	鋼トラス
3	箱桁橋
4	RC、PC ホローまたはPC 箱桁
5	アーチ橋
6	斜長橋

【1.桁橋】

Ⓜ:主桁の補修の場合  
の番号の付け方  
n :横桁の補修の場合  
の番号の付け方



橋軸方向は起点側から、径間単位(一連単位)直角方向は外から中央に向かって番号をふる。

主桁の補修の場合(Ⓜ)の表示方法

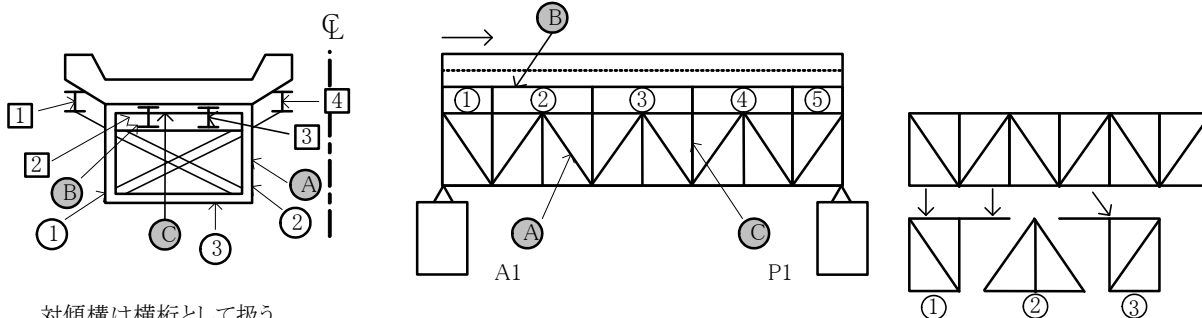
橋台・橋脚番号(自)	橋台・橋脚番号(至)	直角方向 部材位置／総部材数	橋軸方向 部材位置／総部材数
P0001	P0002	03/04	07/09

上記記入例はP1橋脚からP2橋脚間にある4主桁中3番目の桁、橋軸方向の全体9区間中7番目の主桁を補修して結合横桁の補修の場合(Ⓜ)の表示方法

橋台・橋脚番号(自)	橋台・橋脚番号(至)	直角方向 部材位置／総部材数	橋軸方向 部材位置／総部材数
A0001	P0001	01/03	04/10

## 【2. 鋼トラス】

Ⓧ : 主桁補修の場合の番号の付け方  
 ㊦ : 縦桁補修の場合の番号の付け方



対傾構は横桁として扱う。

※異なる斜材は前にする。

主桁の補修の場合(Ⓧ)の表示方法

橋台・橋脚番号(自)	橋台・橋脚番号(至)	直角方向	橋軸方向
A0001	P0001	02/03	02/05

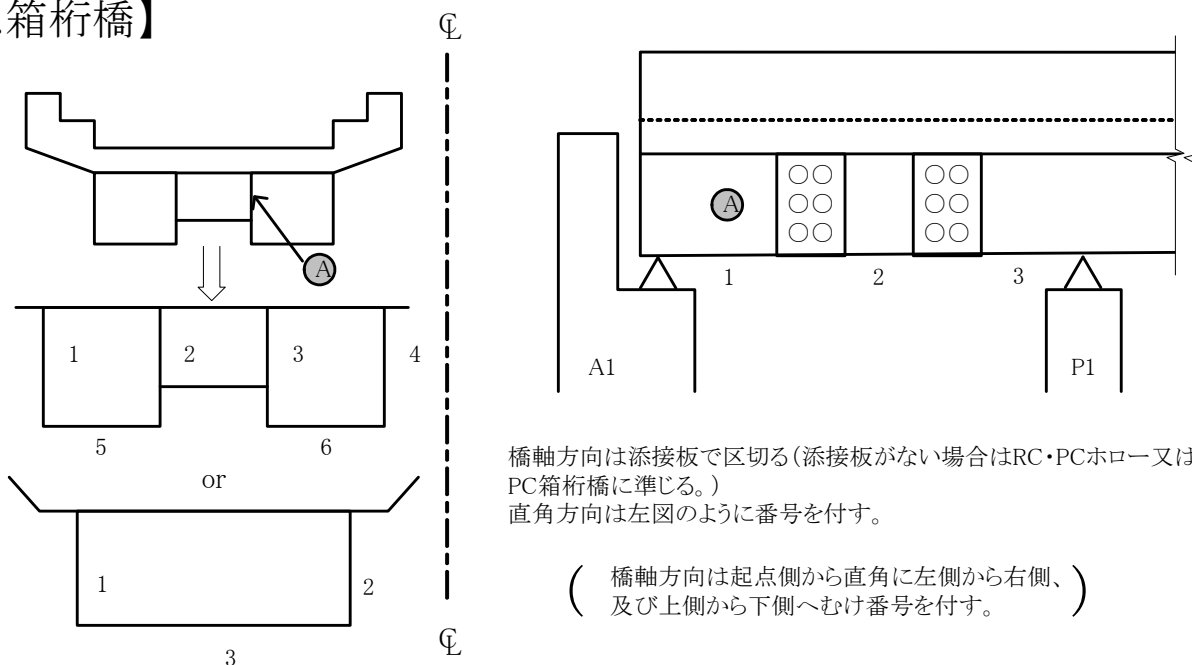
縦桁の補修の場合(㊦)の表示方法

橋台・橋脚番号(自)	橋台・橋脚番号(至)	直角方向	橋軸方向
A0001	P0001	02/04	02/05

横桁の補修の場合(Ⓧ)の表示方法

橋台・橋脚番号(自)	橋台・橋脚番号(至)	直角方向	橋軸方向
A0001	P0001	02/03	02/05

## 【3. 箱桁橋】



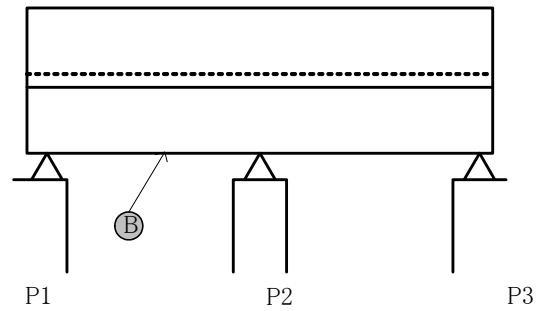
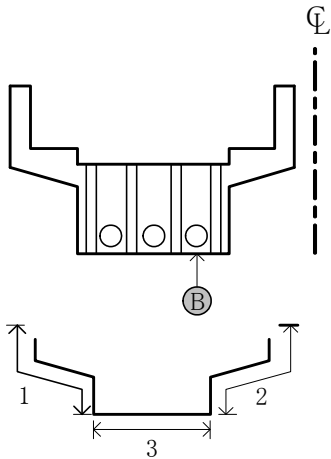
橋軸方向は添接板で区切る(添接板がない場合はRC・PCホラー又はPC箱桁橋に準じる。)  
 直角方向は左図のように番号を付す。

( 橋軸方向は起点側から直角に左側から右側、及び上側から下側へむけ番号を付す。 )

主桁の補修の場合(Ⓧ)の表示方法

橋台・橋脚番号(自)	橋台・橋脚番号(至)	直角方向	橋軸方向
A0001	P0001	03/06	01/03

### 【4.PCホロ-又はPC箱桁】

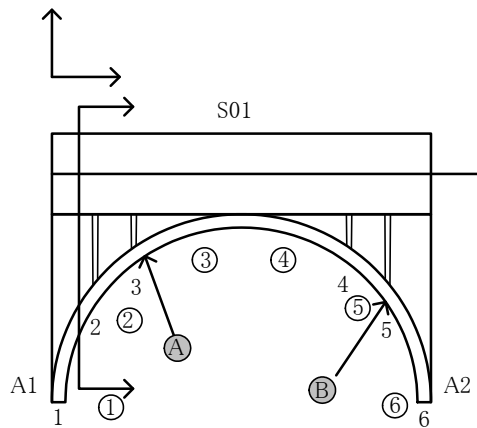
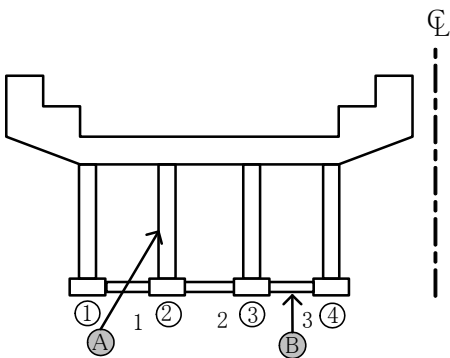


橋軸方向は00を入力する。  
 (RC、PCホロ-又はPC箱桁の場合)  
 直角方向は左図のように番号を付ける。

底面を補修した場合(ⓑ)の表示方法

橋台・橋脚番号(自)	橋台・橋脚番号(至)	直角方向	橋軸方向
P0001	P0002	03/03	01/02

### 【5.アーチ橋】



ⓐ : 主桁補修の場合の  
 番号の付け方  
 ㉑ : 縦桁補修の場合の  
 番号の付け方

橋軸方向は垂直材及びアーチクラウン結合部で分ける。

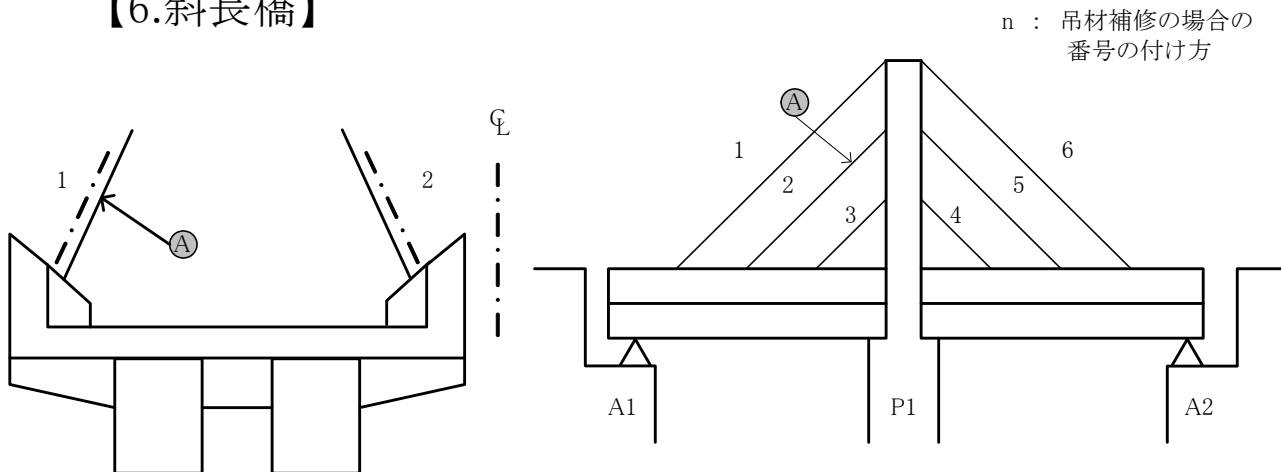
主桁の補修の場合(ⓐ)の表示方法

橋台・橋脚番号(自)	橋台・橋脚番号(至)	直角方向	橋軸方向
A0001	A0002	02/04	03/06

縦桁の補修の場合(㉑)の表示方法

橋台・橋脚番号(自)	橋台・橋脚番号(至)	直角方向	橋軸方向
A0001	A0002	03/03	05/06

### 【6.斜長橋】

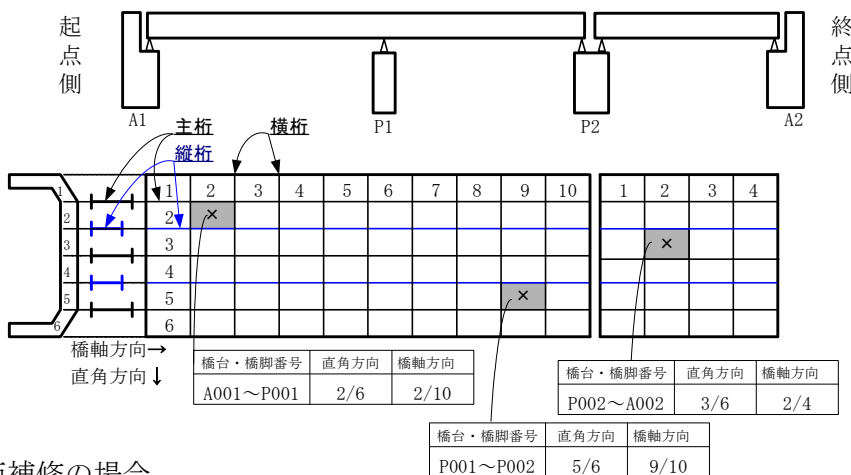


n : 吊材補修の場合の  
番号の付け方

吊材の補修の場合 (A) の表示方法

橋台・橋脚番号(自)	橋台・橋脚番号(至)	直角方向	橋軸方向
A0001	P0001	01/02	02/06

### 【7.床版】



全面補修の場合



全面補修の場合の直角方向、橋軸方向は、次の固定値を入力数する。  
直角方向 10/10  
橋軸方向 00/00

(26) 補修位置・直角方向 2

当該補修構造物の直角方向の全個所数を 2 桁までの数字で入力する。■■/□□を入力する。(母数□□を入力する。)

## 第7編 橋梁

(27) 補修位置・橋軸方向1

当該補修箇所の橋軸方向の補修位置を2桁までの数字で入力する。□□/■ ■を入力する。  
(子数□□を入力する。)

(28) 補修位置・橋軸方向2

当該補修構造物の橋軸方向の全箇所数を2桁までの数字で入力する。■ ■/□□を入力する。  
(母数□□を入力する。)

(29) 設計契約番号

当該補修箇所の詳細(最終)設計業務の発注契約番号を入力する。

(30) 施工契約番号

当該補修箇所の工事の発注契約番号を入力する。

(31) 示方書年度

当該橋梁の上部工設計に適用した技術基準「道路橋示方書(日本道路協会)」の版年度を和暦で入力する。

(32) 【削除】

3-3-8 【削除】 上部工補修記録資料

3-3-9 橋台橋脚番号入力

橋台橋脚番号入力は、各橋台・橋脚の所在地を下部工順番号毎に入力するものである。

なお、拡幅工事（拡幅部分）のデータ入力については、「拡幅橋台橋脚番号」に入力する。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

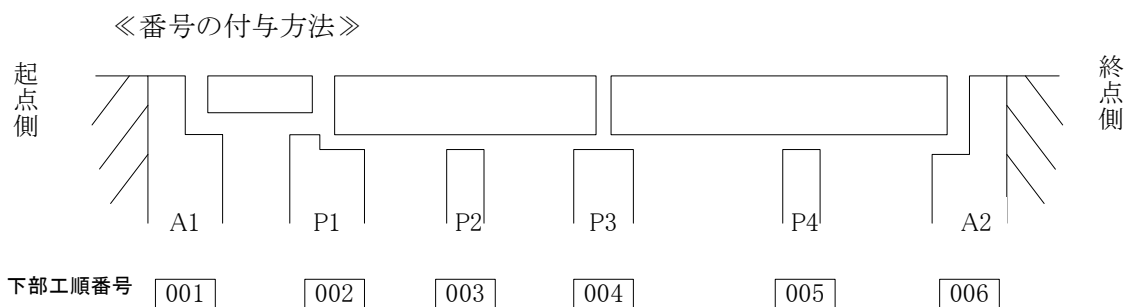
(8) 【削除】

(9) 【削除】

(10) 下部工順番号

1 橋梁名の中で、起点側から下部工の順番を 3 桁の重複しない番号で入力する。

番号の付与は、起点側から上下線区分毎の通番とする。



(11) 橋台・橋脚番号

橋台・橋脚番号の付与方法については、「[3-1-9 基本定義 下部工 橋台・橋脚番号の付与方法](#)」を参照。

## 第7編 橋梁

### (12) 橋台・橋脚名称

当該下部工に、設置されたプレートの内容・呼称・図面で使用している記号 (A1, P1, P2) 等を入力する。

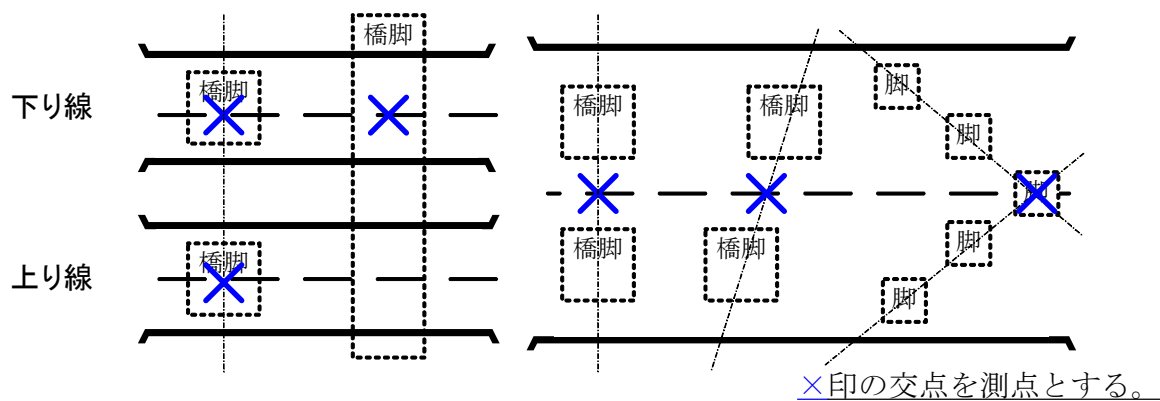
### (13) 起点側箇所番号

当該下部工が支持する上部工の箇所番号を 3 桁までで入力する。掛違いとなる橋脚については、起点側の上部工の箇所番号を入力する。

### (14) STA・KP・NO の測点作成方法

橋脚の測点位置は、天端の中心とするが、橋脚が複数ある場合は、橋脚天端の中心と道路の中心が交差する点を測点とする。

建設時と補修時（供用後管理段階）では、測点の単位に相違があり、その測点の作成方法について示すものである。



#### (a) 建設時

建設時の測点は、STA を用いるものとするが、KP がわかる場合は、管理\_KP 及び管理\_NO についても作成する。

##### (ア) 建設\_STA

当該橋脚の測点を入力する。

##### (イ) 建設\_NO

当該橋脚がランプに存在する場合において測点を入力する。

#### (b) 補修時（供用後管理段階）

補修時の測点は、KP を用いるものとする。

##### (ア) 管理\_KP

当該橋脚の測点を入力する。

##### (イ) 管理\_NO

当該橋脚がランプに存在する場合において測点を入力する。



(15) 掛違い区分

当該橋脚と上部工との支持関係をコードから選択して入力する。(掛違い部、支間部)

(16) 下部工形式

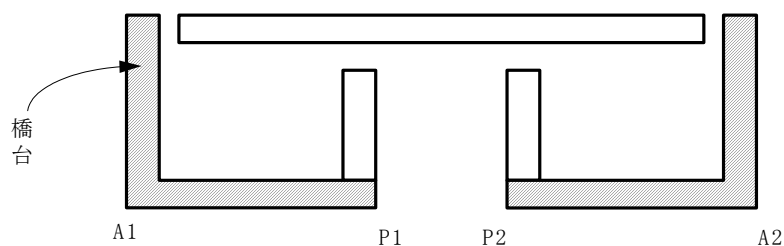
当該下部工の型式・形状をコードから選択して入力する。(重量式橋台、半重力式橋台、RC支柱式橋台等)

下部工形状により下表のケース毎に判断基準を定義するので、確認の上データ作成を行うこととする。

【 判断基準 】

項目	ケース
(a)	橋台と橋脚の分け方
(b)	橋脚形状による形式分類

(a) 橋台と橋脚の分け方



上図の場合には、橋台は斜線部とし、形式は「その他橋台」とする

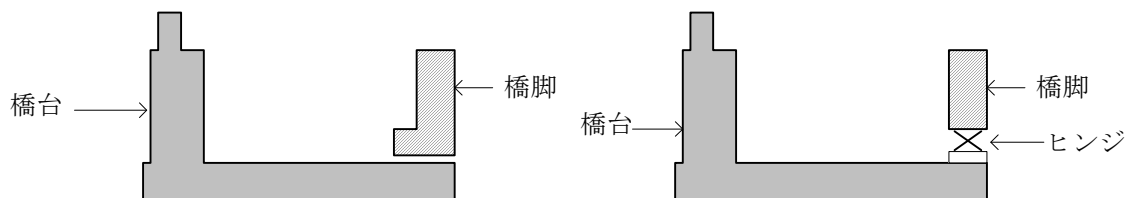


この区間で 上下線に分離 (目地切り含む) していれば上・下線別々に計上する

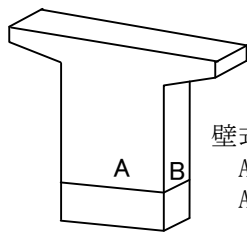
フーチングは上下共有とし下り線に上下線一体のデータを入力する (目地切りの場合は上・下線別々に計上)



: 橋台がこの様な場合は、フーチング部数量を全て0とする。

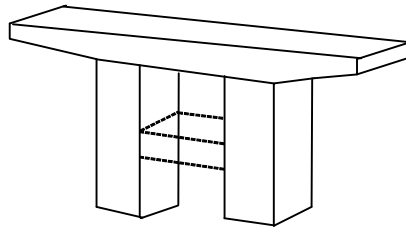


(b) 橋脚形状による形式分類

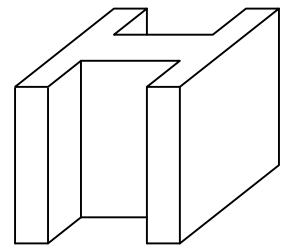


壁式橋脚

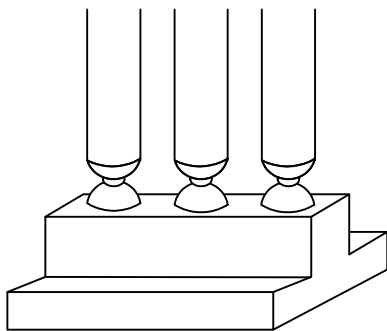
壁式と柱式の区分  
 $A/B \geq 4$ は壁式  
 $A/b < 4$ は柱式



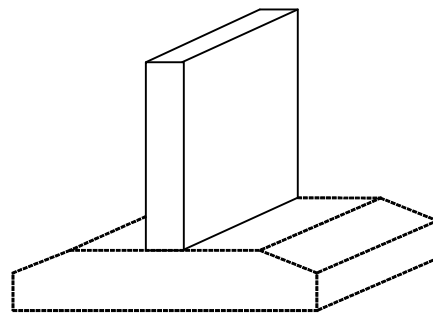
一層ラーメン脚部  
(点線：二層ラーメン脚部)



I型断面橋脚



柱式ロックンク橋脚



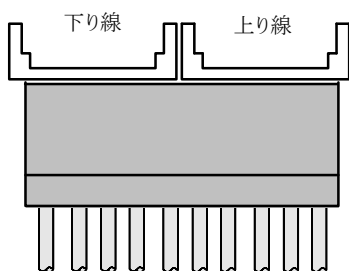
壁式ロッカー橋脚

(17) 下部工設置形態

当該下部工の設置形態をコードから選択して入力する。(上下線別、上下線共有(主)、上下線共有(従))

上下線共有の場合、下り線でデータ作成することから下り線の下部工設置形態は、上下線共有(主)とする。上り線の下部工設置形態は、上下線共有(従)とする。

A橋の場合



橋台橋脚番号入力

橋梁	上下線区分	橋台橋脚番号	下部工形式	下部工設置形態	基礎工形式	基礎工設置形態
A橋	下り線	P0002	壁式橋脚	上下線共有(主)	杭基礎	上下線共有(主)
A橋	上り線	P0002	壁式橋脚	上下線共有(従)	杭基礎	上下線共有(従)

下部工情報

橋梁	上下線区分	橋台橋脚番号	高さ	固定・可動	.....(以下省略)
A橋	下り線	P0002	10	固定	

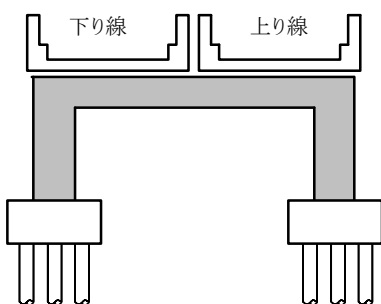
※上り線の下部工情報は、データ作成不要

基礎工情報

橋梁	上下線区分	橋台橋脚番号	杭長	杭径	杭本数	.....(以下省略)
A橋	下り線	P0002	60	500	10	

※上り線の基礎工情報は、データ作成不要

B橋の場合



橋台橋脚番号入力

橋梁	上下線区分	橋台橋脚番号	下部工形式	下部工設置形態	基礎工形式	基礎工設置形態
B橋	下り線	P0002	ラーメン橋脚	上下線共有(主)	杭基礎	上下線別
B橋	上り線	P0002	ラーメン橋脚	上下線共有(従)	杭基礎	上下線別

下部工情報

橋梁	上下線区分	橋台橋脚番号	高さ	固定・可動	.....(以下省略)
B橋	下り線	P0002	10	固定	

※上り線の下部工情報は、データ作成不要

基礎工情報

橋梁	上下線区分	橋台橋脚番号	杭長	杭径	杭本数	.....(以下省略)
B橋	下り線	P0002	60	500	3	
B橋	下り線	P0002	60	500	3	

(18) 基礎工形式

当該下部工の基礎形式をコードから選択して入力する。(直接基礎、RC 既製杭、RC 現場打杭、ケーソン等)

(19) 基礎工設置形態

当該基礎工の設置形態をコードから選択して入力する(上下線別、上下線共有(主)、上下線共有(従))。前項目「(17) 下部工設置形態」の図を参照のこと。

3-3-10 下部工（構造物単位）情報

下部工（構造物単位）情報は、「橋台橋脚番号入力」で示した下部工順番号毎に構造物に関するデータを入力するものである。

なお、拡幅工事（拡幅部分）のデータ入力については、「拡幅橋下部工」に入力する。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

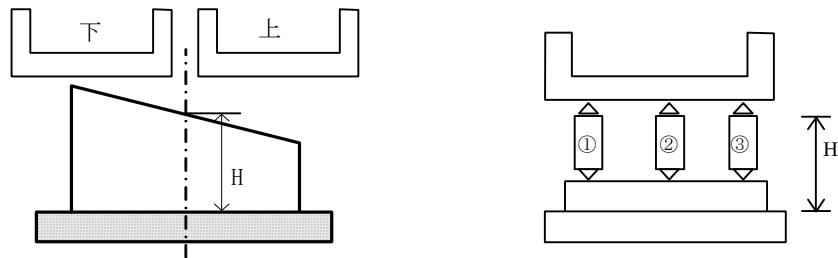
(8) 【削除】

(9) 【削除】

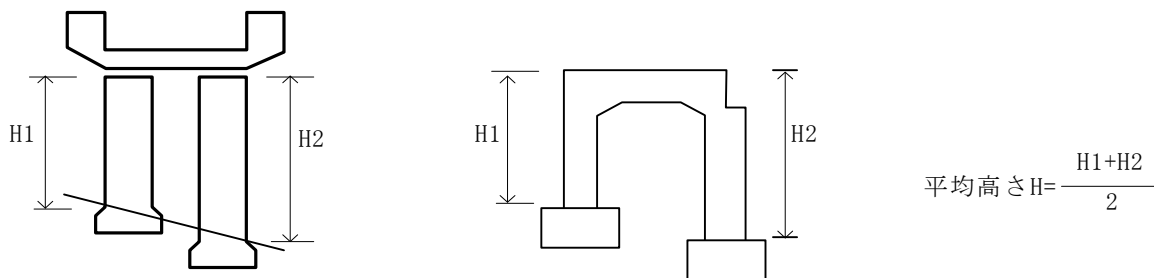
(10) 【削除】

(11) 平均高さ

平均の高さは、フーチング上面より橋脚・橋台の躯体部天端までの高さ (m) を入力する。  
複柱の場合も各支柱の高さを合計し、平均したものを入力する。



下図のように2つの橋脚がある場合は、フーチングの上端から橋脚天端までの高さを平均したものとする。



(12) 固定可動

当該下部工に設置されている支承の条件をコードから選択し入力する。

連続箱桁（PC片持施工）のときは、固定、掛違いの橋脚のときは固定・可動いずれの場合もそれぞれに入力する。

掛違い箇所において、橋名が同じ場合、異なる場合いずれにおいても（a）～（c）の入力方法とし1橋脚につき1件若しくは2件のデータを入力する。

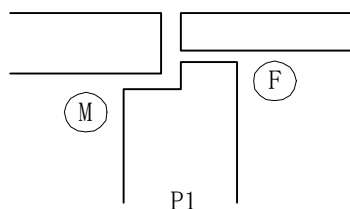
ラーメン橋脚等の特殊な場合（1橋脚において支承が3点以上存在するもの）については、（d）、（e）の入力方法とする。

固定可動コードは、下表のケース毎に判断基準を定義するので、確認の上データ作成を行うこととする。

【 判断基準 】

号	ケース
(a)	固定+可動の場合
(b)	固定+固定の場合
(c)	可動+可動の場合
(d)	一橋名の橋梁の場合
(e)	橋梁名が異なる場合

(a) 固定+可動の場合



橋台橋脚番号  
「P0001」

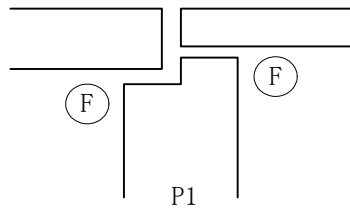
固定・可動コード  
「固定」 + 「可動」

固定・可動コード

固定	剛結	弾性+弾性
可動	剛結+可動	弾性+固定
固定+固定	剛結+固定	弾性+可動
可動+可動	弾性	弾性+剛結
固定+可動		剛結+剛結

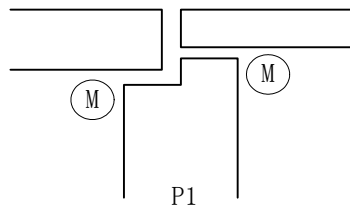
「免震支承：E」は、「弾性」とする。

(b) 固定+固定の場合



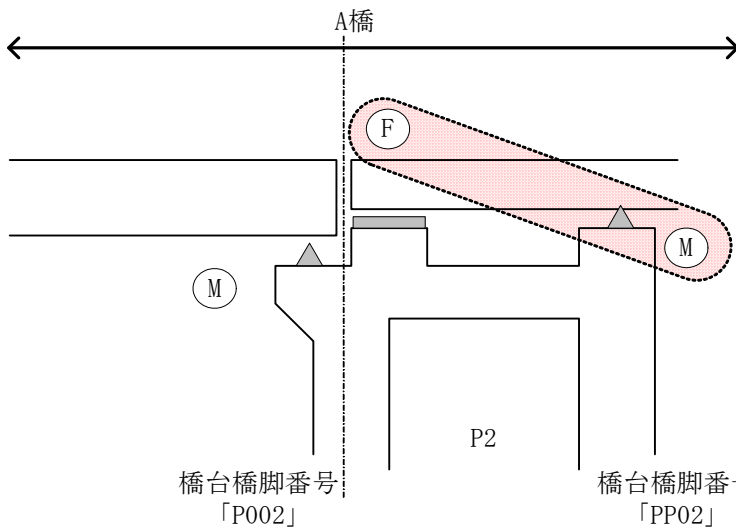
橋台橋脚番号 「P0001」 固定・可動コード 「固定」 + 「固定」

(c) 可動+可動の場合



橋台橋脚番号 「P0001」 固定・可動コード 「可動」 + 「可動」

(d) 一橋名の橋梁の場合



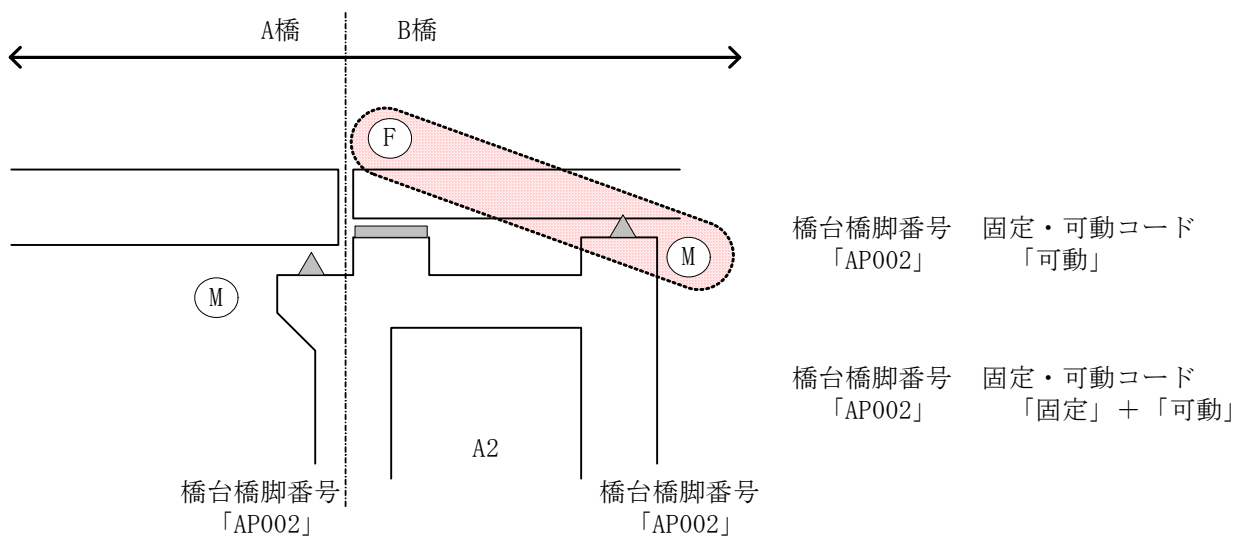
橋台橋脚番号 「P002」 固定・可動コード 「可動」

橋台橋脚番号 「PP02」 固定・可動コード 「固定」 + 「可動」

橋台橋脚番号 「P002」

橋台橋脚番号 「PP02」

(e) 橋梁名が異なる場合



(13) 示方書年度

当該橋梁の下部工設計に適用した技術基準「道路橋示方書（日本道路協会）」の版年度を和暦で入力する。

(14) 【削除】

(15) 【削除】

(16) 【削除】

(17) 【削除】

(18) 【削除】

(19) 【削除】

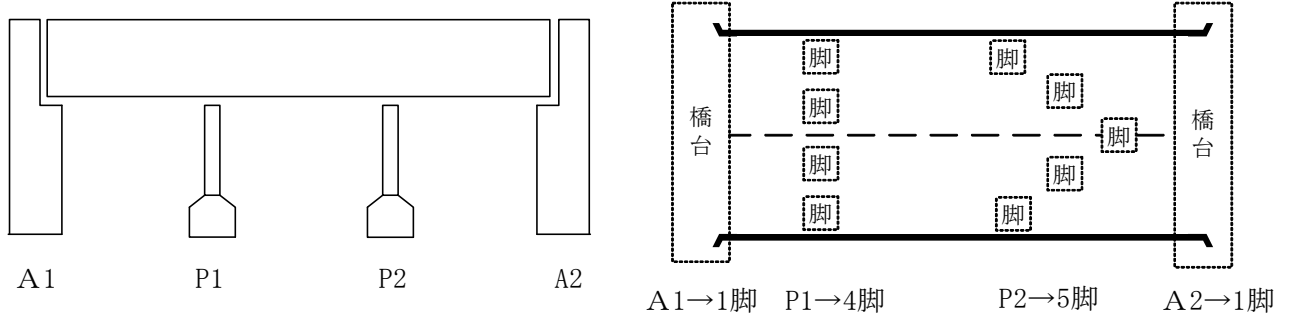
(20) 【削除】

(21) 【削除】

第7編 橋梁

(22) 柱本数

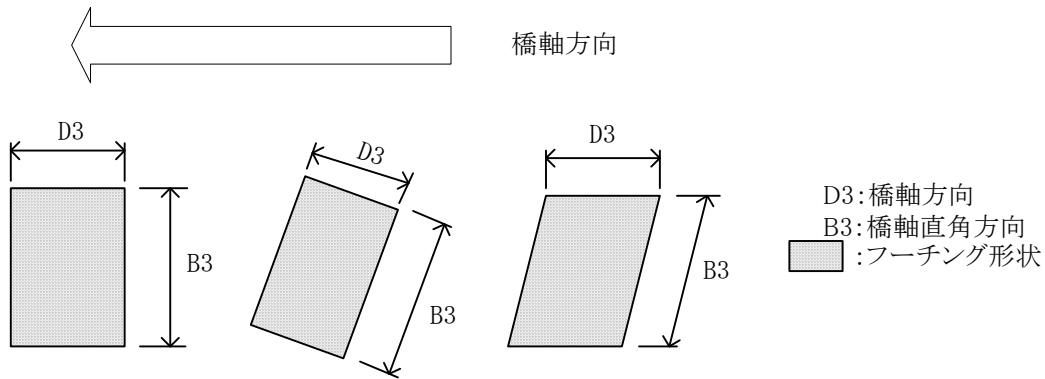
当該下部工の横断方向に並列する支柱本数を入力する。



(23) フーチング橋軸方向 (D3)

当該下部工フーチング橋軸方向の幅 (m) を入力する。

上下線一体の橋台橋脚の場合は上下線一体の寸法を下り線側橋梁に入力し、上り線側橋梁は空白とする。



(24) フーチング橋軸直角方向 (B3)

当該下部工フーチング橋軸直角方向の幅 (m) を入力する。

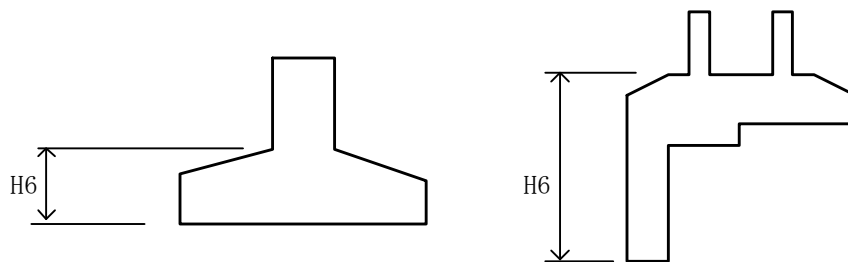
前項目「(23) フーチング橋軸方向 (D3)」の図を参照のこと。

(25) 【削除】

(26) 【削除】

(27) フーチング最大厚さ (H6)

当該下部工フーチングの最大厚さ (m) を入力する。

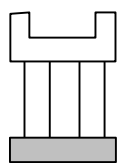




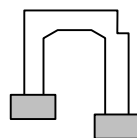
(28) 【削除】

(29) 基数

フーチングの基数を入力する。



フーチング数：1



フーチング数：2

(30) 検査路有無

当該下部工における検査路Bの有無をコードから選択し入力する。

(31) 検査梯子有無

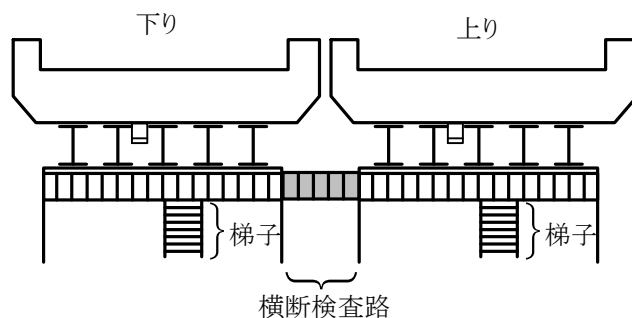
当該下部工における梯子の有無をコードから選択し入力する。

(32) 本線昇降梯子有無

当該下部工より本線に昇降できる梯子の有無をコードから選択し入力する。

(33) 横断検査路有無

当該橋脚から横断方向の橋脚に移動できる検査路の有無をコードから選択し入力する。



(34) 設計震度（水平）

当該橋梁の設計震度（水平）（KH）を入力する。

(35) 設計震度（鉛直）

当該橋梁の設計震度（鉛直）（KV）を入力する。

(36) コンクリート体積（躯体）

当該下部工の躯体部で使用したコンクリート体積（ $m^3$ ）を入力する。

## 第7編 橋梁

- (37) コンクリート体積（フーチング）  
当該下部工のフーチングで使用したコンクリート体積（ $m^3$ ）を入力する。
- (38) 鉄筋重量（躯体）  
当該下部工の躯体部で使用した鉄筋重量（t）を入力する。
- (39) 鉄筋重量（フーチング）  
当該下部工のフーチングで使用した鉄筋重量（t）を入力する。
- (40) 型枠面積（躯体）  
当該下部工の躯体部で使用した型枠面積（ $m^2$ ）を入力する。
- (41) 型枠面積（フーチング）  
当該下部工のフーチングで使用した型枠面積（ $m^2$ ）を入力する。
- (42) 下部工しゅん功年月  
当該下部工工事のしゅん功年月を入力する。
- (43) 設計契約番号  
当該下部工の詳細（最終）設計業務の発注契約番号を入力する。
- (44) 施工契約番号  
当該下部工工事の発注契約番号を入力する。
- (45) 【削除】
- (46) 備考  
当該下部工での留意事項等を入力する。

## 3-3-11 下部工補修記録

下部工補修記録は、橋脚の下部工順番号毎に補修を実施した工事に関するデータを入力するものである。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) 【削除】

(9) 【削除】

(10) 【削除】

(11) 補修年月

補修工事がしゅん功した年月を入力する。

(12) 補修箇所

下部工の補修箇所をコードから選択して入力する。

(躯体、ウィング、パラペット、フーチング等)

(13) 補修工法

下部工の補修補強対策をコードから選択して入力する。

(コンクリート巻立て、増杭、フーチング拡大等)

(14) 損傷原因

下部工の損傷原因をコードから選択して入力する。(塩害、中性化、アルカリ骨材反応、老朽化等)

## 第7編 橋梁

(15) 補修理由

下部工の補修及び補強を実施した理由については、コードから選択して入力する。(ひび割れ・角落ち、はくり・鉄筋の露出・腐食 等) 最大3つまで入力する。

(16) 補修・補強数量

当該下部工の補修・補強工事を実施した数量を入力する。

(17) 補修・補強数量単位

当該下部工の補修・補強工事を実施した面積・体積の数量単位をコードから選択して入力する。(kg、t、m、m<sup>2</sup>、m<sup>3</sup>、箇所等)

(18) コメント

当該補修工事において連絡・記録事項等を250字以内で入力する。

(19) 材料

補修・補強工事に使用した材料をコードから選択して入力する。(鉄筋、コンクリート、鋼板、樹脂モルタル等) 最大5つまで入力する。

(20) 数量

補修・補強工事に使用した材料の数量を入力する。  
最大5つまで入力する。

(21) 示方書年度

当該橋梁の下部工設計に適用した技術基準「道路橋示方書(日本道路協会)」の版年度を和暦で入力する。

(22) 設計契約番号

当該補修箇所の詳細(最終)設計業務の発注契約番号を入力する。

(23) 施工契約番号

当該補修箇所の工事の発注契約番号を入力する。

(24) 【削除】

3-3-12 【削除】 下部工補修記録資料

## 3-3-13 落橋防止装置

下部工順番毎に落橋防止装置の有無、種別、補修内容 等を示すものである。1 下部工に複数種類の落橋防止装置がある場合は、全ての種類についてデータを入力する。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) 【削除】

(9) 【削除】

(10) 【削除】

(11) 落橋防止有無

落橋防止装置の有無をコードから選択して入力する。

(12) 種別

落橋防止装置の設置目的をコードから選択して入力する。(縁端拡幅、桁連結、桁移動制限 等)

(13) 設置箇所数

当該下部工の上に設置されている落橋防止装置の種別毎の個数を入力する。

(14) 設置又は補修年月

設置又は補修（施工）を行った年月を西暦で入力する。

(15) 使用材料

落橋防止装置の種別毎に使用している材料をコードから選択して入力する。

## 第7編 橋梁

(16) 補修内容

落橋防止装置の補修を実施した場合、補修内容をコードから選択して入力する。(新設、取替、型式変更等)

(17) 【削除】

(18) 施工契約番号

当該施工箇所の子工事の発注契約番号を入力する。

(19) 【削除】

3-3-14 耐震補強

下部工順番号毎に、耐震補強の状況をデータ入力するものである。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) 【削除】

(9) 【削除】

(10) 【削除】

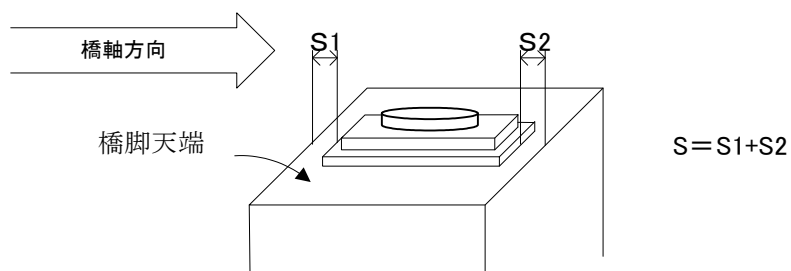
(11) 【削除】

(12) 【削除】

(13) 【削除】

(14) 支承縁端距離

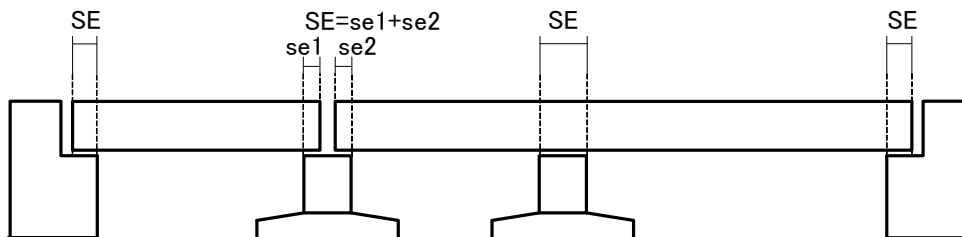
橋軸方向の支承縁端と橋脚天端の縁端との距離 (S) (cm) を入力する。



第7編 橋梁

(15) けたかかり長

当該下部工に架る上部工のけたかかり長 (SE) (cm) を入力する。



(16) 変位制限構造の有無

耐震補強変位制限構造の有無を入力する。

(17) 【削除】

(18) 【削除】

(19) 【削除】

(20) 【削除】

(21) 【削除】

(22) 【削除】

(23) 【削除】

(24) 【削除】

(25) 【削除】

(26) 【削除】

(27) 【削除】

(28) 【削除】

(29) 【削除】



(30) 【削除】

(31) 【削除】

(32) 【削除】

(33) 【削除】

(34) 【削除】

(35) 【削除】

(36) 【削除】

(37) 【削除】

(38) 【削除】

(39) 【削除】

(40) 【削除】

(41) 【削除】

(42) 【削除】

(43) 【削除】

(44) 【削除】

(45) 【削除】

(46) 【削除】

(47) 【削除】

(48) 【削除】

第7編 橋梁

(49) 【削除】

(50) 【削除】

(51) 【削除】

(52) 【削除】

(53) 【削除】

(54) 【削除】

(55) 【削除】

(56) 【削除】

(57) 【削除】

(58) 【削除】

(59) 【削除】

(60) 【削除】

(61) 【削除】

(62) 【削除】

(63) 【削除】

(64) 【削除】

(65) 【削除】

(66) 【削除】

(67) 【削除】

(68) 【削除】

(69) 【削除】

(70) 【削除】

(71) 【削除】

(72) 【削除】

(73) 【削除】

(74) 【削除】

(75) 【削除】

(76) 【削除】

(77) 【削除】

(78) 【削除】

(79) 【削除】

(80) 【削除】

(81) 【削除】

(82) RC\_巻立て厚さ  
RC 巻立ての厚さ (mm) を入力する。

(83) RC\_設計強度  
コンクリートの設計基準強度を入力する。

(84) RC\_軸鉄筋\_径  
使用軸鉄筋の径 (mm) を入力する。

(85) RC\_軸鉄筋\_間隔  
使用軸鉄筋の間隔 (mm) を入力する。

## 第7編 橋梁

- (86) RC\_帯鉄筋\_径  
使用帯鉄筋の径 (mm) を入力する。
- (87) RC\_帯鉄筋\_間隔  
使用帯鉄筋の間隔 (mm) を入力する。
- (88) RC\_中間拘束筋\_間隔  
中間拘束筋の間隔 (mm) を入力する。
- (89) RC\_フーチングアンカーの有無  
フーチングアンカーの有無を入力する。
- (90) 炭素\_層数\_橋軸方向  
橋軸方向への炭素繊維巻立て層数を入力する。
- (91) 炭素\_層数\_垂直方向  
垂直方向への炭素繊維巻立て層数を入力する。
- (92) 炭素\_層数\_フープ方向  
フープ方向への炭素繊維巻立て層数を入力する。
- (93) 炭素\_目付\_橋軸方向  
橋軸方向への炭素繊維巻立て目付数量を入力する。
- (94) 炭素\_目付\_垂直方向  
垂直方向への炭素繊維巻立て目付数量を入力する。
- (95) 炭素\_目付\_フープ方向  
フープ方向への炭素繊維巻立て目付数量を入力する。
- (96) 鋼板\_補強鋼板  
鋼板巻立てに使用した鋼材を入力する。
- (97) 鋼板\_鋼板部材厚  
鋼材部の部材厚 (mm) を入力する。
- (98) 鋼板\_注入材  
注入材の種別を入力する。

- (99) 鋼板\_現場継手  
現場継手の方法・種別を入力する。
- (100) その他補強  
その他方法で耐震補強を実施した場合、耐震補強方法を20字以内で入力する。  
最大4つまで入力する。
- (101) 備考  
当該補強での留意事項・伝達事項を60字以内で入力する。
- (102) 適用基準\_名称  
適用した要領・示方書の名称を20字以内で入力する。最大5つまで入力する。
- (103) 適用基準\_年  
適用した要領・示方書の制定年を入力する。最大5つまで入力する。
- (104) 適用基準\_月  
適用した要領・示方書の制定月を入力する。最大5つまで入力する。
- (105) 適用基準\_発行元  
適用した要領・示方書の発行元を20字以内で入力する。最大5つまで入力する。
- (106) 施工番号  
当該工事の発注契約番号を入力する。
- (107) 施工年  
施工を行った年を入力する。
- (108) 施工月  
施工を行った月を入力する。
- (109) 【削除】

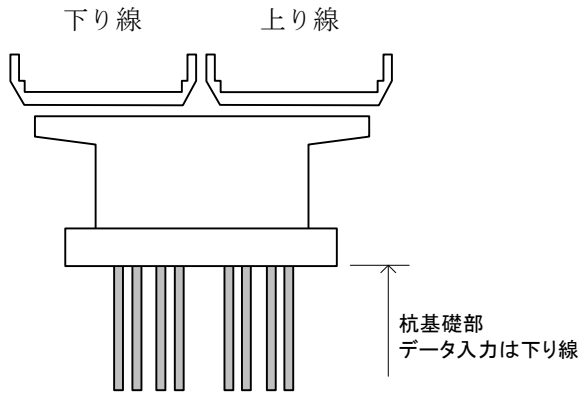
3-3-15 基礎工（構造物単位）情報

基礎工情報では、下部工のうち杭基礎、ケーソン基礎について入力する。

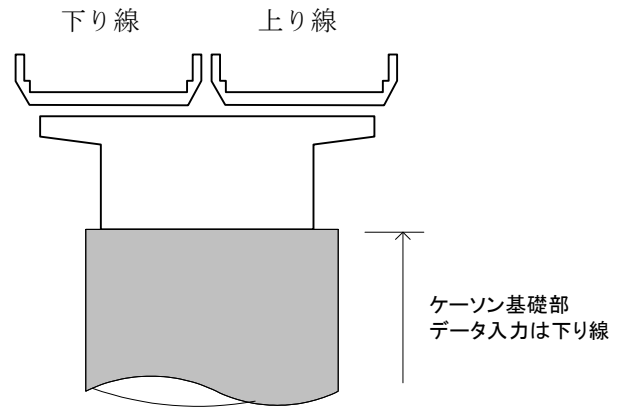
上部工の構造が上下線で分離しているが、基礎工の構造が一体(上下線共有)の場合、杭基礎・ケーソン基礎に関する数量は、全て下り線に入力するものとする。

なお、拡幅工事（拡幅部分）のデータ入力については、「拡幅基礎工」に入力する。

・杭基礎の場合



・ケーソン基礎の場合



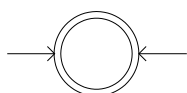
- (1) 【削除】
- (2) 【削除】
- (3) 【削除】
- (4) 【削除】
- (5) 【削除】
- (6) 【削除】
- (7) 【削除】
- (8) 【削除】
- (9) 【削除】
- (10) 【削除】

## (11) 杭基礎（杭長平均）

当該基礎工（杭基礎）の施工で用いた杭の平均延長（m）を入力する。フーチングの底面からの延長。

## (12) 杭基礎（杭径）

当該基礎工（杭基礎）の施工で用いた杭の標準杭径（mm）を入力する。杭径が2種類以上ある場合、代表的なものを入力する。



## (13) 杭基礎（内径）

当該基礎工（杭基礎）の施工で用いた杭の標準内径（mm）を入力する。



## (14) 杭基礎（本数）

当該基礎工（杭基礎）の施工で用いた杭の本数を入力する。

## (15) 杭基礎（鋼重）

当該基礎工（杭基礎）の施工で用いた鋼材の総重量（t）を入力する。（本数分、全部）  
なお、孔内保護用ライナープレートについても計上する。

## (16) 杭基礎（鉄筋重量）

当該基礎工（杭基礎）の施工で用いた鉄筋の総重量（t）を入力する。（本数分、全部）

## (17) ケーソン（寸法橋軸方向）

当該基礎工（ケーソン）の橋軸方向の幅（m）を入力する。

## (18) ケーソン（寸法橋軸直角方向）

当該基礎工（ケーソン）の橋軸直角方向の幅（m）を入力する。

## (19) ケーソン（コンクリート体積）

当該基礎工（ケーソン）のコンクリート体積（ $m^3$ ）を入力する。

## (20) ケーソン（鉄筋重量）

当該基礎工（ケーソン）の施工で用いた鉄筋の総重量（t）を入力する。

## (21) ケーソン（型枠面積）

当該基礎工（ケーソン）で用いた型枠面積（ $m^2$ ）を入力する。

## 第7編 橋梁

(22) 設計契約番号

当該箇所の詳細（最終）設計業務の発注契約番号を入力する。

(23) 施工契約番号

当該箇所の工事の発注契約番号を入力する。



## 3-3-16 塗装概要

当該橋梁の総塗装面積並びに環境区分について示すものである。

なお、拡幅工事（拡幅部分）のデータ入力も「塗装概要」に入力する。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) 【削除】

(9) 【削除】

(10) 【削除】

(11) 環境区分

当該橋梁が設置されている地区の環境区分をコードから選択して入力する。(海岸、工業、市街)

## 第7編 橋梁

### 3-3-17 塗装詳細

当該橋梁における塗装施工に関するデータを上部工の箇所番号毎に示すものである。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) 【削除】

(9) 【削除】

(10) 箇所番号

「3-3-4. 径間情報 (10) 箇所番号」で示した箇所番号と関連するものを選択し3桁までで入力する。

(11) 上塗完了時期

当該する塗装工事の上塗りが完了した年月を西暦で入力する。

(12) 下部工順番号 (自)

「3-3-4. 径間情報 (11) 下部工順番号(自)」示した下部工順番号(自)と関連するものをコードより選択し入力する。橋台・橋脚番号 (自)

(13) 橋台・橋脚番号 (自)

当該上部工の塗装箇所を橋脚間で示すものである。塗装箇所(箇所番号)を挟む橋脚の始点側番号を示す。

## (14) 下部工順番号 (至)

「3-3-4. 径間情報 (13) 下部工順番号(至)」示した下部工順番号(自)と関連するものをコードより選択し入力する。

## (15) 橋台・橋脚番号 (至)

当該上部工の塗装箇所を橋脚間で示すものである。上部工の塗装箇所(箇所番号)を挟む橋脚の終点側番号を示す。

## (16) 外側塗装色

桁の外側の塗装色をコードから選択して入力する。メッキのみ、耐候性鋼材のみの場合、色コードは、「その他」とする。

## (17) 内側塗装色

桁の内側の塗装色をコードから選択して入力する。

## (18) 塗装面積

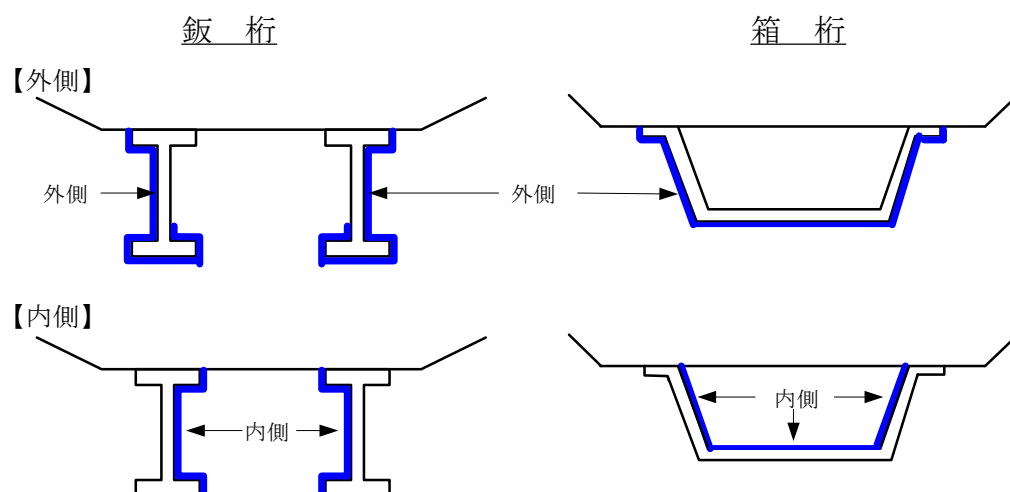
当該径間の塗装面積 (外側と内側の塗装面積の合計) ( $\text{m}^2$ ) を入力する。塗替え塗装の場合の数量は、塗替えた面積を入力する。

## (19) 塗装回数

建設時の塗装は1回目とする。管理時の塗替塗装は初期値を2回目とする。

## (20) 塗装面内外区分

当該塗装工事の施工区分 (内側、外側、両側) をコードから選択して入力する。



塗装種別のコードは塗替塗装系により以降の「塗装種別コード入力方法」を参考に入力することとする。

第7編 橋梁

(21) 施工概要

施工概要を100字内で入力する。

(22) 部材名

塗装を実施した部材名をコードから選択して入力する。

(23) プライマー種別

当該施工で使用したプライマー種別をコードから選択して入力する。(エッチングプライマー、ジंकリッチプライマー等)

(24) 下塗1 (塗料種別)

下塗1層目の塗料種別をコードから選択して入力する。(鉛系さび止めペイント、圧膜型エポキシ樹脂等)

《新設塗装系》

塗装種別コード入力方法

種別	塗装系	データ入力項目					データ入力しない 塗装層
		下塗1	下塗2	中塗1	中塗2	上塗	
一般外面	C2	下塗1	下塗2	下塗3	中塗	上塗	
	C4	下塗1	下塗2	下塗3	中塗	上塗	
	I	下塗		中塗		上塗	
支承外面	G	下塗2	下塗3	下塗4	中塗	上塗	下塗1

塗装系 D3～D6、F2～F11、H については、一般外面の塗装系の面積に含めて計上する。ミストコートは塗装層として計上しない。

## 《塗替塗装系》

## 塗装種別コード入力方法

種別	塗替塗装系	素地調整	データ入力項目					データ入力しない塗装層
			下塗 1	下塗 2	中塗 1	中塗 2	上塗	
橋梁 一般部	a-1	3種	下塗		中塗		上塗	
		4種	下塗		中塗		上塗	
	a-2	3種	下塗		中塗		上塗	
		4種	下塗		中塗		上塗	
	c-1	3種	下塗 1	下塗 2	中塗		上塗	
		4種	下塗		中塗		上塗	
	c-2	1種	下塗 1	下塗 2	下塗 3	中塗	上塗	
		3種	下塗 1	下塗 2	中塗		上塗	
	c-3	1種	下塗 1	下塗 2	下塗 3	中塗	上塗	
		3種	下塗 1	下塗 2	中塗		上塗	
	c-4	1種	下塗 1	下塗 2	下塗 3	中塗	上塗	
		3種	下塗 1	下塗 2	中塗		上塗	
	c-5	1種	下塗 1	下塗 2	下塗 3	中塗	上塗	
		3種	下塗 1	下塗 2	中塗		上塗	
	橋梁 特殊部	f-1	1種	下塗 2	下塗 3	下塗 4	中塗	上塗
3種			下塗 1	下塗 2	中塗		上塗	
f-2		1種	下塗 2	下塗 3	下塗 4	中塗	上塗	下塗 1
		3種	下塗 1	下塗 2	中塗		上塗	
g-1		3種	下塗 1	下塗 2	中塗		上塗	
g-2		1種	下塗 1	下塗 2	下塗 3	中塗	上塗	
		3種	下塗 1	下塗 2	中塗		上塗	
g-3		1種	下塗 1	下塗 2	下塗 3	中塗	上塗	
		3種	下塗 1	下塗 2	中塗		上塗	
g-4		1種	下塗 2	下塗 3	下塗 4	中塗	上塗	下塗 1
		3種	下塗 1	下塗 2	中塗		上塗	
g-5		1種	下塗 2	下塗 3	下塗 4	中塗	上塗	下塗 1
		3種	下塗 1	下塗 2	中塗		上塗	
g-6		1種	下塗 1	下塗 2	下塗 3	中塗	上塗	
	3種	下塗 1	下塗 2	中塗		上塗		
g-7	1種	下塗 1	下塗 2	下塗 3	中塗	上塗		
	3種	下塗 1	下塗 2	中塗		上塗		
橋梁箱桁 内面部	d	3種	第1層				第2層	
橋梁 付属物	h	3種			中塗 1	中塗 2	上塗	

塗装系 f-1, 2, d, h については、添接板・HTB 接合部・箱桁内面・伸縮装置・排水ますのみを塗装した場合は、他に同一部材に橋梁一般部塗装系で塗装した場合は、橋梁一般部塗装系に合算し計上する。タッチアップは塗装層として計上しない。

## 第7編 橋梁

- (25) 下塗1 (塗料名)  
下塗1層目で使用した塗料名 (製品名) を25字以内で入力する。
- (26) 下塗1 (回数)  
下塗1層目の塗り回数を入力する。
- (27) 下塗1 (量)  
下塗1層目で使用した塗料量 (kg/m<sup>2</sup>) を入力する。
- (28) 下塗2 (塗料種別)  
下塗2層目の塗料種別をコードから選択して入力する。(鉛系さび止めペイント、圧膜型エポキシ樹脂等)  
前項目の「下塗1 (塗料種別コード)」の表を参照のこと。
- (29) 下塗2 (塗料名)  
下塗2層目で使用した塗料名 (製品名) を25字以内で入力する。
- (30) 下塗2 (回数)  
下塗2層目の塗り回数を入力する。
- (31) 下塗2 (量)  
下塗2層目で使用した塗料量 (kg/m<sup>2</sup>) を入力する。
- (32) 中塗1 (塗料種別)  
中塗1層目の塗料種別をコードから選択して入力する。(フェノール樹脂系、塩化ゴム系塗料 等)  
前項目の「下塗1 (塗料種別コード)」の表を参照のこと。
- (33) 中塗1 (塗料名)  
中塗1層目で使用した塗料名 (製品名) を25字以内で入力する。
- (34) 中塗1 (回数)  
中塗1層目の塗り回数を入力する。
- (35) 中塗1 (量)  
中塗1層目で使用した (kg/m<sup>2</sup>) を入力する。

- (36) 中塗2 (塗料種別)  
中塗2層目の塗料種別をコードから選択して入力する。(フェノール樹脂系、塩化ゴム系塗料等)  
前項目の「下塗1 (塗料種別コード)」の表を参照のこと。
- (37) 中塗2 (塗料名)  
中塗2層目で使用した塗料名 (製品名) を25字以内で入力する。
- (38) 中塗2 (回数)  
中塗2層目の塗り回数を入力する。
- (39) 中塗2 (量)  
中塗2層目で使用した塗料量 (kg/m<sup>2</sup>) を入力する。
- (40) 上塗 (塗料種別)  
上塗の塗料種別をコードから選択して入力する。(塩化ゴム系塗装、長油性フタル酸樹脂塗料等)  
前項目の「下塗1 (塗料種別コード)」の表を参照のこと。
- (41) 上塗 (塗料名)  
上塗で使用した塗料名 (製品名) を25字以内入力する。
- (42) 上塗 (回数)  
上塗の塗り回数を入力する。
- (43) 上塗 (量)  
上塗で使用した塗料量 (kg/m<sup>2</sup>) を入力する。
- (44) 塗料メーカー  
当該施工で主に使用した塗料メーカーをコードから選択して入力する。
- (45) ケレン種別  
当該施工で実施したケレン種別をコードから選択して入力する。
- (46) 素地対象面積  
ケレン及びタッチアップ等を実施した面積 (m<sup>2</sup>) を入力する。

## 第7編 橋梁

(47) 補修理由

塗替塗装を実施した理由をコードから選択して入力する。(ひび割れ・めくれ、漏水、白亜化等)

(48) 【削除】

(49) 塗装部材

塗装を実施した部材の区分をコードから選択して入力する。(建設当初、拡幅時、補修時等)

(50) 塗装程度

塗装の実施程度をコードから選択して入力する。(新規、全部塗替え、一部塗、部分、分割)。建設時の場合は、塗装程度を必ず「新規」とする。

(51) 施工契約番号

当該箇所工事の発注契約番号を入力する。

(52) 【削除】



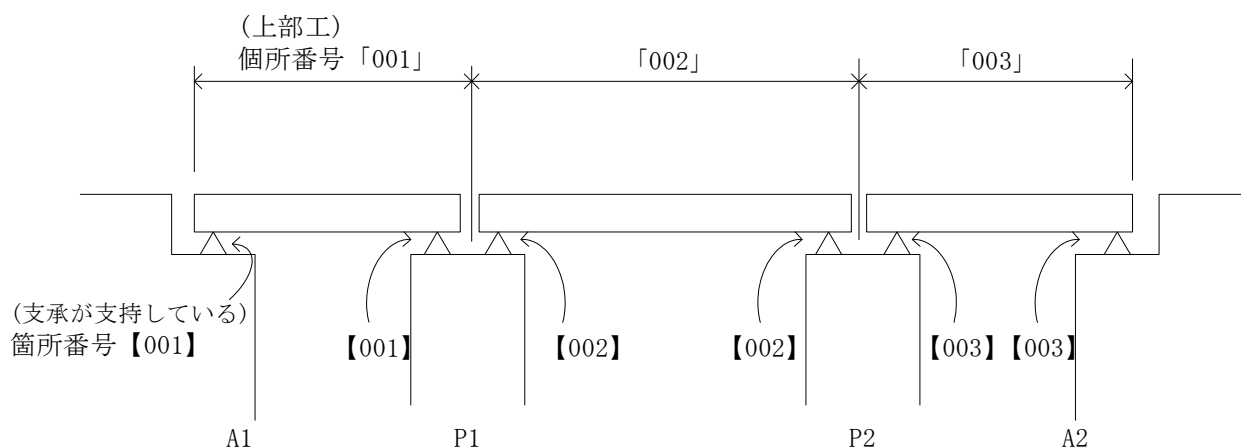
3-3-18 支承

支承が設置された上部工の箇所番号毎に、橋台・橋脚番号と関連付けて支承 1 基毎にデータ入力するものである。

- (1) 【削除】
- (2) 【削除】
- (3) 【削除】
- (4) 【削除】
- (5) 【削除】
- (6) 【削除】
- (7) 【削除】
- (8) 【削除】
- (9) 【削除】

(10) 箇所番号

当該支承が支持している上部工の箇所番号を入力する。



第7編 橋梁

(11) 下部工順番号 (自)

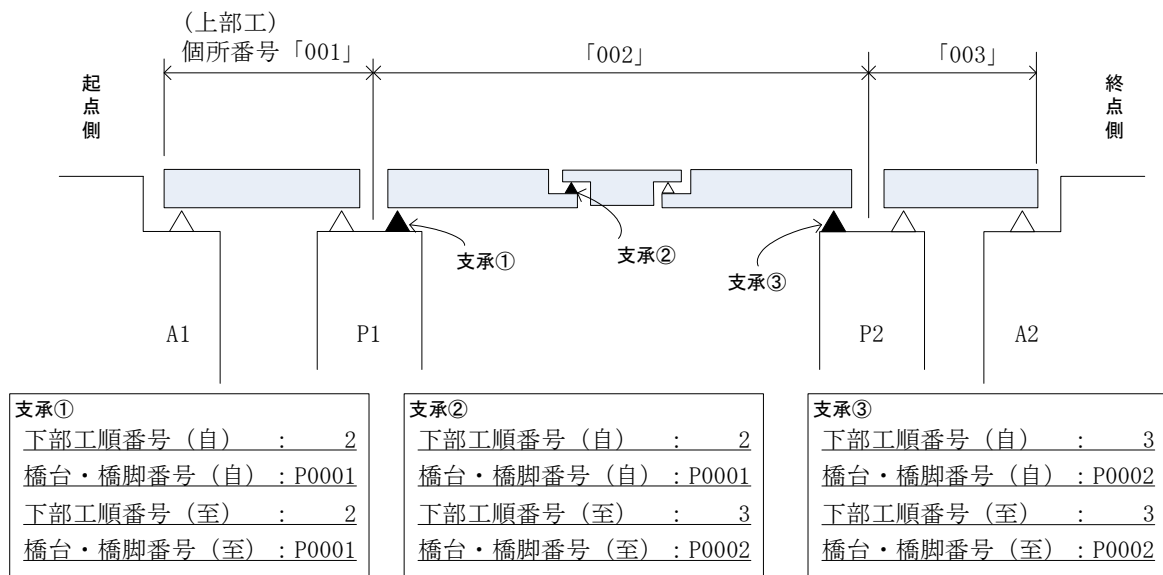
当該支承が設置されている下部工 (橋台橋脚) の順番を起点側より数え入力する。

(12) 橋台・橋脚番号 (自)

当該支承が設置されている下部工橋台橋脚番号を入力する。なお、「橋台橋脚番号入力」と関連を図ること。

(例)

- ・ ゲルバー支承 (自) P001 ~ (至) P002  
(設置されている左右近傍の橋台橋脚番号を入力する)
- ・ 通常支承及び特殊支承 (自) P001 ~ (至) P001  
(ロッカー橋脚下側、橋梁下側等は、橋台・橋脚番号の自・至に同じ橋脚番号を入力)



(13) 下部工順番号 (至)

当該支承が設置されている橋台・橋脚番号に該当する下部工順番号 (下部工順番号 (自) と同じ下部工順番号) を入力する。

ゲルバー支承の場合は前後の橋台・橋脚番号と合致する下部工順番号を登録する。

(14) 橋台・橋脚番号 (至)

当該支承が設置されている下部工の終点側橋台橋脚番号を入力する。ゲルバー支承以外は、橋台・橋脚番号 (自) と同じ番号を入力する。

## (15) 支承登録番号

1 橋脚毎に、当該支承を識別するためのユニーク番号を付与する。

《付与方法》

IC 自 (7)+橋梁(下 4)+上下線区分(2)+ルート区分(2)+ランプ名(3)+橋台・橋脚番号自(5)+橋軸方向位置(1)+ 支承名\_直角方向位置(3)の 27 桁を数値入力する。(カッコ内の数値、コードの桁数は記入メモ参照)

なお、ランプ名(3)のデータ入力方法について、A ランプの場合を以下に示す。

スペース スペース A ⇒ □□□A

## (16) STA・KP・NO の測点作成方法

支承の設置位置を高速道路の測点で示すものである。

建設時と補修時(供用後管理段階)では、測点の単位に相違があり、その測点の作成方法について示すものである。

## (a) 建設時

建設時の測点は、STA を用いるものとするが、KP がわかる場合は、管理\_KP 及び管理\_NO についても作成する。

## (ア) 建設\_STA

当該支承の測点を入力する。

## (イ) 建設\_NO

当該支承がランプに存在する場合において測点を入力する。

## (b) 補修時(供用後管理段階)

補修時の測点は、KP を用いるものとする。

## (ア) 管理\_KP

当該支承の測点を入力する。

## (イ) 管理\_NO

当該支承がランプに存在する場合において測点を入力する。

## (17) 支承種別

支承の種別をコードから選択して入力する。上部・下部工一体構造(ラーメン・ディビダ―グ等) 支承種別コードは「その他」とする。

## (18) 部材設置区分

当該支承の部材区分をコードより選択し入力する。

## (19) 設置又は補修年月

施工を行った年月を西暦で入力する。

(20) 反力

当該支承の反力を整数4桁までで入力する。

(21) 製造メーカー

当該箇所に設置した支承の製造メーカーをコードから選択して入力する。

また、メナーゼヒンジの場合は、「その他」コードを選択する。

(22) 補修理由

当該支承を補修した場合に、補修理由をコードから選択して入力する。

(本体の損傷、付属の損傷、腐食等)

(23) 補修内容

当該支承を補修した場合に、補修内容をコードから選択して入力する。

(新設、追加、取替等)

(24) 重量

当該支承が鋼製支承の場合に、重量(kg)を入力する。

メナーゼヒンジの場合は、鉄筋重量を「0」と入力する。

(25) 【削除】

(26) 直角方向1

上部工に対し直角方向の支承位置 □□/■■を入力する。(子数□□を入力する。)

上り・下り線別々に支承数(合計)を分母とし1橋台橋脚等に設置されている支承に対し、進行方向の左から順番号を分子として入力する。また、暫定区間は将来形で入力する。

直角方向の基本定義は、下記の判断基準を確認の上データ作成を行うこととする。

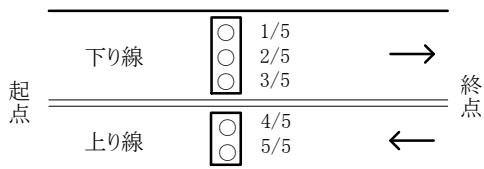
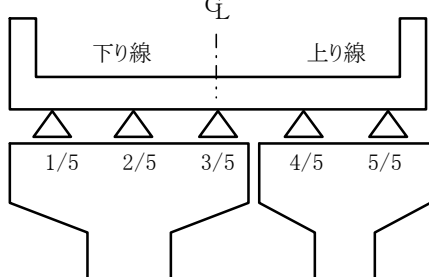
【 直角方向の判断基準 】

号	ケース
(a)	基本的な付与方法
(b)	一般登録例
(c)	ランプ橋の場合
(d)	ロッカー橋脚下側支承の場合
(e)	橋脚下側の支承の場合
(f)	ディビダークの場合
(g)	水平支承の場合
(h)	アーチ橋の垂直材に支承がある場合
(i)	メナーゼヒンジの場合

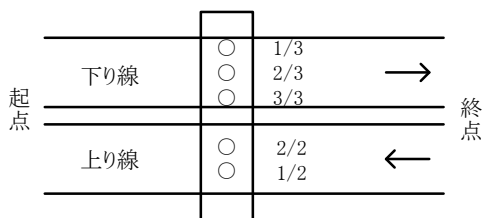
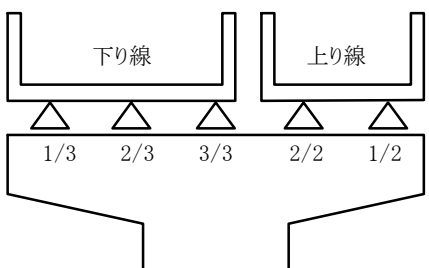
(a) 基本的な付与方法

下図のように1橋台・1橋脚に、上下線共有している場合は下記のとおりとする。

《上部工 上下線共有》

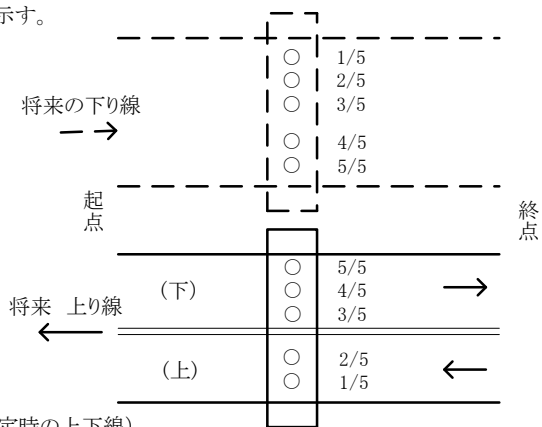
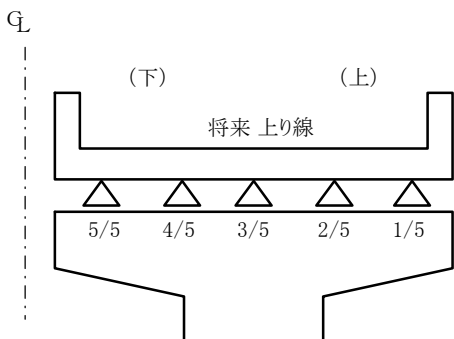


《下部工 上下線共有》



《暫定区間の場合》

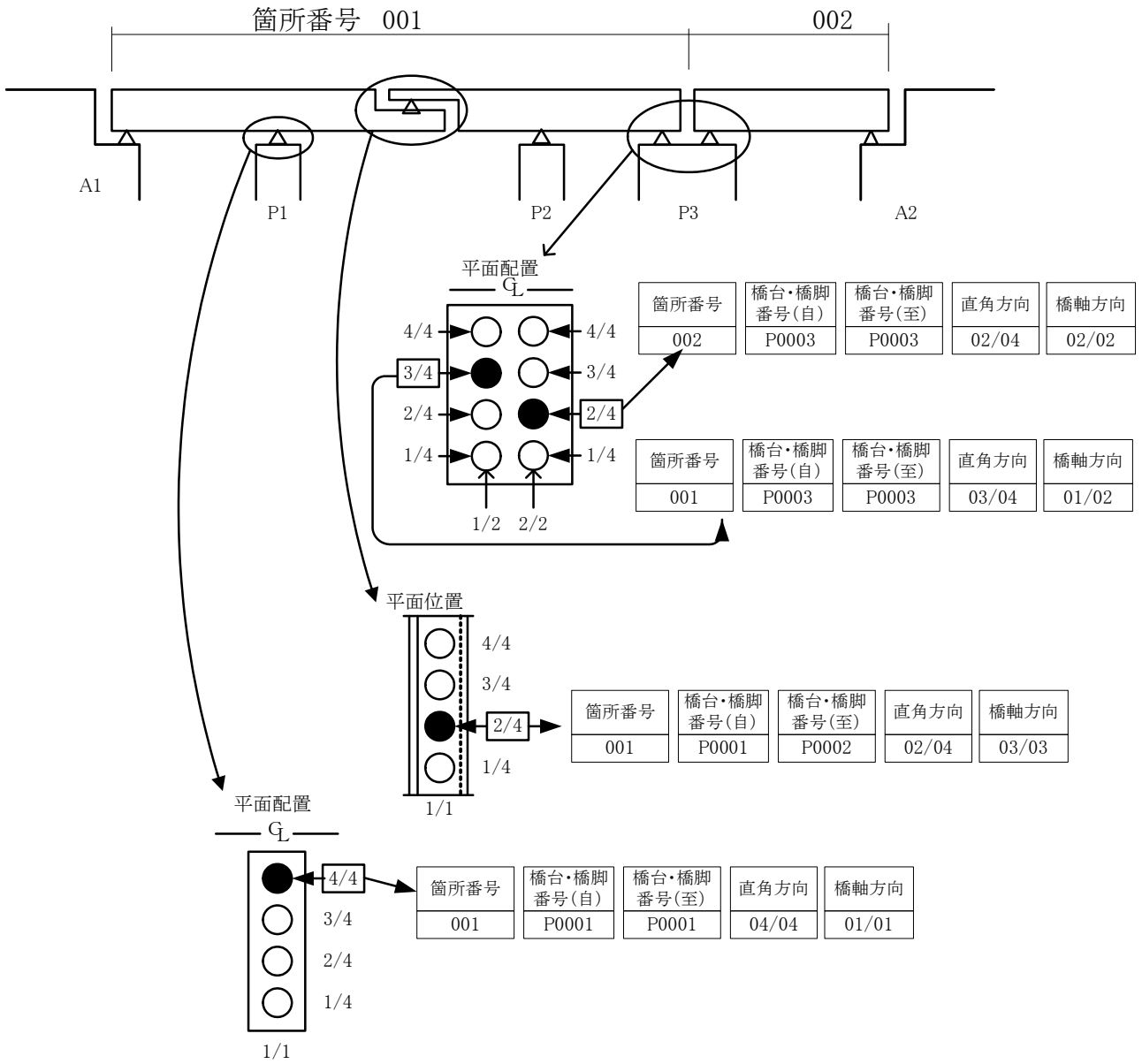
暫定区間のデータ入力は、完成形の上下線で母数を示す。



(カッコ内は、暫定時の上下線)

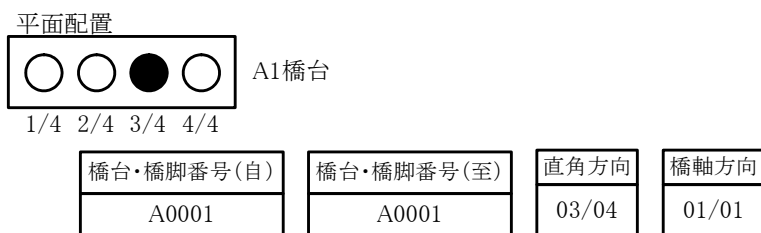
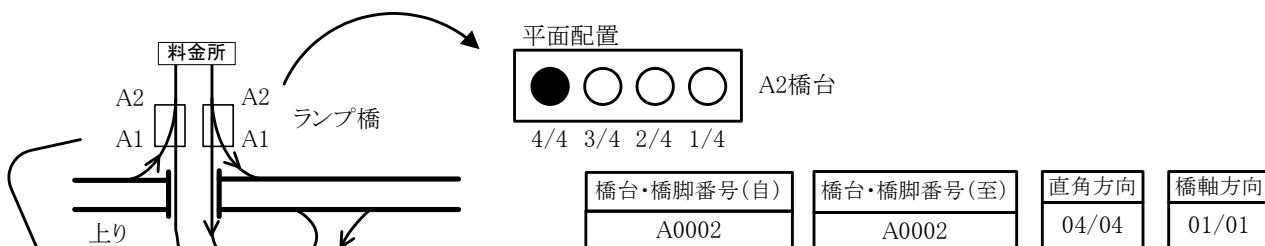
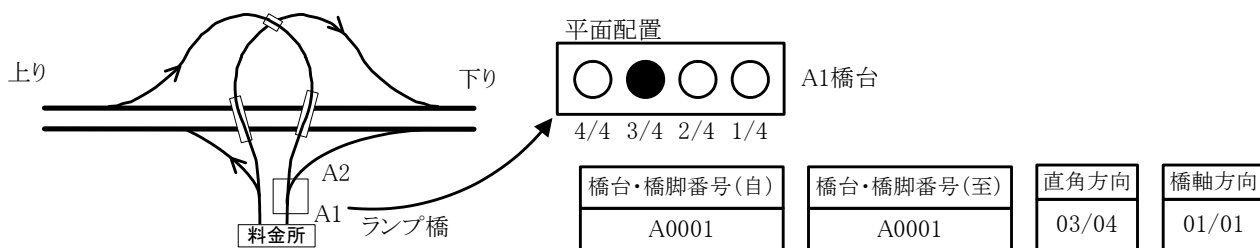
第7編 橋梁

(b) 一般登録例



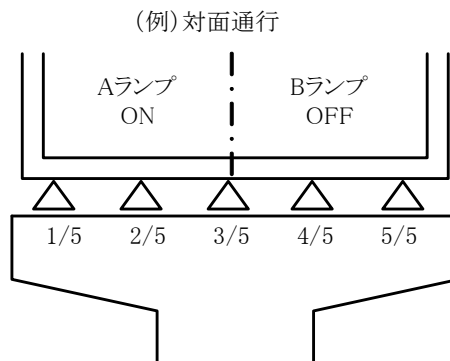
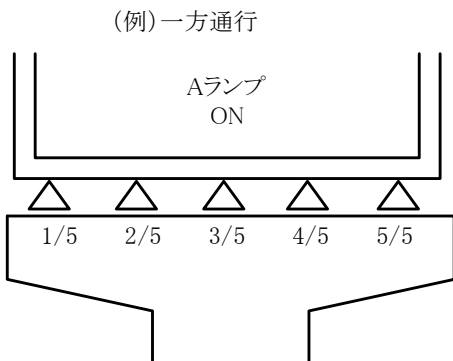
(c) ランプ橋の場合

ランプ橋については、進行方向の左から通し番号を付ける。

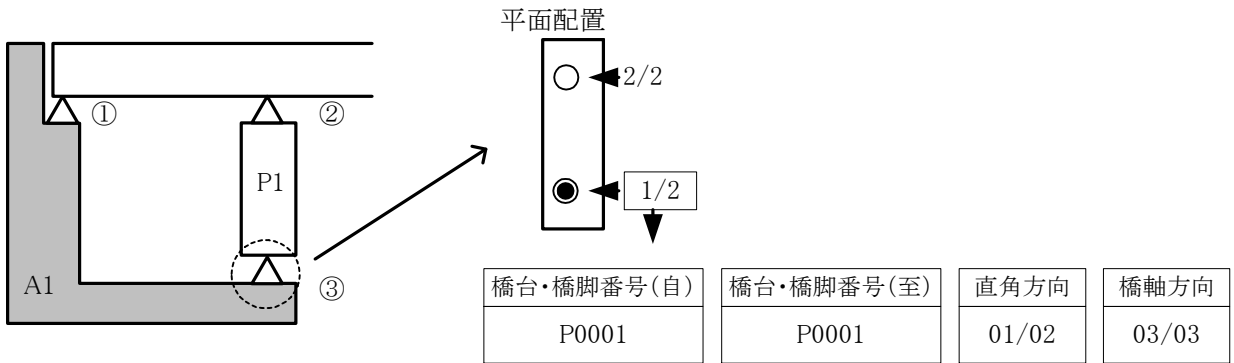


・A、B、C、Dランプで単独の場合

・ランプが複合する場合  
アルファベットの若いランプの進行方向の左から番号を付ける。(A、B、C、Dの「若い方」のランプを重視する)

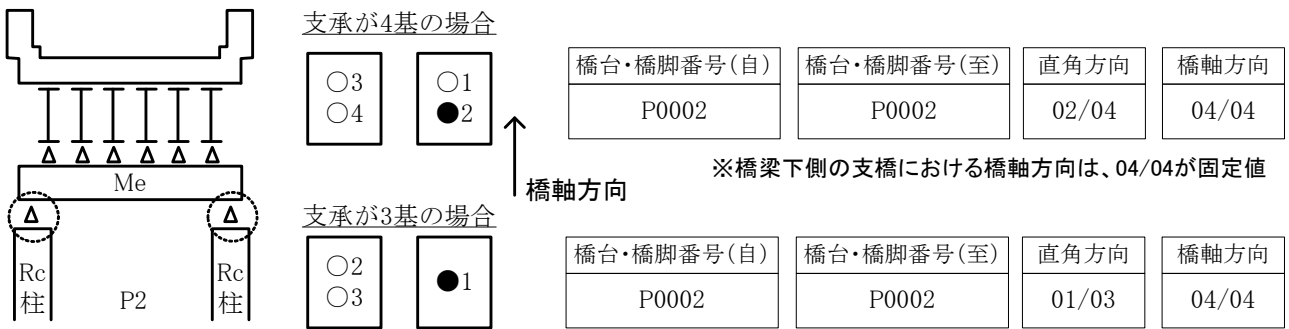


(d) ロッカー橋脚下側支承の場合

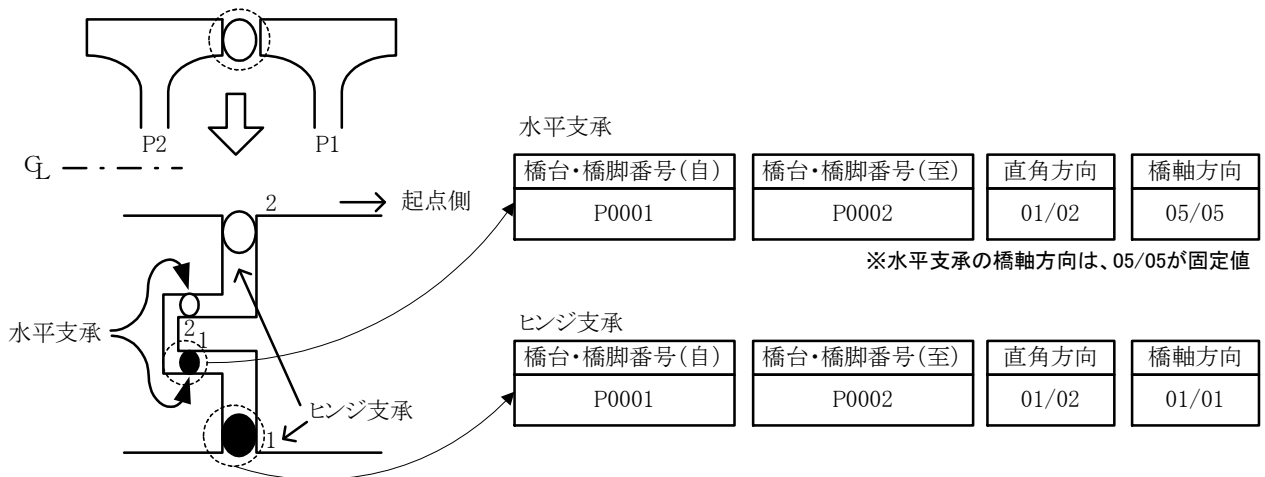


※ロッカー橋脚の橋軸方向は、03/03が固定値

(e) 橋脚下側の支承の場合

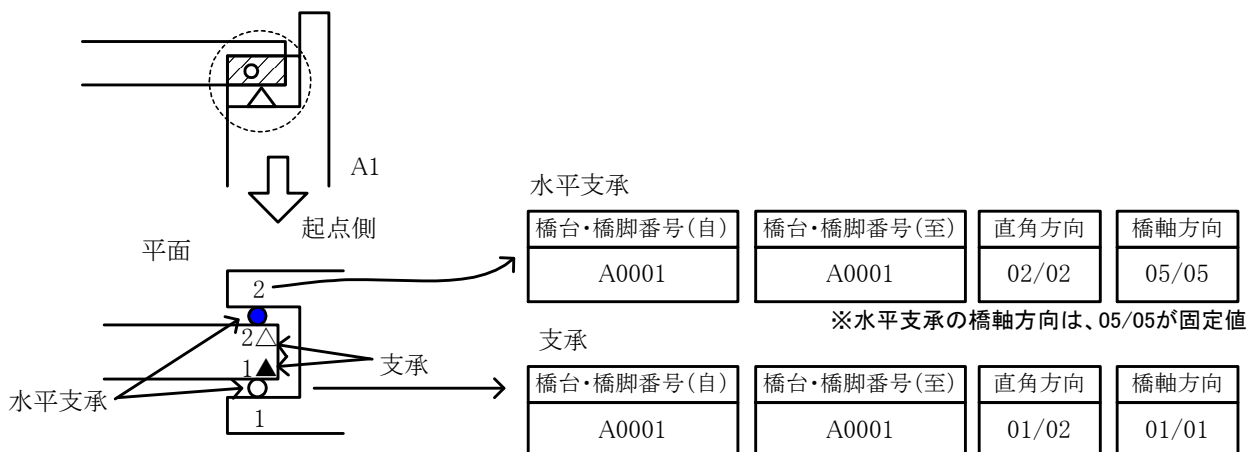


(f) ディビダークの場合

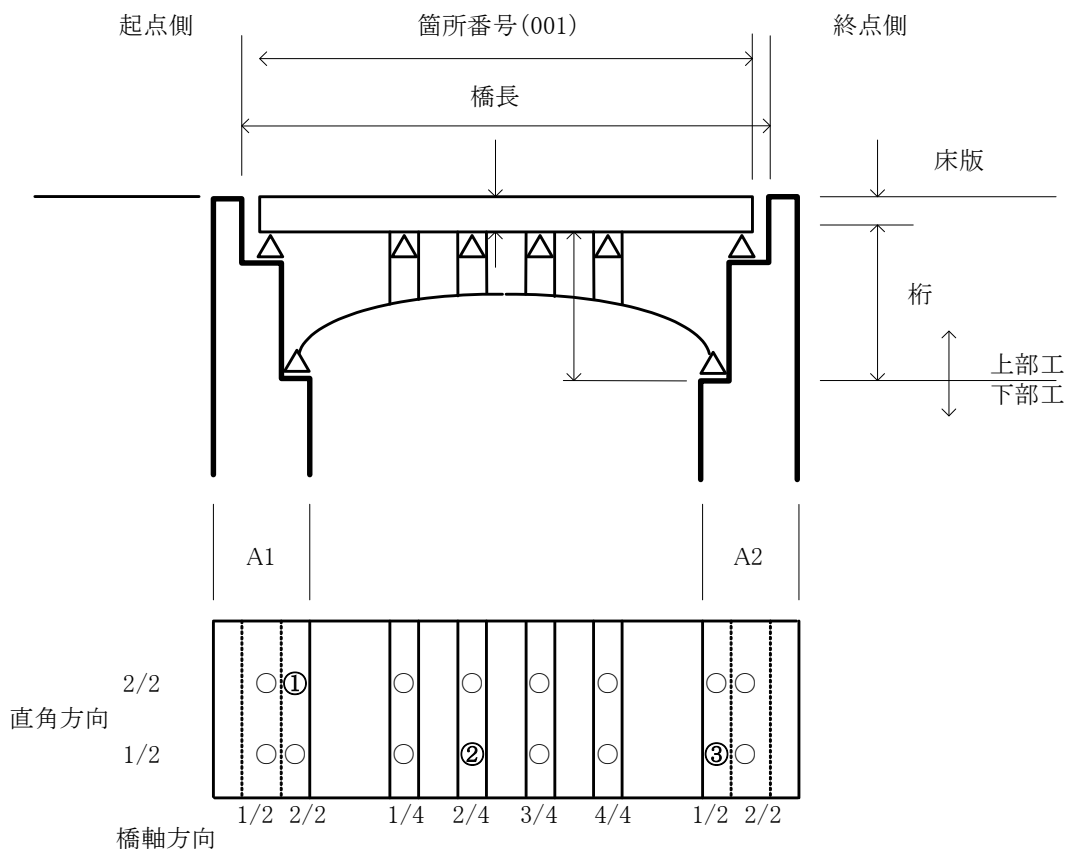




(g) 水平支承の場合

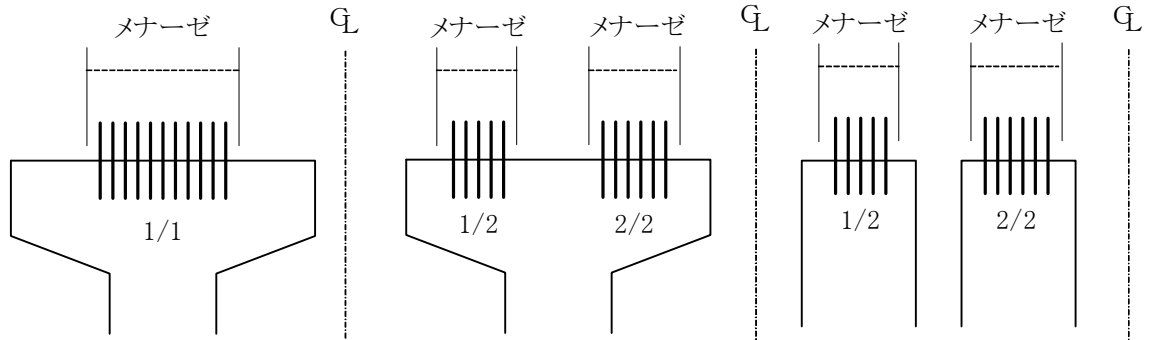


(h) アーチ橋の垂直材に支承がある場合



	筒所番号	橋台・橋脚番号(自)	橋台・橋脚番号(至)	直角方向	橋軸方向
支承①	001	A0001	A0001	02/02	02/02
支承②	001	A0001	A0002	01/02	02/04
支承③	001	A0001	A0001	01/02	01/02

- (i) メナーゼヒンジの場合  
進行方向左からの順で入力する。



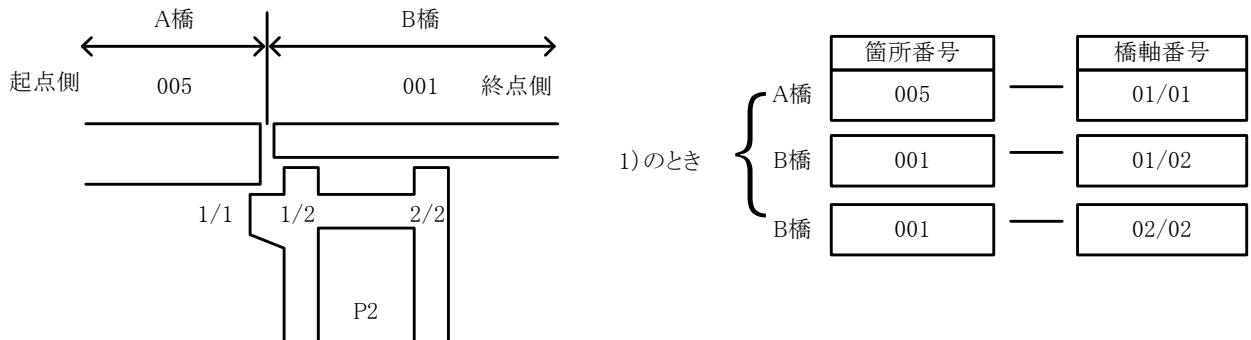
- (27) 直角方向 2  
上部工に対し直角方向の支承総数 ■■/□□を入力する。(母数□□を入力する。)

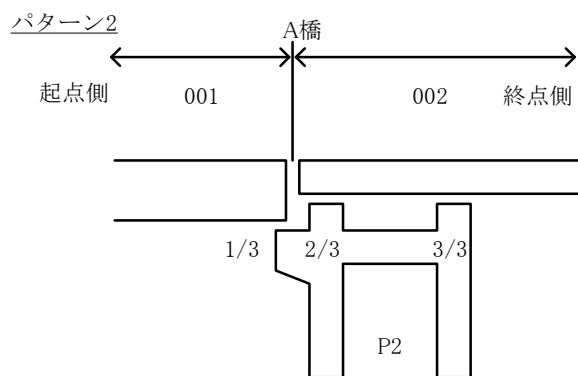
- (28) 橋軸方向 1  
上部工に対し橋軸方向の支承位置 □□/■■を入力する。(子数□□を入力する。)  
1 橋台橋脚等に設置されている支承に対し、起点側からの順番を付し、全番号に対する対象支承番号を入力する。  
下記の橋梁の橋軸方向は以下のとおりとする。

	橋軸方向 1	／	橋軸方向 2
(ア) ロッカー橋脚下側の支承	03	／	03
(イ) 橋梁下側の支承	04	／	04
(ウ) 水平支承	05	／	05
(エ) その他特殊な支承	09	／	09

《ラーメン橋脚の場合》

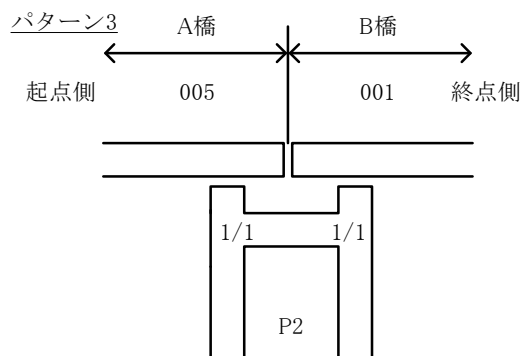
パターン1





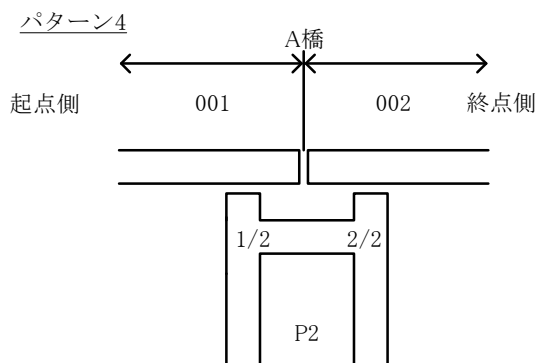
2)のとき

	箇所番号	橋軸番号
A橋	001	01/03
	002	02/03
	002	03/03



3)のとき

	箇所番号	橋軸番号
A橋	005	01/01
	001	01/01



4)のとき

	箇所番号	橋軸番号
A橋	001	01/02
	002	02/02

(29) 橋軸方向 2

上部工に対し橋軸方向の支承総数 ■■/□□を入力する。(母数□□を入力する。)

(30) 橋軸方向位置

当該支承の橋軸方向における設置位置(起点側 連続部, 終点側)をコードから選択して入力する。

(31) 支承名\_直角方向位置

SXX (S01、S02・・・)を入力する。(XXの数値については、前項目の橋軸方向毎に、ユニークとなる番号を付与)

## 第7編 橋梁

(32) 施工契約番号

当該箇所の工事の発注契約番号を入力する。

(33) 【削除】

(34) 【削除】

3-3-19 伸縮装置

伸縮装置の種別や車線区分毎に分けてデータを入力するものである。

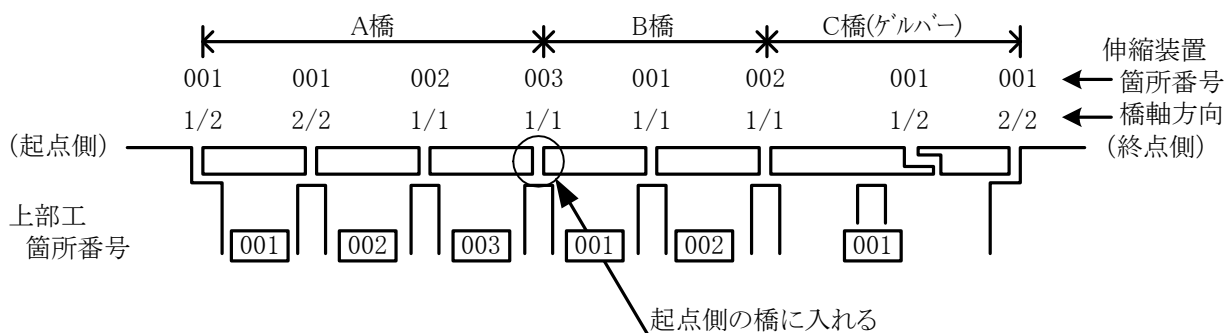
なお、拡幅工事（拡幅部分）のデータ入力は「伸縮装置」に入力する。

- (1) 【削除】
- (2) 【削除】
- (3) 【削除】
- (4) 【削除】
- (5) 【削除】
- (6) 【削除】
- (7) 【削除】
- (8) 【削除】
- (9) 【削除】

(10) 箇所番号

当該伸縮装置を設置した位置の上部工箇所番号を入力する。

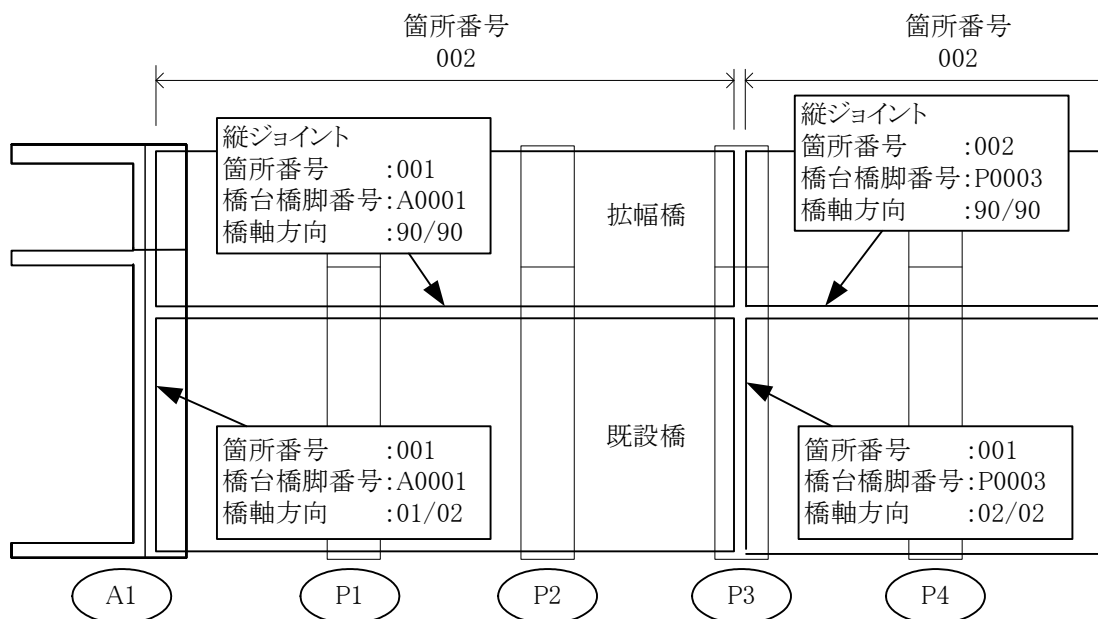
伸縮装置をはさんで、両方の桁で箇所番号が異なる場合は、その伸縮装置は起点側の箇所番号に属するものとする。



第7編 橋梁

《縦ジョイントの場合》

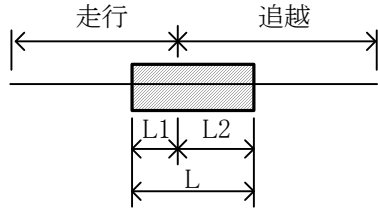
- (a) 橋台橋脚番号は、伸縮装置が設置されている起点側の番号とする。
- (b) 車線区分コードは、「車線区分なし」とする。
- (c) 橋軸方向は、「90/90」とする。
- (d) 延長は、ジョイントの箇所番号毎の総延長とする。
- (e) 重量は、ジョイントの箇所番号毎の総重量とする。
- (f) 製造メーカーコードについては、通常の伸縮装置と同様とする。



- (11) 下部工順番号  
当該伸縮装置が設置されている箇所下に存在する下部工の順番を3桁の重複しない番号で入力する。
- (12) 橋台・橋脚番号  
当該伸縮装置が設置されている箇所下に存在する橋台・橋脚の番号を入力する。  
橋台・橋脚番号の付与方法については、「3-1-8 基本定義 上部工 箇所番号の付与方法」を参照。
- (13) 伸縮装置登録番号  
当項目は、データ入力不要。
- (14) 伸縮装置管理番号  
当項目は、データ入力不要。
- (15) STA・KP・NOの測点作成方法  
伸縮装置の設置位置を高速道路の測点で示すものである。斜橋の場合は、上部工の中央とする。縦ジョイントの場合は、起点側のジョイント端部を測点とする。  
建設時と補修時（供用後管理段階）では、測点の単位に相違があり、その測点の作成方法について示すものである。
- (a) 建設時  
建設時の測点は、STAを用いるものとするが、KPがわかる場合は、管理\_KP及び管理\_NOについても作成する。
- (ア) 建設\_STA  
当該伸縮装置の測点を入力する。
- (イ) 建設\_NO  
当該伸縮装置がランプに存在する場合において測点を入力する。
- (b) 補修時（供用後管理段階）  
補修時の測点は、KPを用いるものとする。
- (ア) 管理\_KP  
当該伸縮装置の測点を入力する。
- (イ) 管理\_NO  
当該伸縮装置がランプに存在する場合において測点を入力する。

(16) 車線区分

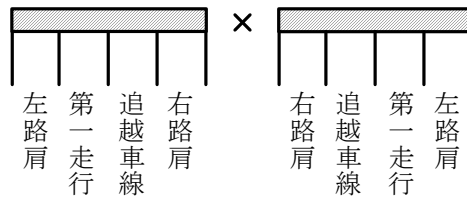
当該伸縮装置が設置・補修されている車線位置をコードから選択して入力する。複数車線にまたがって補修してある場合は、占める割合の大きい方の車線区分コードを入力し、延長は、補修した全延長 (m) を入力する。



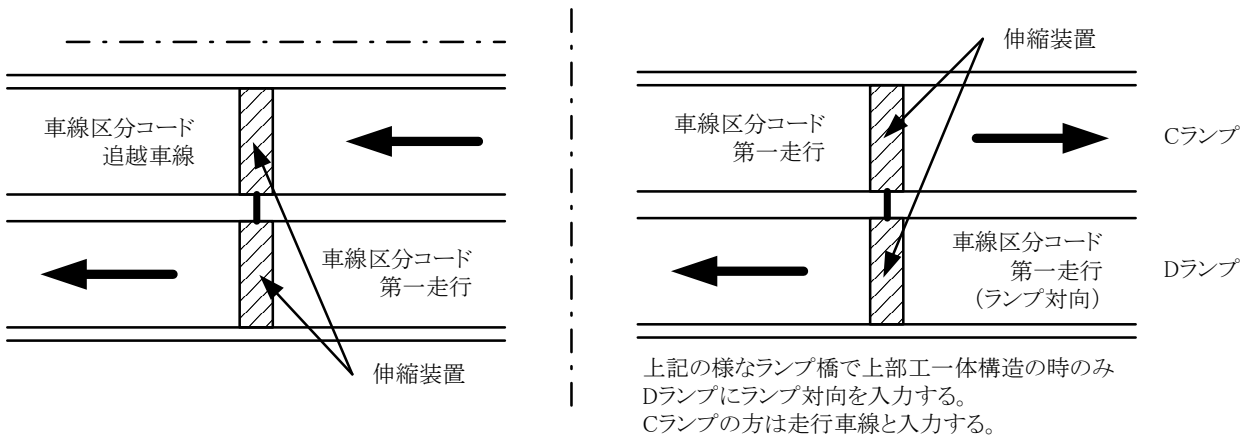
<DB化作業>

- ・追越車線のデータは全幅取替えたとして更新する。

伸縮装置の車線区分は左路肩～右路肩までとし、中央分離帯は上下どちらにも含まない。



ランプ橋に複数ランプ名が存在する場合は、若いランプ名にデータを作成する。



(17) 種別

伸縮装置種別をコードから選択して入力する。(切削目地、突合せジョイント、ゴム、鋼製フィンガー等)

(18) 延長

当該車線の設置延長 (m) を入力する。



- (19) 重量  
当該伸縮装置の重量 (kg) を入力する。  
鋼製ジョイントイ以外で、伸縮装置の重量が記載されないものは「0」を入力する。また、車線ごとの重量は、車線延長比率として良い。
- (20) 部材設置区分  
当該伸縮装置が、建設当初(元橋)より設置されたものか、拡幅部分橋に設置されているものかをコードより選択し入力する。
- (21) 製造メーカー  
当該伸縮装置の製造メーカーをコードから選択して入力する。
- (22) 補修理由  
当該伸縮装置の補修理由をコードから選択して入力する。(本体の損傷、段差、異常音等)
- (23) 補修内容  
当該伸縮装置の補修内容をコードから選択して入力する。(新設、取替 等)
- (24) 設計遊間  
当該伸縮装置を建設当初に据付けた時の遊間量 (mm) を入力する。
- (25) 設計気温  
当該伸縮装置を建設当初に据付けた時の気温 (°C) を示す。
- (26) 補修時遊間  
当該伸縮装置を補修した時の遊間 (mm) を入力する。
- (27) 補修時気温  
当該伸縮装置を補修した時の気温 (°C) を入力する。
- (28) 斜角  
橋軸に対する伸縮装置の設置角度 (度) を入力する。
- (29) 方向  
起点側から終点側に向かって、橋軸に対する伸縮装置の設置角度の鋭角側の方向 (右、左、直角) をコードから選択して入力する。ランプは、料金所を起点とする。

## 第7編 橋梁

- (30) 後打ち材  
伸縮装置の後打ち材種別をコードから選択して入力する。(アスファルト、コンクリート、超速硬コンクリート等)
- (31) 伸縮装置製品名  
伸縮装置の日本語製品や規格を全角文字 15 字以内で入力する。
- (32) 橋軸方向 1  
箇所番号毎の起点側からの伸縮装置番号□□/■■■を入力する。(子数□□を入力する。) 縦ジョイントの場合は「90/90」とする。
- (33) 橋軸方向 2  
箇所番号毎の起点側からの伸縮装置総数■■■/□□を入力する。(母数□□を入力する。) 縦ジョイントの場合は「90/90」とする。
- (34) 橋軸方向位置  
当該伸縮装置の橋軸方向における設置位置(起点側・連続部若しくは、終点側)をコードから選択して入力する。
- (35) 施工契約番号  
当該箇所の工事の発注契約番号を入力する。
- (36) 【削除】

3-3-20 【削除】排水管

## 3-3-21 排水ます

当該橋梁の上部工に設置した排水ます（集水ます 1 個毎）の種別や設置位置に関するデータを入力するものである。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) STA・KP・NO の測点作成方法

当該橋梁に設置した排水ますの設置位置を高速道路の測点で示すものである。

建設時と補修時（供用後管理段階）では、測点の単位に相違があり、その測点の作成方法について示すものである。

(a) 建設時

建設時の測点は、STA を用いるものとするが、KP がわかる場合は、管理\_KP 及び管理\_NO についても作成する。

(ア) 建設\_STA

当該排水ますの測点を入力する。

(イ) 【削除】

(ウ) 建設\_NO

当該排水ますがランプに存在する場合において測点を入力する。

(b) 補修時（供用後管理段階）

補修時の測点は、KP を用いるものとする。

(ア) 管理\_KP

当該排水ますの測点を入力する。

(イ) 【削除】

(ウ) 管理\_NO

当該排水ますがランプに存在する場合において測点を入力する。

(6) 【削除】

(7) 【削除】

## 第7編 橋梁

- (8) 【削除】
- (9) 横断位置  
当該排水ますが設置されている横断位置をコードから選択して入力する。
- (10) 方向（左右路肩の区分）  
当該排水ますが設置されている路肩位置をコードから選択して入力する。（右、左、区分なし等）
- (11) ふた固定区分  
排水ますの蓋が、固定か非固定をコードから選択して入力する。
- (12) 排水ます種別  
排水ますの材質・種別をコードから選択して入力する。（炭素鋼、ステンレス、ねずみ鋳鉄等）
- (13) 個数  
新規データ作成については、排水ます一個ごとに作成することから「1」を入力する。  
過去のデータ（既存データ）更新については、排水ます種別ごとの総個数を入力する。
- (14) 設置又は補修年月  
設置又は補修年月（施工）を行った年月を西暦で入力する。
- (15) 【削除】
- (16) 補修内容  
排水ますの補修内容をコードから選択して入力する。（取替、一部取替等）
- (17) 施工契約番号  
当該箇所工事の発注契約番号を入力する。
- (18) 【削除】

## 3-3-22 検査路

検査路種別毎の区間毎にデータを入力するものである。

- ・検査路 A 及び手すりは、1 橋脚間(1 径間)毎にデータ入力する。
- ・検査路 B 及び梯子は、1 橋脚毎にデータ入力する。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) 【削除】

(9) 【削除】

(10) STA・KP・NO の測点作成方法

検査路の同一種別が、設置されている区間毎に高速道路の測点で示すものである。

建設時と補修時(供用後管理段階)では、測点の単位に相違があり、その測点の作成方法について示すものである。

(a) 建設時

建設時の測点は、STA を用いるものとするが、KP がわかる場合は、管理\_KP 及び管理\_NO についても作成する。

(ア) 建設\_STA (自)

当該検査路の起点側の測点を入力する。

KP 変換時に起点側となる方を入力する。

(イ) 建設\_STA (至)

当該検査路の終点側の測点を入力する。

KP 変換時に終点側となる方を入力する。

(ウ) 建設\_NO (自)

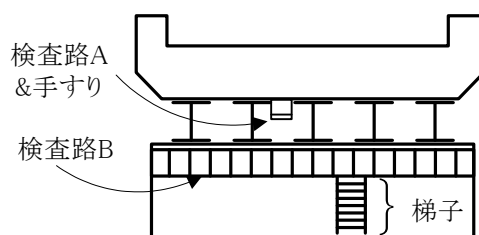
当該検査路がランプに存在する場合において起点側の測点を入力する。

## 第7編 橋梁

- (エ) 建設\_NO (至)  
当該検査路がランプに存在する場合において終点側の測点を入力する。
- (b) 補修時 (供用後管理段階)  
補修時の測点は、KP を用いるものとする。
  - (ア) 管理\_KP (自)  
当該検査路の起点側の測点を入力する。
  - (イ) 管理\_KP (至)  
当該検査路の終点側の測点を入力する。
  - (ウ) 管理\_NO (自)  
当該検査路がランプに存在する場合において起点側の測点を入力する。
  - (エ) 管理\_NO (至)  
当該検査路がランプに存在する場合において終点側の測点を入力する。
- (11) 下部工順番号(自)  
当該検査路が、設置されている橋脚の起点側にある下部工順番号を入力する。
- (12) 橋台・橋脚番号(自)  
当該検査路が、設置されている橋脚の起点側にある橋台・橋脚番号を入力する。
- (13) 下部工順番号(至)  
当該検査路が、設置されている橋脚の終点側にある下部工順番号を入力する。
- (14) 橋台・橋脚番号(至)  
当該検査路が、設置されている橋脚の起点側にある橋台・橋脚番号を入力する。  
検査路 B 及び梯子は、橋台・橋脚番号(自)と同じものを入力する。
- (15) 検査路種別  
設置されている検査路の種別をコードから選択して入力する。(検査路 A、検査路 B、手すり、梯子)
- (16) 施工数量  
検査路等の施工数量 (m) を入力する。  
橋台部で検査路が上下線に渡っている場合は、上下線別々に入力する。
  - (a) 検査路 A の延長は、上下線別に設置されている 1 径間の合計を総延長 (m) とする。
  - (b) 上り線 (又は下り線) に 2 本の検査路 A が設置されている場合は、2 本の検査路延長の合計とする。
  - (c) 検査路 B の延長は、各橋台橋脚に設置されている箇所の総延長 (m) とする。

## (17) 単位

施工数量の単位をコードから選択して入力する。(検査路A、検査路B、手すり：m、梯子：箇所)



## (18) 設置又は補修年月

設置又は補修（施工）を行った年月を西暦で入力する。

## (19) 【削除】

## (20) 補修内容

検査路の補修内容をコードから選択して入力する。(新設、取替、一部取替等)

## (21) 施工契約番号

当該箇所の工事の発注契約番号を入力する。

## (22) 【削除】

3-3-23 【削除】 壁式高欄

3-3-24 【削除】 改良補修情報

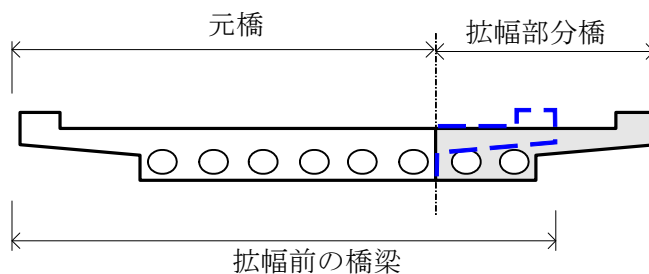
3-3-25 【削除】 改良補修記録資料

3-3-26 【削除】 特記情報

3-3-27 拡幅橋基本情報

拡幅橋基本情報は、各橋梁における拡幅部分橋の所在地に関するデータを入力するものである。

元橋、拡幅部分橋の例



(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) 【削除】

(9) 【削除】

(10) 拡幅\_支社局

当該拡幅部分橋の工事に携わった支社・局名をコードから選択して入力する。

(11) 拡幅\_工事事務所

当該拡幅部分橋の工事に携わった事務所名をコードから選択して入力する。



(12) 供用年月日

当該拡幅部分橋が実際に使用開始となる年月日を入力する。

- (a) 拡幅部分橋については、新規開通の年月日を入力する。
- (b) 拡幅工事の時は、元橋については、従来 of 供用年月日を入力する。

3-3-28 【削除】 拡幅橋基本情報資料

## 第7編 橋梁

### 3-3-29 拡幅橋橋梁属性

拡幅橋橋梁属性は、当該拡幅部分橋全体の諸元に関するデータを入力するものである。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) 【削除】

(9) 【削除】

(10) 設計活荷重

当該拡幅部分橋が設計で考慮される荷重区分をコードから選択して入力する。(B活荷重、TT-44等)

(11) 橋長

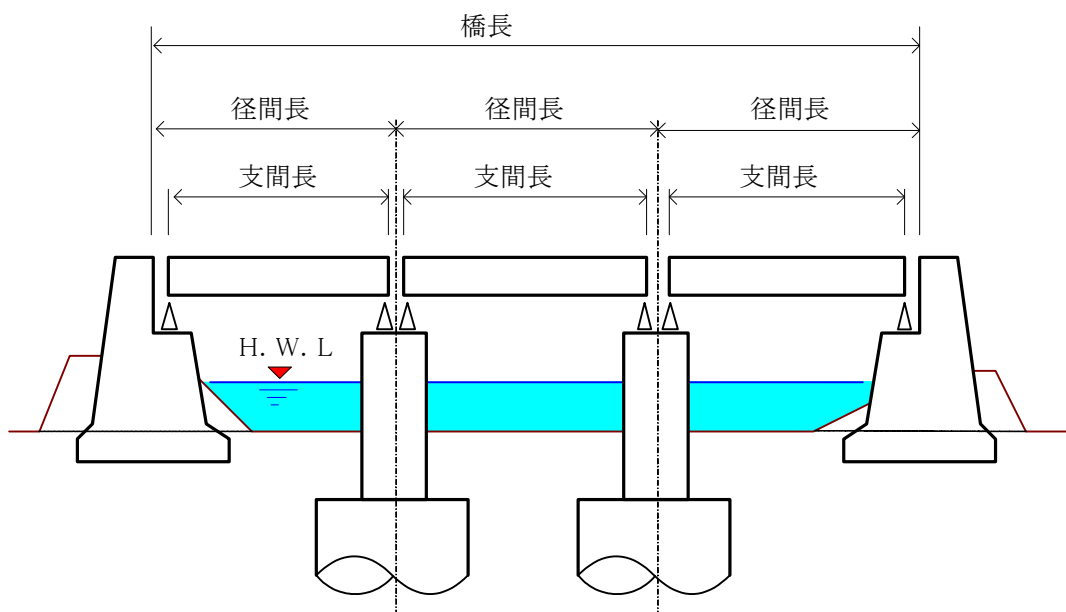
当該拡幅部分橋の両端橋台前面（胸壁前面）間の長さ（m）を入力する。

なお、当項目での橋長は、各径間長の合計値と同一となるものとする。

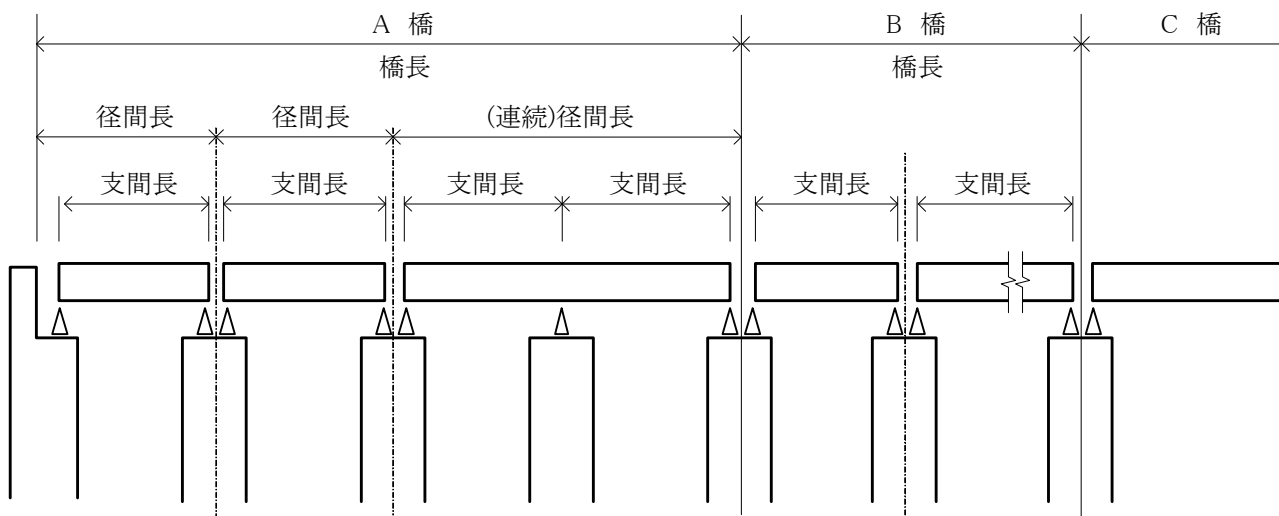
橋長作成は、下記のケースを指標とし作成すること。

号	ケース
(a)	単独橋
(b)	連続高架橋
(c)	BOX 橋台が橋梁の前後にある場合
(d)	合流、分流部
(e)	ポータルラーメン橋の場合
(f)	斜橋の場合

(a) 単独橋

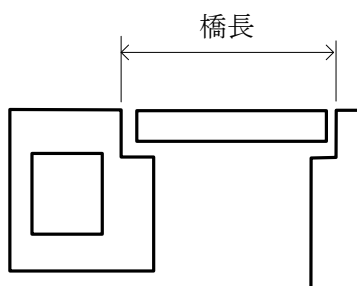


(b) 連続高架橋



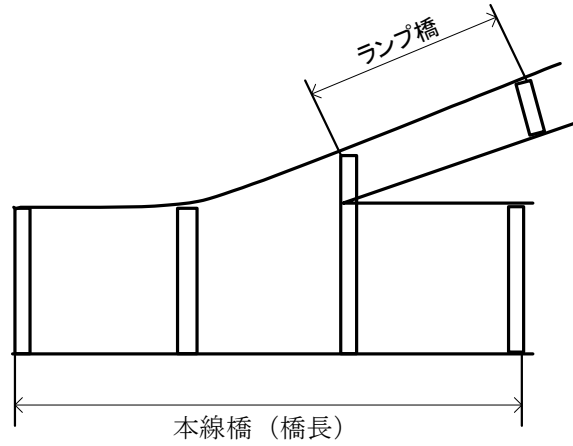
(c) BOX 橋台が橋梁の前後にある場合

BOX 橋台 と橋梁が続いていたとしても BOX 橋台 は橋梁長に含まない。



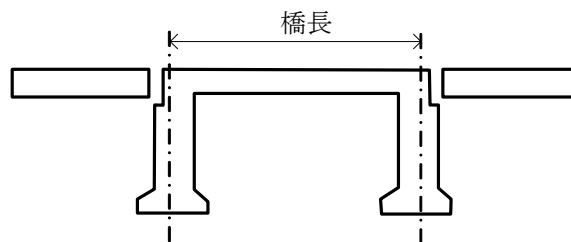
(d) 合流、分流部

合流、分流部の直近のジョイントで（径間ごと）分割する。（テーパまで含めない）  
合流、分流部の橋梁区分は、下図のとおり。



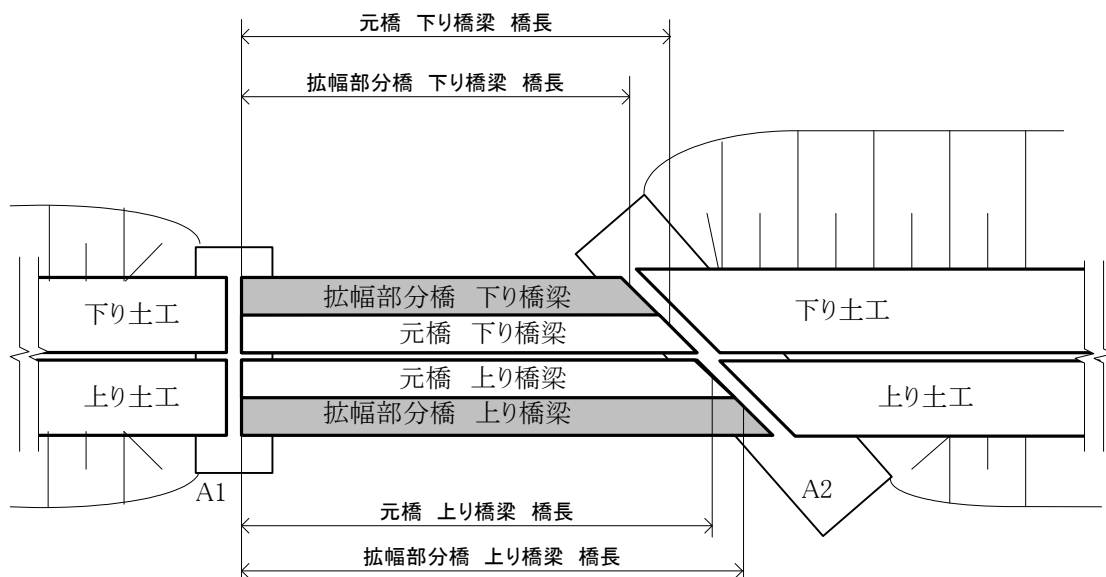
(e) ポータルラーメン橋の場合

橋脚の中心～中心間を橋長とする。



(f) 斜橋の場合

構造物の中心を橋長とする。



- (12) 総橋面積  
当該拡幅部分橋の各箇所番号の橋面積を合計した値 (m<sup>2</sup>) を入力する。
- (13) 総連数  
当該拡幅部分橋の一連の総連数 (箇所番号の最終値と同一になる) を入力する。
- (14) Me・径間長  
当該拡幅部分橋の上部工、Me 橋部の合計径間長 (m) を入力する。
- (15) Me・連数  
当該拡幅部分橋の上部工、Me 橋部の連 (桁) 数を入力する。
- (16) RC・径間長  
当該拡幅部分橋の上部工、RC 橋部の合計径間長 (m) を入力する。
- (17) RC・連数  
当該拡幅部分橋の上部工、RC 橋部の連 (桁) 数を入力する。
- (18) PC・径間長  
当該拡幅部分橋の上部工、PC 橋部の合計径間長 (m) を入力する。
- (19) PC・連数  
当該拡幅部分橋の上部工、PC 橋部の連 (桁) 数を入力する。
- (20) PRC・径間長  
当該拡幅部分橋の上部工、PRC 橋部の合計径間長 (m) を入力する。
- (21) PRC・連数  
当該拡幅部分橋の上部工、PRC 橋部の連 (桁) 数を入力する。
- (22) 複合橋・径間長  
当該拡幅部分橋の上部工、複合橋部の合計径間長 (m) を入力する。
- (23) 複合橋・連数  
当該拡幅部分橋の上部工、複合橋部の連 (桁) 数を入力する。
- (24) その他・径間長  
当該拡幅部分橋の上部工、その他橋部の合計径間長 (m) を入力する。

## 第7編 橋梁

(25) その他・連数

当該拡幅部分橋の上部工、その他橋部の連（桁）数を入力する。

(26) 管理者（跨道橋移管先）

当該拡幅部分橋が、跨道橋の場合に管理者名称（跨道橋移管先）を30字以内で入力する。

## 3-3-30 拡幅橋径間

拡幅橋径間情報は、当該拡幅部分橋における一連(箇所番号毎)の諸元に関するデータを入力するものである。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) 【削除】

(9) 【削除】

(10) 箇所番号

当該拡幅部分橋の1連毎に重複しない番号を3桁までで入力する。

箇所番号の付与方法については、「[3-1-8 基本定義 上部工 箇所番号の付与方法](#)」を参照。

(11) 橋台・橋脚番号(自)

当該拡幅部分橋径間の箇所番号下にある橋脚のうち、起点側端部の橋脚番号を入力する。

橋台・橋脚番号の付与方法については、「[3-1-9 基本定義 下部工 橋台・橋脚番号の付与方法](#)」を参照。

(12) 橋台・橋脚番号(至)

当該拡幅部分橋径間の箇所番号下にある橋脚のうち、終点側端部の橋脚番号を入力する。

橋台・橋脚番号の付与方法については、「[3-1-9 基本定義 下部工 橋台・橋脚番号の付与方法](#)」を参照。

第7編 橋梁

(13) 橋種

当該拡幅部分橋の上部工主桁に使用する主材料による分類をコードから選択して入力する。(鋼橋、RC橋等)

(14) 連続径間数

当該箇所番号毎の径間数を入力する。

(15) 構造種別

当該拡幅部分橋の構造形式による分類をコードから選択して入力する。(単純合成桁、箱桁、トラス、ランガー等)

(a) 切断合成桁は、鋼連続合成桁として区分する。

(b) 合成・非合成等の区分は、鋼橋の場合のみとする。

(16) 径間長

当該上部工における箇所番号毎の長さ (m) を入力する。(一連の長さ)

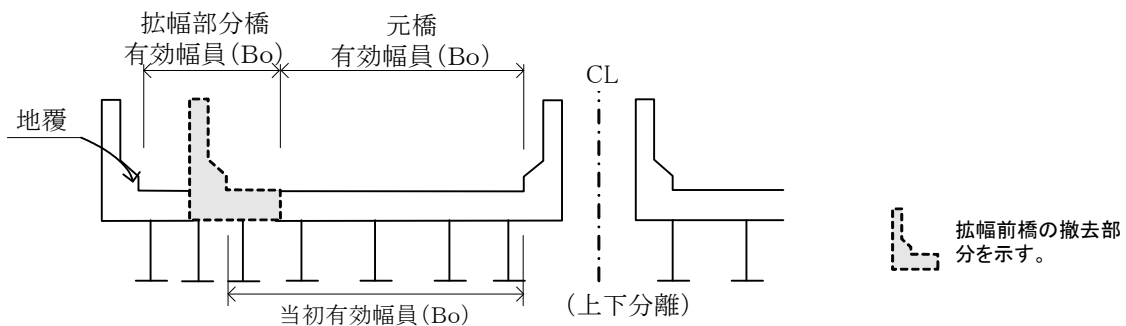
(17) 支間長

当該径間の桁を支持する点～点の長さ (m) 「支間長の合計」を入力する。

(18) 最大拡幅幅員

当該箇所番号の拡幅橋面の最大幅員 (m) を入力する。

なお、有効幅員は地覆から地覆までの標準幅員とし、非常駐車帯は含まない。



(19) 最小拡幅幅員

当該箇所番号の拡幅橋面の最小幅員 (m) を入力する。

(20) 拡幅橋面積

当該箇所番号の橋面積 (m<sup>2</sup>) を入力する。非常駐車帯も含むものとする。

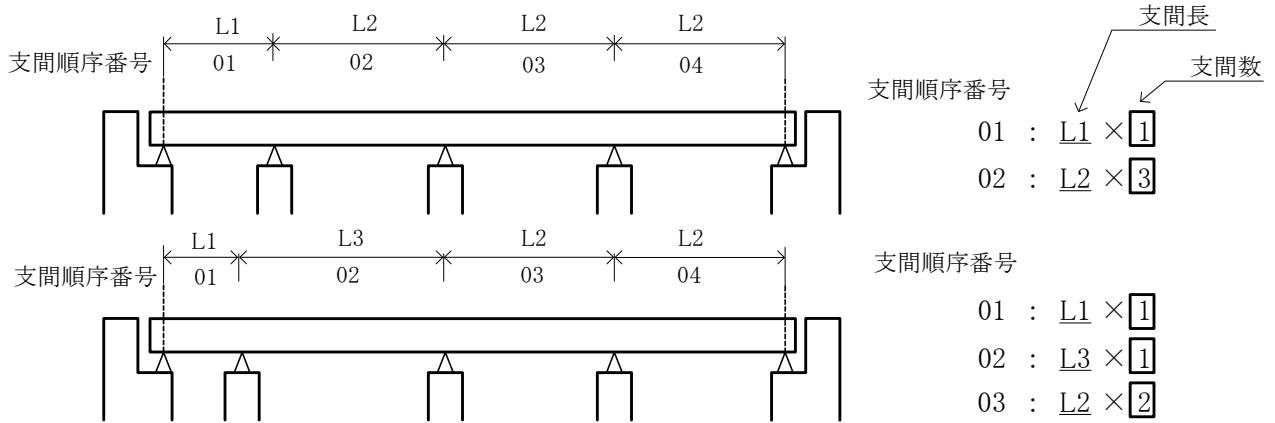
(21) 【削除】



- (22) 【削除】
- (23) 【削除】
- (24) 【削除】
- (25) 設計契約番号  
当該箇所番号の詳細（最終）設計業務の発注契約番号を入力する。
- (26) 施工契約番号  
当該箇所番号の上部工を施工した工事の発注契約番号を入力する。
- (27) 示方書年度  
当該拡幅部分橋の上部工設計に適用した技術基準「道路橋示方書（日本道路協会）」の版年度を和暦で入力する。
- (28) 設計要領以外の示方書等名  
設計要領以外に参考とした示方書等の図書名を30字以内で入力する。

3-3-31 拡幅橋支間

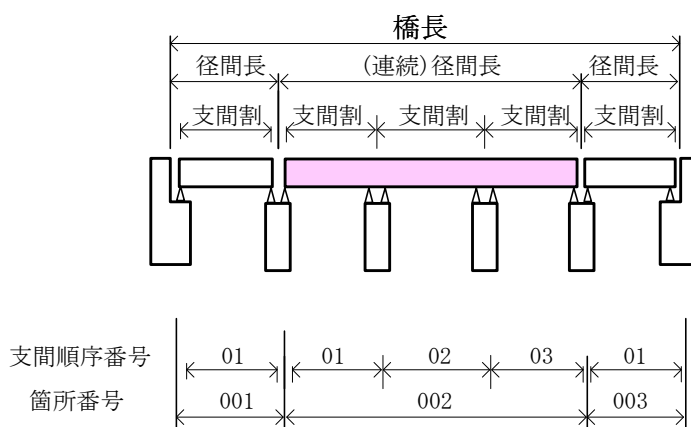
拡幅橋支間情報は、当該拡幅部分橋における支間に関するデータを支間順序番号毎に入力するものである。支間長が同一で連続する場合は、起点側の支間順序番号を代表で示すと共に、連続する支間数を入力する。



- (1) 【削除】
- (2) 【削除】
- (3) 【削除】
- (4) 【削除】
- (5) 【削除】
- (6) 【削除】
- (7) 【削除】
- (8) 【削除】
- (9) 【削除】
- (10) 【削除】

(11) 支間順序番号

当該箇所番号内で、支間毎にユニーク（重複しない）となる支間順序番号を付与する。  
 （起点側からの上下線別々の通番）



(12) 橋台・橋脚番号（自）

当該支間順序番号の下にある橋脚のうち、起点側端部の橋脚番号を入力する。

橋台・橋脚番号の付与方法については、「[3-1-9 基本定義 下部工 橋台・橋脚番号の付与方法](#)」を参照。

(13) 橋台・橋脚番号（至）

当該支間順序番号の下にある橋脚のうち、終点側端部の橋脚番号を入力する。

橋台・橋脚番号の付与方法については、「[3-1-9 基本定義 下部工 橋台・橋脚番号の付与方法](#)」を参照。

(14) 支間数

当該支間長が、同一で連続する支間の数を入力する。

(15) 支間長

当該支間順序番号の支点間距離が同一なグループの支点間距離(m)を入力する。

3-3-32 拡幅橋上部工概要

拡幅橋上部工概要は、当該橋梁における上部工の箇所番号毎に、床版や主桁等に関するデータを入力するものである。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) 【削除】

(9) 【削除】

(10) 【削除】

(11) 上部工しゅん功年月

当該上部工工事がしゅん功した日を入力する。

(12) 【削除】

(13) 床版種別

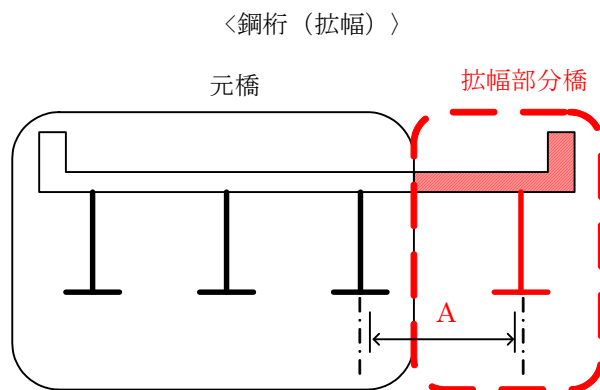
当該上部工の床版構造の主材料による分類をコードから選択して入力する。(RC床版、プレキャスト床版、鋼床版等)

ただし、PCI桁橋の場合は、RC床版とし、PCT桁橋の場合はPC床版とする。

(14) 床版支間

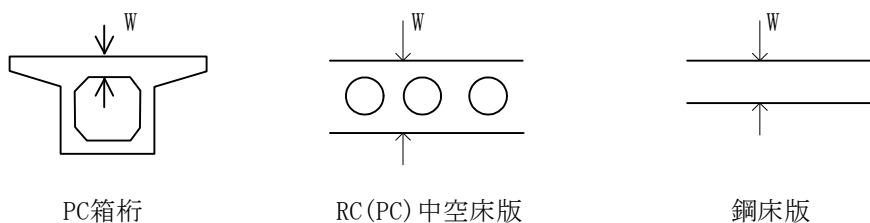
拡幅橋における床版支間とは、下図に示す箇所を標準とする。また、入力に際しては、「3-3-6. 上部工概要 (14) 床版支間の図を参考とすること。

- (a) 元橋の床版部を含めた床版支間幅「A」を入力する。
- (b) 床版支間が変化する場合、最大値を入力する。



(15) 床版厚

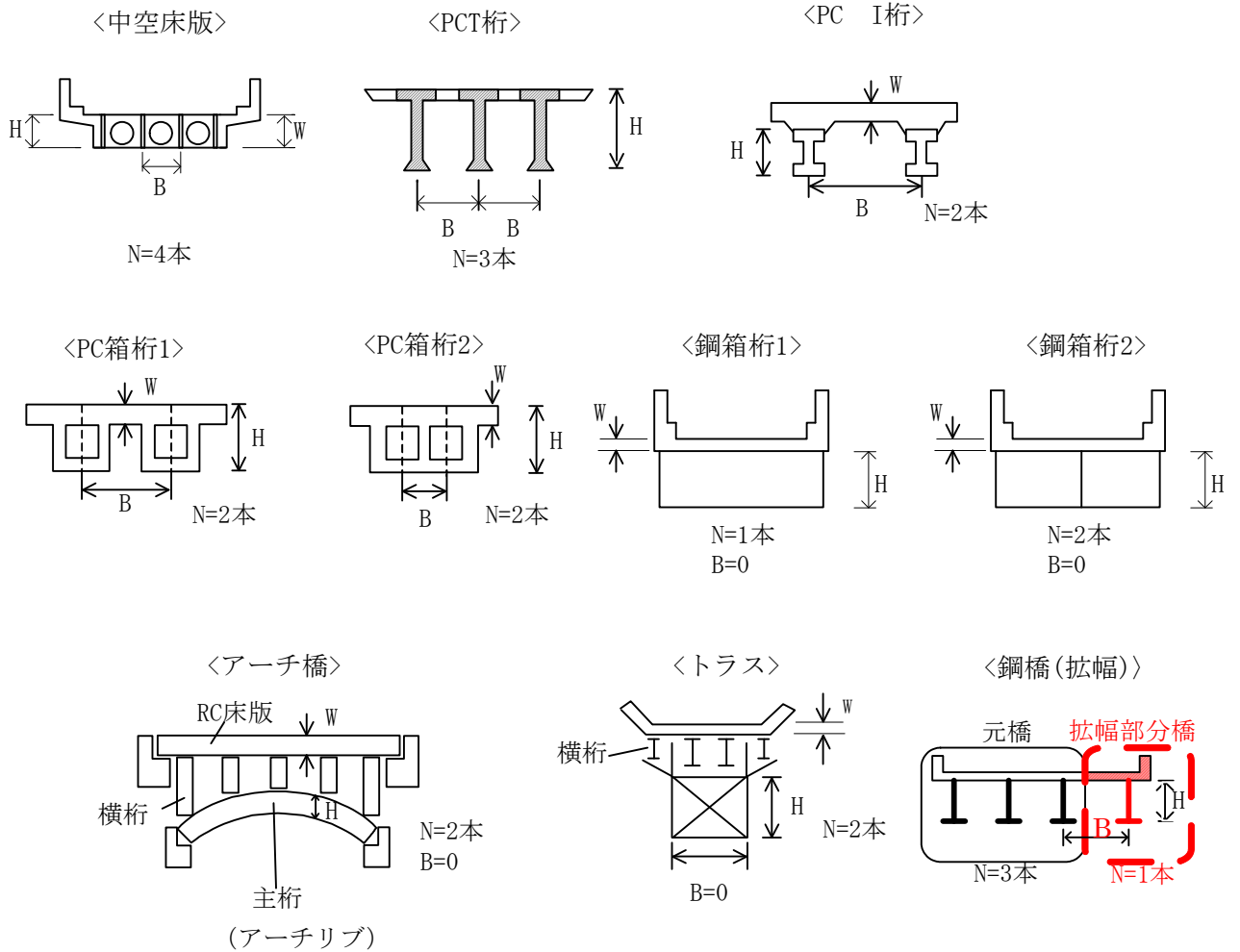
当該上部工の平均床版厚 (cm) を入力する。鋼床版厚の入力に限り (mm) 単位で入力する。三径間連続鉄桁等で支間毎に床版厚が変化する場合も平均の床版厚とする。



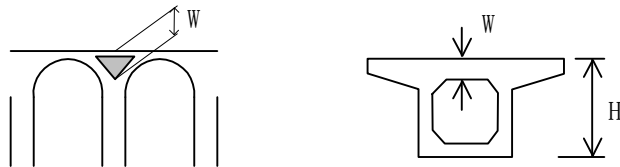
(16) 主桁高

当該上部工の最大主桁高 (m) を入力する。

主桁高さ (H)、主桁間隔 (B)、主桁本数 (N)、床版厚 (W)



- (a) 中空床版橋は、主桁 (H) と床版厚 (W) は同一でよい。
- (b) 拡幅部等主桁間隔が異なる場合は最大値を入力する。
- (c) 連続箱桁 (ディビダーク) 等、主桁高が変化している場合は最大値を入力する。
- (d) バチ型橋のときはその最大値を入力する。
- (e) アーチ橋で中詰土 (中詰土の上は舗装のみ) の場合の床版厚 (W) は「0」とする。
- (f) 充腹式アーチ橋の場合、アーチリブから舗装面までを桁高とする。



- (g) PC 合成桁の場合主桁高 (H) は主桁のみの高さとする。
- (h) PC 箱桁の場合主桁高 (H) は床版厚 (W) を含む。

(17) 主桁間隔

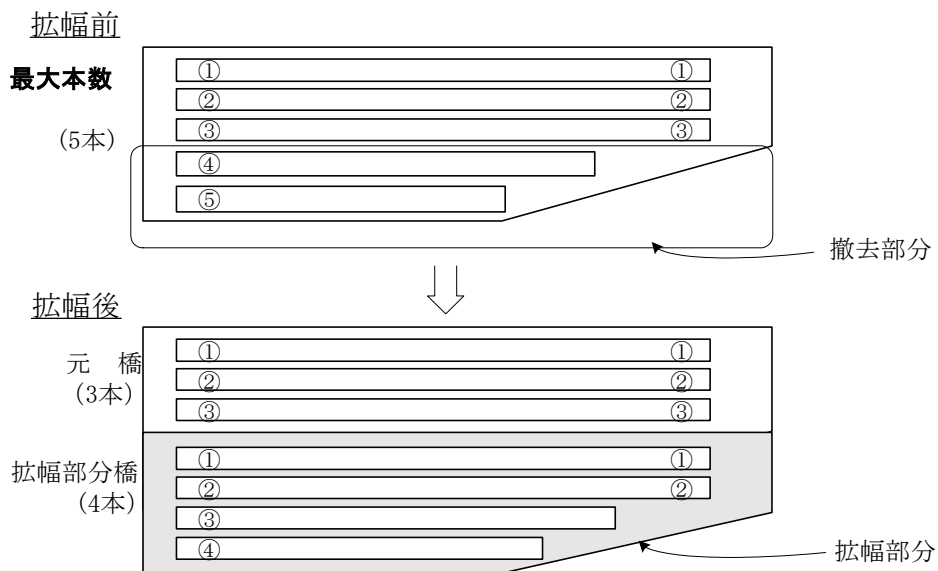
当該上部工の当該径間の最大主桁間隔 (m) を入力する。

前項目に示す「3-3-32. 拡幅橋上部工概要 (16) 主桁高」の図を参照のこと。

(18) 主桁本数

当該上部工(箇所番号)の当該径間の主桁本数を入力する。

主桁本数が増える場合、最大本数を入力する。



(19) 【削除】

(20) 【削除】

(21) 【削除】

(22) 補強桁の有無

当該径間で、建設時における補強桁の有無を入力する。

(23) 【削除】

(24) 【削除】

(25) 【削除】

(26) 【削除】

第7編 橋梁

(27) 【削除】

(28) 【削除】

(29) 【削除】

(30) 【削除】

(31) 【削除】

(32) 【削除】

(33) 【削除】

(34) 【削除】

(35) 【削除】

(36) 【削除】

(37) 【削除】

(38) 設計契約番号

当該上部工の詳細（最終）設計業務の発注契約番号を入力する。

(39) 施工契約番号

当該上部工の工事の発注契約番号を入力する。

(40) 【削除】



3-3-33 拡幅橋橋台橋脚番号

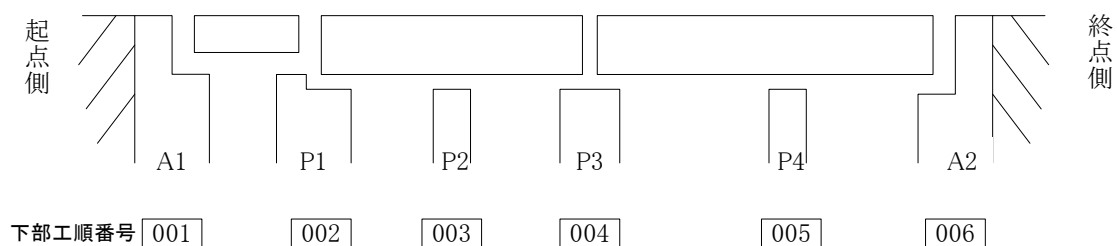
拡幅橋橋台橋脚番号は、各橋台・橋脚の所在地をデータ入力すものである。

- (1) 【削除】
- (2) 【削除】
- (3) 【削除】
- (4) 【削除】
- (5) 【削除】
- (6) 【削除】
- (7) 【削除】
- (8) 【削除】
- (9) 【削除】

(10) 下部工順番号

1 橋梁名の中で、起点側から下部工の順番を3桁の重複しない番号で入力する。  
番号の付与は、起点側から上下線区分毎の通番とする。

《番号の付与方法》



(11) 橋台・橋脚番号

橋台・橋脚番号の付与方法については、「3-1-9 基本定義 下部工 橋台・橋脚番号の付与方法」を参照。

(12) 橋台・橋脚名称

当該下部工に、設置されたプレートの内容・呼称・図面で使用している記号 (A1, P1, P2) 等を入力する。

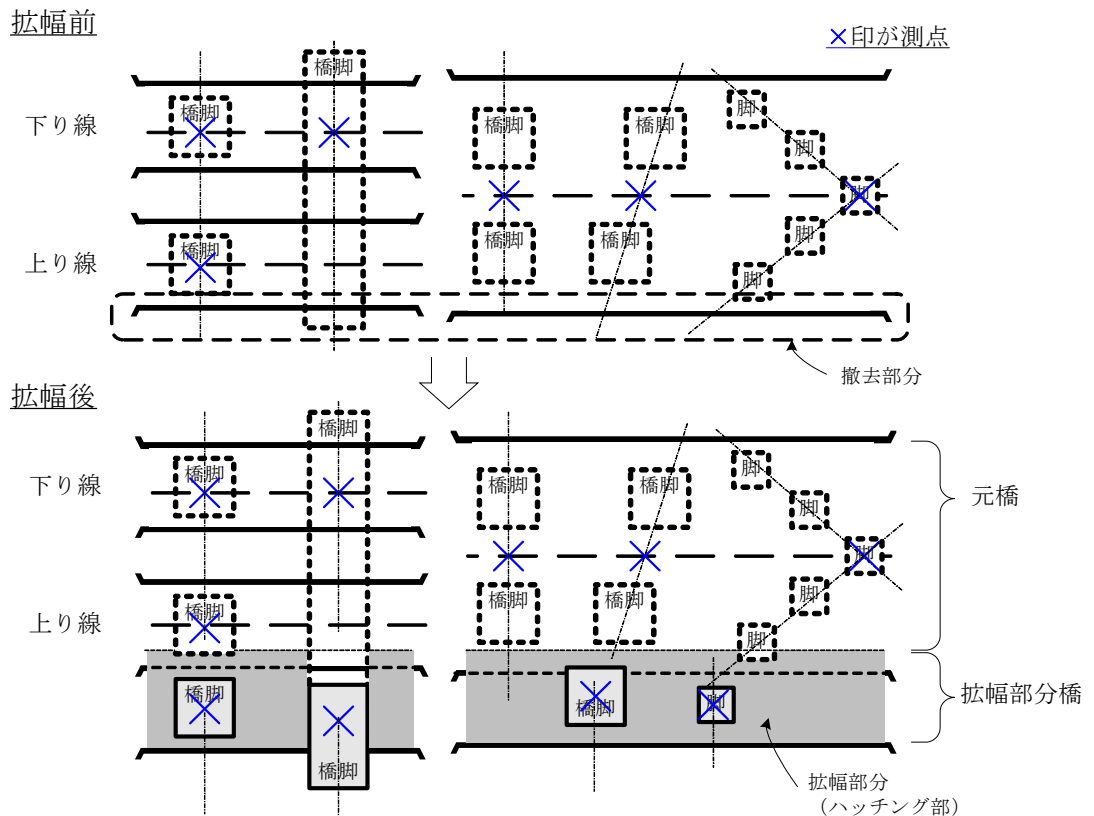
(13) 起点側箇所番号

当該下部工が支持する上部工の箇所番号を3桁までで入力する。掛違いとなる橋脚については、起点側の上部工の箇所番号を入力する。

(14) STA・KP・NO の測点作成方法

橋脚の測点位置は、天端の中心とするが、橋脚が複数ある場合は、橋脚天端の中心と道路の中心が交差する点を測点する。

建設時と補修時（供用後管理段階）では、測点の単位に相違があり、その測点の作成方法について示すものである。



(a) 建設時

建設時の測点は、STA を用いるものとするが、KP がわかる場合は、管理\_KP 及び管理\_NO についても作成する。

(ア) 建設\_STA

当該橋脚の測点を入力する。

(イ) 建設\_NO

当該橋脚がランプに存在する場合において測点を入力する。

(b) 補修時（供用後管理段階）

補修時の測点は、KP を用いるものとする。

(ア) 管理\_KP

当該橋脚の測点を入力する。

(イ) 管理\_NO

当該橋脚がランプに存在する場合において測点を入力する。

(15) 掛違い区分

当該橋脚と上部工との支持関係をコードから選択して入力する。（掛違い部、支間部）

(16) 下部工形式

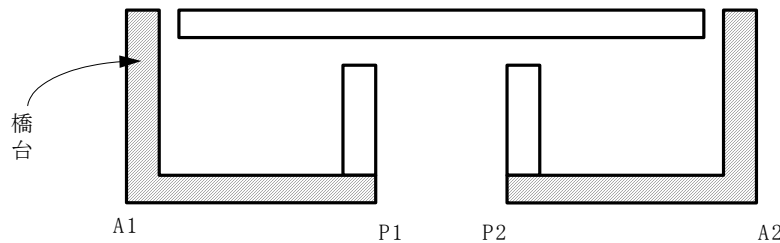
当該下部工の型式・形状をコードから選択して入力する。(重量式橋台、半重力式橋台、RC支柱式橋台等)

下部工形状により下表のケース毎に判断基準を定義するので、確認の上データ作成を行うこととする。

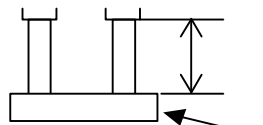
【 判断基準 】

項目	ケース
(a)	橋台と橋脚の分け方
(b)	橋脚形状による形式分類

(a) 橋台と橋脚の分け方



上図の場合には、橋台は斜線部とし、形式は「その他橋台」とする

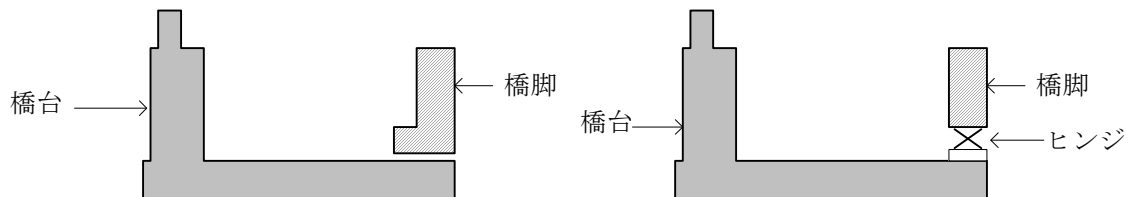


この区間で 上下線に分離（目地切り含む）していれば上・下線別々に計上する

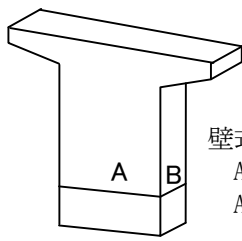
フーチングは上下共有とし下り線に上下線一体のデータを入力する  
(目地切りの場合は上・下線別々に計上)



: 橋台がこの様な場合は、フーチング部数量を全て0とする。

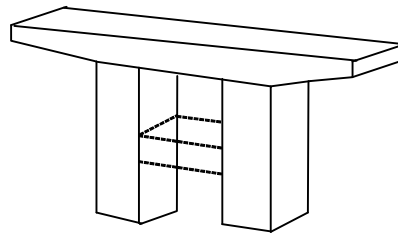


(b) 橋脚形状による形式分類

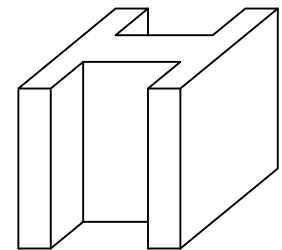


壁式橋脚

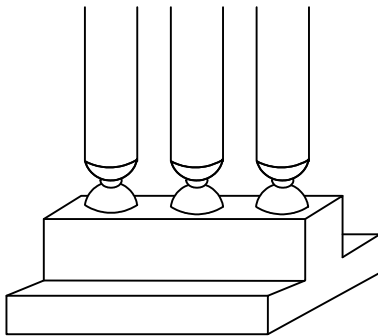
壁式と柱式の区分  
 $A/B \geq 4$ は壁式  
 $A/b < 4$ は柱式



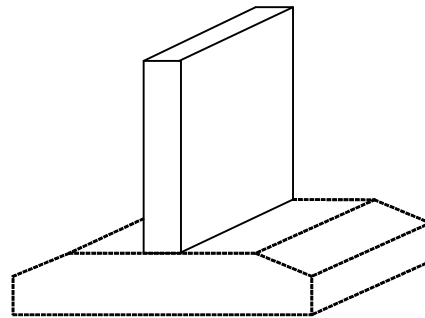
一層ラーメン脚部  
 (点線：二層ラーメン脚部)



I型断面橋脚



柱式ロッキング橋脚



壁式ロッカー橋脚

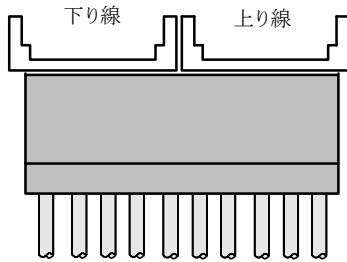
第7編 橋梁

(17) 下部工設置形態

当該下部工の設置形態をコードから選択して入力する。(上下線別、上下線共有(主)、上下線共有(従))

上下線共有の場合、下り線データ作成することから下り線の下部工設置形態は、上下線共有(主)とする。上り線の下部工設置形態は、上下線共有(従)とする。

A橋の場合



橋台橋脚番号入力

橋梁	上下線区分	橋台橋脚番号	下部工形式	下部工設置形態	基礎工形式	基礎工設置形態
A橋	下り線	P0002	壁式橋脚	上下線共有(主)	杭基礎	上下線共有(主)
A橋	上り線	P0002	壁式橋脚	上下線共有(従)	杭基礎	上下線共有(従)

下部工情報

橋梁	上下線区分	橋台橋脚番号	高さ	固定・可動	.....(以下省略)
A橋	下り線	P0002	10	固定	

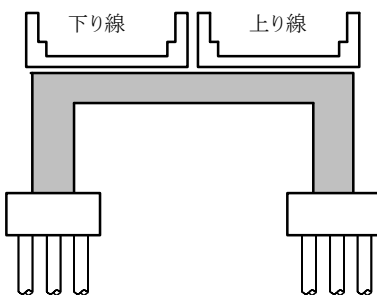
※上り線の下部工情報は、データ作成不要

基礎工情報

橋梁	上下線区分	橋台橋脚番号	杭長	杭径	杭本数	.....(以下省略)
A橋	下り線	P0002	60	500	10	

※上り線の基礎工情報は、データ作成不要

B橋の場合



橋台橋脚番号入力

橋梁	上下線区分	橋台橋脚番号	下部工形式	下部工設置形態	基礎工形式	基礎工設置形態
B橋	下り線	P0002	ラーメン橋脚	上下線共有(主)	杭基礎	上下線別
B橋	上り線	P0002	ラーメン橋脚	上下線共有(従)	杭基礎	上下線別

下部工情報

橋梁	上下線区分	橋台橋脚番号	高さ	固定・可動	.....(以下省略)
B橋	下り線	P0002	10	固定	

※上り線の下部工情報は、データ作成不要

基礎工情報

橋梁	上下線区分	橋台橋脚番号	杭長	杭径	杭本数	.....(以下省略)
B橋	下り線	P0002	60	500	3	
B橋	下り線	P0002	60	500	3	

(18) 基礎工形式

当該下部工の基礎形式をコードから選択して入力する。(直接基礎、RC 既製杭、RC 現場打杭、ケーソン等)

(19) 基礎工設置形態

当該基礎工の設置形態をコードから選択して入力する。(上下線別、上下線共有(主)、上下線共有(従)) 前項目の下部工設置形態の図参照。

3-3-34 拡幅橋下部工

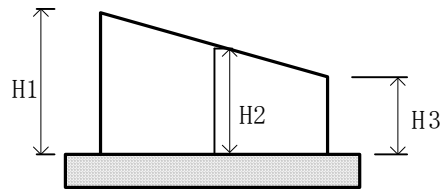
拡幅橋下部工は、「拡幅橋橋台橋脚番号」で示した下部工順番号毎に構造物に関するデータを入力するものである。

- (1) 【削除】
- (2) 【削除】
- (3) 【削除】
- (4) 【削除】
- (5) 【削除】
- (6) 【削除】
- (7) 【削除】
- (8) 【削除】
- (9) 【削除】
- (10) 【削除】

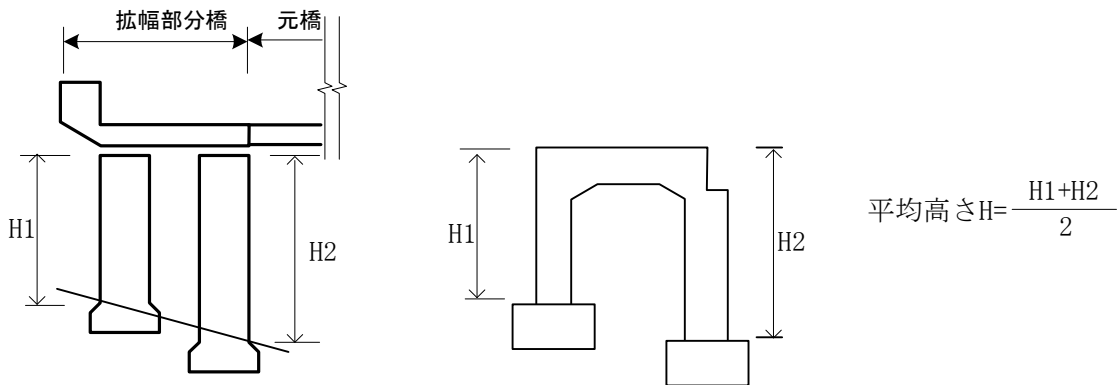
(11) 平均高さ

平均の高さは、フーチング上面より橋脚・橋台の躯体部天端までの高さ (m) を入力する。  
 複柱の場合も各支柱の高さを合計し、平均したものを入力する。

拡幅橋台部



下図のように 2 つの橋脚がある場合は、フーチングの上端から橋脚天端までの高さを平均したものとする。



(12) 固定可動

当該下部工に設置されている支承の条件をコードから選択し入力する。

連続箱桁 (PC 片持施工) のときは、固定、掛違いの橋脚のときは固定・可動いずれの場合もそれぞれに入力する。

掛違い箇所において、橋名が同じ場合、異なる場合いずれにおいても (a) ~ (c) の入力方法とし 1 橋脚につき 1 件若しくは 2 件のデータを入力する。

ラーメン橋脚等の特殊な場合 (1 橋脚において支承が 3 点以上存在するもの) については、(d)、(e) の入力方法とする。

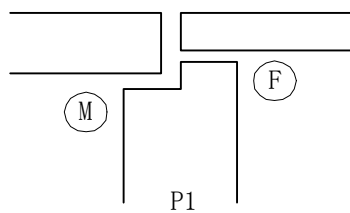
固定可動コードは、下表のケース毎に判断基準を定義するので、確認の上データ作成を行うこととする。

【 判断基準 】

号	ケース
(a)	固定+可動の場合
(b)	固定+固定の場合
(c)	可動+可動の場合
(d)	一橋名の橋梁の場合
(e)	橋梁名が異なる場合



(a) 固定+可動の場合



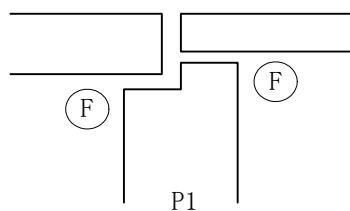
橋台橋脚番号 「P0001」  
 固定・可動コード 「固定」 + 「可動」

固定・可動コード

固定	剛結	弾性+弾性
可動	剛結+可動	弾性+固定
固定+固定	剛結+固定	弾性+可動
可動+可動	弾性	弾性+剛結
固定+可動		剛結+剛結

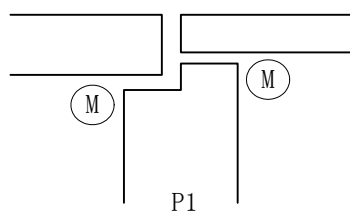
「免震支承：E」は、「弾性」とする。

(b) 固定+固定の場合



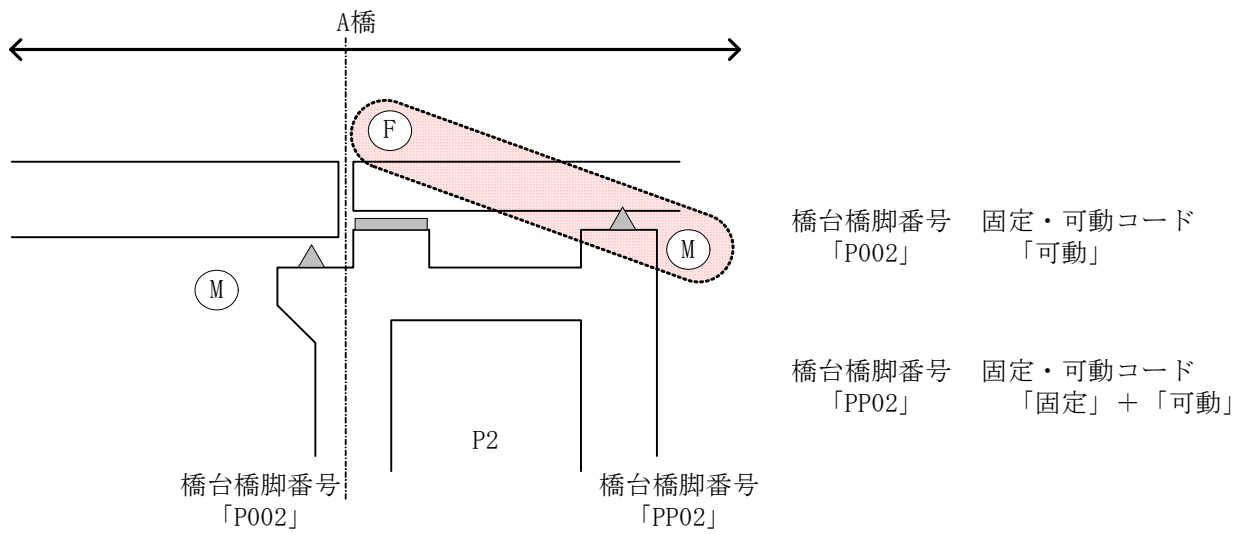
橋台橋脚番号 「P001」  
 固定・可動コード 「固定」 + 「固定」

(c) 可動+可動の場合

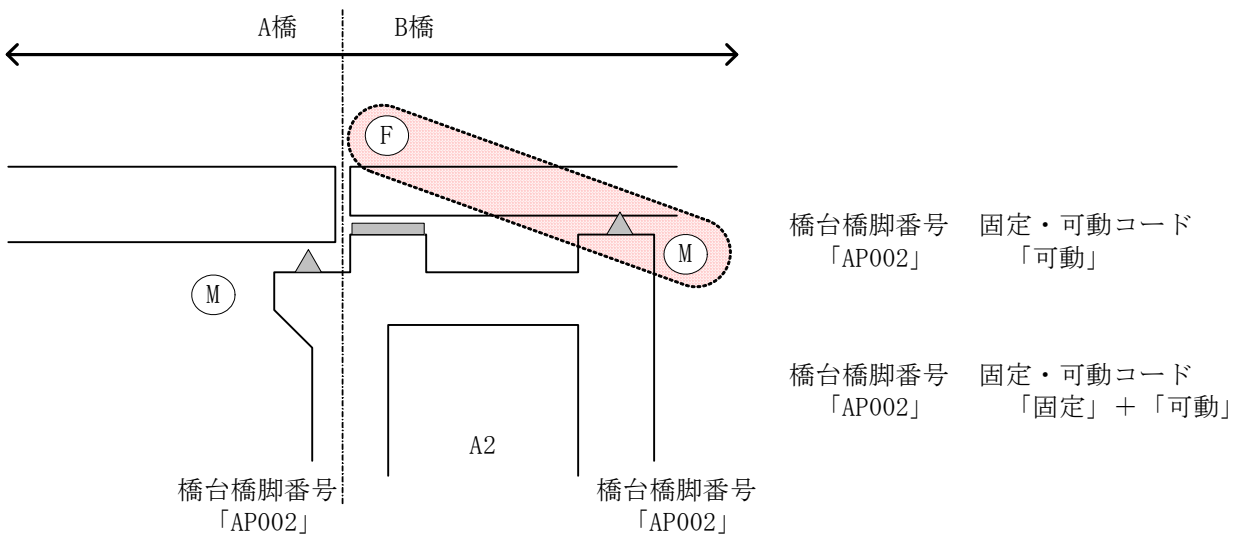


橋台橋脚番号 「P001」  
 固定・可動コード 「可動」 + 「可動」

(d) 一橋名の橋梁の場合



(e) 橋梁名が異なる場合



(13) 示方書年度

当該橋梁の下部工設計に適用した技術基準「道路橋示方書（日本道路協会）」の版年度を入力する。

(14) 【削除】

(15) 【削除】

(16) 【削除】

(17) 【削除】

(18) 【削除】

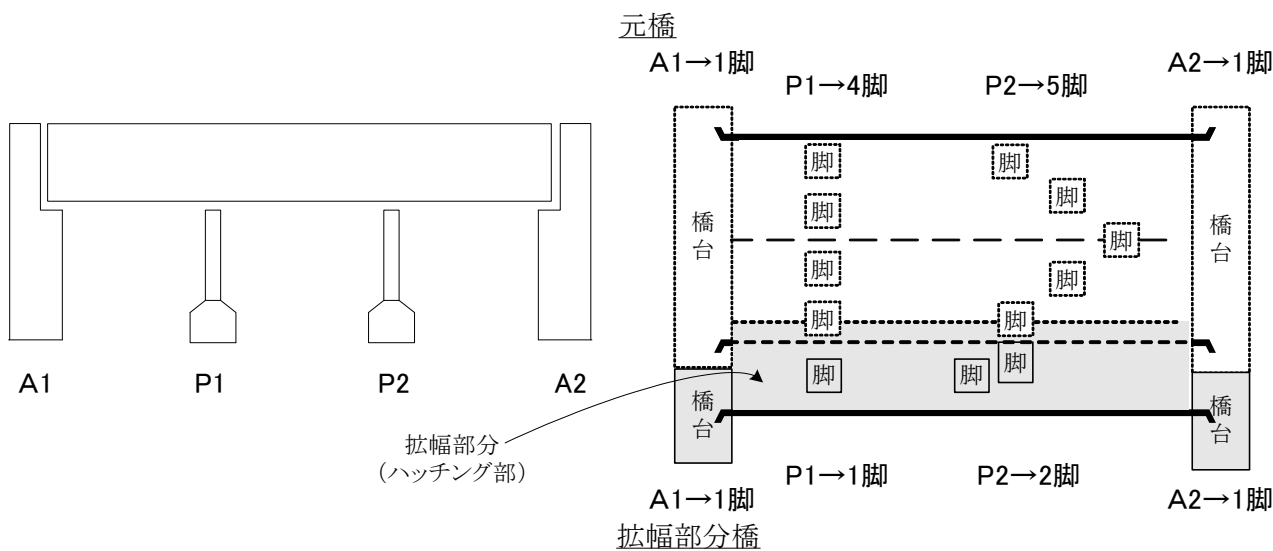
(19) 【削除】

(20) 【削除】

(21) 【削除】

(22) 柱本数

当該下部工の横断方向に並列する支柱本数を入力する。



(23) 【削除】

(24) 【削除】

(25) 【削除】

(26) 【削除】

(27) 【削除】

(28) 【削除】

(29) 基数

下部工(フーチング)の基数を入力する。

第7編 橋梁

(30) 【削除】

(31) 【削除】

(32) 【削除】

(33) 【削除】

(34) 【削除】

(35) 【削除】

(36) 【削除】

(37) 【削除】

(38) 下部工しゅん功年月  
当該下部工工事のしゅん功年月を入力する。

(39) 設計契約番号  
当該下部工の詳細（最終）設計業務の発注契約番号を入力する。

(40) 施工契約番号  
当該下部工工事の発注契約番号を入力する。

(41) 【削除】

(42) 備考  
当該下部工での留意事項等を入力する。

## 3-3-35 拡幅橋基礎工

拡幅橋基礎工では、下部工のうち杭基礎、ケーソン基礎について入力する。

(1) 【削除】

(2) 【削除】

(3) 【削除】

(4) 【削除】

(5) 【削除】

(6) 【削除】

(7) 【削除】

(8) 【削除】

(9) 【削除】

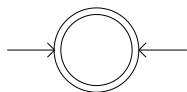
(10) 【削除】

(11) 杭基礎（杭長平均）

当該基礎工（杭基礎）の施工で用いた杭の平均延長（m）を入力する。フーチングの底面からの杭延長とする。

(12) 杭基礎（杭径）

当該基礎工（杭基礎）の施工で用いた杭の標準杭径（mm）を入力する。杭径が2種類以上ある場合、代表的なものを入力する。



(13) 杭基礎（内径）

当該基礎工（杭基礎）の施工で用いた杭の標準内径（mm）を入力する。



## 第7編 橋梁

- (14) 杭基礎（本数）  
当該基礎工（杭基礎）の施工で用いた杭の本数を入力する。
- (15) 【削除】
- (16) 【削除】
- (17) ケーソン（寸法橋軸方向）  
当該基礎工（ケーソン）の橋軸方向の幅（m）を入力する。
- (18) ケーソン（寸法橋軸直角方向）  
当該基礎工（ケーソン）の橋軸直角方向の幅（m）を入力する。
- (19) 【削除】
- (20) 【削除】
- (21) 【削除】
- (22) 設計契約番号  
当該箇所の詳細（最終）設計業務の発注契約番号を入力する。
- (23) 施工契約番号  
当該箇所の工事の発注契約番号を入力する。